JAPAN GAMES

昭和100年

2026 AOMORI

青の煌(きら)めきあおもり国スポ



公式マスコット
「アップリート君」

第80回国民スポーツ大会
ソフトテニス競技会

会　期　10.16(金) - 19(月)

会　場　新青森県総合運動公園テニスコート

主　催　公益財団法人日本スポーツ協会・文部科学省・青森県・公益財団法人日本ソフトテニス連盟・青森市

第80回国民スポーツ大会
The 80th JAPAN GAMES

国民スポーツ大会（国スポ）は、都道府県対抗で毎年開催される国内最大のスポーツの祭典です。本県での開催は、前回のあすなろ国体(※)以来49年ぶりであり、前回同様、冬季大会と本大会を同一県で開催する「完全国スポ」です。

※2024年から「国民体育大会」の名称が「国民スポーツ大会」に変わりました。

あすなろ国体とは？

昭和52年、青森県で国体史上初となる完全国体（冬・夏・秋と3季にわたり行われる大会を同一県で実施した国体）として、第32回国民体育大会（あすなろ国体）が県内各地で華々しく開催され、本県は天皇杯を獲得しました。



大会愛称

青の煌めきあおもり国スポ

青い空、青い海や湖、青い山並みなど美しく豊かな自然に恵まれた青森県で、あおもり国スポに参加する全ての人々が、交流を深め、感動を創出し、いきいきと煌めくような大会を目指します。

スローガン

翔けろ未来へ縄文の風に乗って

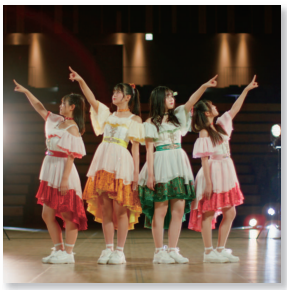
縄文時代の遺跡が数多く存在する青森から、新たな歴史と感動を全国に向けて発信し、未来につなげていきたいという願いを込めています。

イメージソング「翔けろ未来へ」



作詞：井元 仁江
作曲：T.Mikami
編曲：多田 慎也、島田 尚
歌唱：りんご娘
（ピンクレディ、スターキングデリシャス、はつ恋ぐりん、金星）

ダンス「青の煌めきダンス」



イメージソング「翔けろ未来へ」にあわせ、振付けに青森県を表現するポーズやねぶたの跳人の動き、手話による表現などを盛り込んだ、青森らしいユニバーサルデザインダンスです。

公式マスコット



「アップリート君」

特徴ある県の形と、ハチマキの中央にある「りんご」で青森県を表現しています。

LINEスタンプも販売！

最新情報は公式アプリ・HP・SNSで！

公式アプリ

Download on the App Store　GET IT ON Google Play

あおもり国スポ　検索

今すぐ無料ダウンロード！

公式HP　X　YouTube

目　　次

あ　い　さ　つ

大　会　会　長　　遠　藤　利　明 …… 1

文部科学大臣　　松　本　洋　平 …… 2

(公財)日本ソフトテニス連盟会長　　加　藤　勝　信 …… 3

歓迎のことば

青森県知事　　宮　下　宗一郎 …… 4

青　森　市　長　　西　　秀　記 …… 5

青森県ソフトテニス連盟会長　　今　井　正　樹 …… 6

国民スポーツ大会天皇杯・皇后杯授与規程 …… 7

国民スポーツ大会会長トロフィー授与規程 …… 8

大　会　役　員 …… 9

競技会役員 …… 13

競　技　役　員 …… 15

競技補助員、競技会係員、競技会補助員(ボランティア) …… 17

実施要項総則 …… 18

ソフトテニス競技実施要項 …… 37

表彰式次第 …… 41

競技日程・会議日程 …… 42

ソフトテニス競技組合せ表 …… 43

競技進行表 …… 47

競技の見方 …… 49

都道府県別参加人員一覧表 …… 51

監督･選手一覧表 …… 52

総合成績決定方法 …… 62

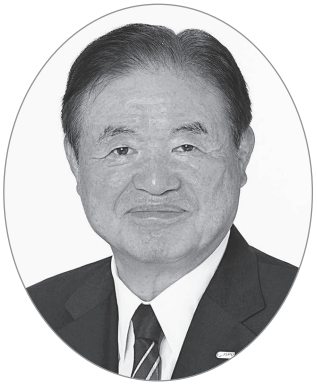
男女総合成績（天皇杯得点）・女子総合成績（皇后杯得点）一覧表 …… 63

過去の成績一覧表 …… 64

会場案内図 …… 71

アクセスマップ …… 73

関係機関連絡先一覧 …… 74



あ い さ つ

公益財団法人日本スポーツ協会
会 長　遠 藤 利 明

はじめに、本年７月 28 日に発生した令和８年熊本地震により亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げます。また、同地震及び昨年 12 月 8 日に発生した青森県東方沖地震により被災された皆様に謹んでお見舞い申し上げ、一日も早い復興と皆様のご健康を心からお祈りいたします。

第 80 回国民スポーツ大会は、本年１月から２月に行われた冬季大会と併せ、「完全国スポ」として開催いたします。

第 71 回岩手大会以来、10 年ぶりとなる「完全国スポ」を締めくくる本大会が、縄文の時代から育まれてきた歴史と文化を有し、豊かな風土に恵まれた本州最北の地、ここ青森県において開催されますことは、誠に意義深いことであります。

本年は、第25回オリンピック冬季競技大会（ミラノ・コルティナ）、サッカーFIFA ワールドカップ 2026、第20回アジア競技大会（愛知・名古屋）などの大規模な国際総合競技大会が開催され、多くのアスリートの目覚ましい活躍が、私たちに大きな勇気を届けています。

本大会が「翔けろ未来へ縄文の風に乗って」というスローガンの通り、出場するアスリートの皆様にとって、世界へ羽ばたく契機となることを切に願っています。

さて、日本スポーツ協会では、「有識者会議」からの提言に基づき、令和７年７月、改革を具体的に進める組織として、「国スポ改革タスクフォース」を設置しました。

今後、現状と課題を分析し、国民スポーツ大会が競技性・祝祭性・社会性・文化性を掛け合わせた、「トップアスリートと地域スポーツの好循環　～人と地域の未来を創る～」という理念を具現化できる大会となるよう、検討を進めているところです。

結びに、地震からの復旧に取り組みながら、本大会の開催にあたり諸準備にご尽力いただきました 青森県をはじめ、関係の皆様方のご支援、ご協力に対し心から深く感謝申し上げます。



あ い さ つ

文部科学大臣
松本　洋平

はじめに、令和８年熊本地震によりお亡くなりになられた方々に哀悼の意を表するとともに、被災された全ての方々に心からお見舞い申し上げます。

文部科学省としては、被災された熊本県をはじめとする自治体への支援に全力を挙げて取り組んでまいります。

天皇皇后両陛下の御臨席を仰ぎ、ここ青森県において昭和１００年記念 第８０回国民スポーツ大会「青の煌めきあおもり国スポ」が盛大に開催されますことを、誠に喜ばしく存じます。

青森県は、世界自然遺産の「白神山地」、四季折々の表情を見せる「八甲田山」や「岩木山」など豊かな自然の魅力にあふれ、世界文化遺産である「北海道・北東北の縄文遺跡群」や重要無形民俗文化財である「青森のねぶた」など、自然と文化が息づく県です。

昭和５２年のあすなろ国体以来４９年ぶりの青森県での開催となり、「翔けろ未来へ縄文の風に乗って」をスローガンに、県全域を舞台に熱戦が繰り広げられます。

本大会は、史上初となる総合開会式・閉会式の屋内開催に加え、大会公式アプリによる競技情報や結果速報の提供、デジタルチケットの活用などデジタル技術の活用により、選手と観客双方に配慮した大会運営となっています。「青の煌めきあおもり国スポ」が、国民に夢と感動を与え、青森県の魅力発信と活性化につながる大会となりますことを心から願っております。

郷土の代表として参加される選手の皆さんが、積み重ねてこられた練習の成果を思う存分発揮され、我が国の国際競技力の向上が図られるとともに、この機会に全国の仲間や青森県民の皆さんとの交流を通じて、思い出に残る大会となりますことを期待しております。

昨年度は、東京２０２５世界陸上競技選手権大会、第２５回夏季デフリンピック競技大会東京２０２５、ミラノ・コルティナ２０２６冬季オリンピック・パラリンピック競技大会が、今年度は、愛知・名古屋において、第２０回アジア競技大会、第５回アジアパラ競技大会が開催され、国民のスポーツへの関心はますます高まっているところです。

文部科学省としましても、アスリートや子供たちの活動の機会を確保し、スポーツの持つ力やすばらしさが社会の活力につながるよう、関係の皆様と一丸となって取組を進めてまいります。

結びに、「青の煌めきあおもり国スポ」の開催に当たり御尽力いただいた地元青森県、会場となる各市町村をはじめとする関係の皆様の御支援、御協力に対し、心から敬意と感謝の意を表しまして、御挨拶といたします。

（令和８年７月３１日現在）



ご あ い さ つ

公益財団法人　日本ソフトテニス連盟
会 長　加 藤　勝 信

はじめに、令和8年熊本地震によりお亡くなりになられた方々に哀悼の意を表するとともに、被災された全ての方々に心からお見舞い申し上げます。

第 80 回国民スポーツ大会ソフトテニス競技会が、「翔けろ未来へ縄文の風に乗って」のスローガンのもと、「青の煌めきあおもり国スポ 2026」として、青森県青森市において開催できますことは、このうえない喜びであります。

国民スポーツ大会ソフトテニス競技会は、我が国のトッププレーヤーが参加する都道府県対抗の団体戦であり、毎年全国各地から選び抜かれた選手によるハイレベルな熱戦が繰り広げられる、国内最高峰の大会です。選手の皆さんには、ふるさとの代表であることに誇りを持ち、スポーツマンシップとフェアプレーの精神を大切に、これまで積み重ねてこられた努力の成果を遺憾なく発揮されることを期待いたします。

開催地である青森市は、豊かな自然と歴史・文化に恵まれた魅力あふれる都市です。世界文化遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」をはじめとする悠久の歴史を有するとともに、四季折々の美しい自然に囲まれています。このような素晴らしい環境のもとで競技が行われることは、大変意義深いことであります。選手の皆さんには、開催地の魅力にも触れながら、ソフトテニスを通じて交流と友情を深め、競技ができる環境への感謝と、対戦相手や大会を支えてくださる方々への敬意を忘れることなく大会に臨んでいただきたいと思います。

最後になりましたが、本大会の開催にあたり、ご支援、ご協力を賜りました青森県、青森市、青森県ソフトテニス連盟をはじめとする関係各位に深甚なる敬意と感謝を申し上げ、本大会の成功を祈念し、ごあいさつといたします。



歓迎のことば

青森県知事　宮下宗一郎（みやした そういちろう）

はじめに、令和8年熊本地震によってお亡くなりになられた方々に、深く追悼の意を表しますとともに、御遺族と被害に遭われた方々に心からお見舞い申し上げます。

昭和100年記念青の煌（きら）めきあおもり国スポ「第80回国民スポーツ大会」が昭和元年（1926年）から起算して満100年の節目となる年に、天皇皇后両陛下の御臨席を仰ぎ、青森県において開催されますことをお喜び申し上げます。そして、全国各地からお越しくださいました選手及び関係者の皆様を、県民を代表して心から歓迎いたします。

「青の煌（きら）めきあおもり国スポ」は、史上初の完全国体である「あすなろ国体」以来49年ぶりとなる青森県での開催であり、国民体育大会から国民スポーツ大会に大会名称が変更されてから、初の“完全国スポ”となります。

「翔けろ未来へ縄文の風に乗って」のスローガンのもと、美しく豊かな自然の恵みを受けながら、一万年以上にわたり縄文文化が営まれていたこの青森の地で生まれる新たな歴史と感動、そしてこれを希望ある未来へつなげていきます。

“スポーツで青森県が一つ”に、“私たち県民の心がスポーツで一つ”になる、「青森新時代」の大会を目指し、県民総参加で青森県を青の煌（きら）めき一色に染め上げ、スポーツの祭典を盛り上げたいと考えています。

選手の皆様には、日々の練習で培ったパフォーマンスを存分に発揮されますとともに、感動と温かい交流にあふれ、皆様の心に残る最高の大会となることを願っています。

結びに、今大会の開催に御尽力されました関係者の皆様に心から感謝を申し上げるとともに、今大会の成功と選手の皆様の御健闘をお祈りし、歓迎のことばといたします。



歓迎のことば

青の煌(きら)めきあおもり国スポ・障スポ青森市実行委員会会長
青森市長　西(にし)　秀(ひで)　記(き)

第８０回国民スポーツ大会「青の煌(きら)めきあおもり国スポ」の歓迎のあいさつに先立ち、このたびの令和８年熊本地震及び令和８年８月千葉豪雨により亡くなられた方に深く哀悼の意を表しますとともに、被災された皆様に対し、心よりお見舞いを申し上げます。本大会において選手の皆様がひたむきに競技に臨む姿が、多くの方々に感動と希望を届け、被災地の一日も早い復旧・復興への力となりますことを切に願っております。

第８０回国民スポーツ大会「青の煌(きら)めきあおもり国スポ」は、昭和５２年の「あすなろ国体」以来、青森県で４９年ぶり２度目の開催となります。国体から国スポへの名称変更後、初の完全国スポとなる大会であり、青森市にてソフトテニス競技をはじめとする１４競技１９種目の正式競技を開催できますことを大変嬉しく思います。また、全国各地からお越しいただく選手や監督、関係者の皆様を、青森市民を代表して心より歓迎いたします。

本市では、スポーツを通じた交流人口の拡大により地域活性化を図る取組を進めており、青森駅周辺の歓迎装飾や各競技会場の応援のぼり旗など、全国から来訪される方々を青森らしい心のこもったおもてなしでお迎えできるよう、市民一丸となって準備してまいりました。

出場される選手の皆様におかれましては、これまで積み重ねてきた努力の成果を存分に発揮し、最高のパフォーマンスを披露されますことを期待しております。

また、大会期間中には、子どもたちがスポーツの楽しさや素晴らしさを体感できる機会づくりを進めることとしており、本大会が多くの方にとって心に残る実り多き大会となることを願っております。

さて、青森市には、静穏な陸奥湾、雄大な八甲田連峰などの豊かな自然のほか、日本を代表する火祭り「青森ねぶた祭」の歴史や魅力を体感できる「ねぶたの家ワ・ラッセ」や、世界遺産にも登録された「三内丸山遺跡」、「小牧野遺跡」など、文化や歴史を感じられる施設が数多くあります。また、全国的にも有名なりんごや新鮮な海の幸など、豊富な食材にも恵まれております。ぜひこの機会に本市の多彩な魅力を堪能していただければ幸いです。

結びに、本大会の開催に当たり御尽力いただいた関係者の皆様に深く感謝申し上げますとともに、選手の皆様の御活躍を心より祈念いたしまして、歓迎のことばといたします。



歓迎のことば

青森県ソフトテニス連盟
会 長 今井 正樹

はじめに、令和8年熊本地震によりお亡くなりになられた方々に哀悼の意を表するとともに、被災された全ての方々に心からお見舞い申しあげます。

「翔けろ未来へ縄文の風に乗って」のスローガンのもと、第 80 回国民スポーツ大会「青の煌めきあおもり国スポ」ソフトテニス競技会が全国各地から厳しい予選を勝ち抜かれて参加されます選手・監督の皆様をお迎えして、ここ青森市の新青森県総合運動公園テニスコートにおいて開催されますことは、このうえない喜びであり、青森県ソフトテニス連盟を代表して心より歓迎申しあげます。

本大会は、昭和 52 年(1977 年)国体史上初となる完全国体として開催された第 32 回国民体育大会「あすなろ国体」以来、実に 49 年ぶり2巡目の大会であり、大会名も佐賀大会から名称を国民スポーツ大会と替え3年目の開催となります。

各地区の厳しい予選を勝ち抜いてこられた選手の皆様には、郷土の期待に応えるべく日頃の練習で鍛えられた体力、精神力を遺憾なく発揮され、それぞれの目標に向かってチームワークの良さと闘志あふれる素晴らしいプレーを繰り広げられることを期待しております。

また、本県では 18 年前(平成 20 年度)から「グッドマナーとフェアプレーを推進しましょう！」のキャッチフレーズのもとに、大会全体のマナーアップに取り組んでおります。

本大会に参加された選手の皆様が他の選手の模範となり、すばらしいスポーツマンシップを発揮されますとともに、大会に関係する全ての皆様のご協力により、大会全体のマナーアップが図られることを心から念願いたします。

そして選手の皆様がチーム相互の交流を深められ、青い海「陸奥湾」の新鮮な海の幸、青い森「八甲田山」の雄大なパノラマ、いにしえのロマンあふれる「三内丸山遺跡」など、青森市の文化、自然、人情に触れていただき、思い出多い大会になりますようお祈り申しあげます。

終わりに、本大会の開催にあたり、多大のご支援、ご協力を賜りました関係者の皆様に心より感謝申しあげるとともに、選手の皆様のご健闘を心より祈念いたしまして歓迎のことばといたします。



天皇杯　　皇后杯

国民スポーツ大会天皇杯・皇后杯授与規程

第１条　国民スポーツ大会開催基準要項第 11 項に基づき、天皇杯は、男女総合成績第１位の都道府県、皇后杯は、女子総合成績第１位の都道府県に授与する。

２　第１位が２都道府県以上の場合は、当該都道府県で共有する。

第２条　天皇杯及び皇后杯は、総合閉会式に授与し、次回の総合開会式において返還する。

第３条　天皇杯又は皇后杯を授与された都道府県は、次の各項の義務を有する。

(1)　信託会社又は確実な金庫に保管する。

(2)　破損、紛失等の場合は、当該都道府県の責任とする。

(3)　公益財団法人日本スポーツ協会が優勝都道府県名刻印のため又はその他の必要により一時返還を求めた場合は、これに応じなければならない。

第４条　本規程の改廃は、国民スポーツ大会委員会の決議を経て行う。

附　則　本規程は、昭和 41 年４月　１日制定
昭和 45 年１月 22 日一部改定
昭和 48 年７月 10 日一部改定
昭和 54 年５月　９日一部改定
平成 17 年６月 16 日一部改定
平成 22 年３月 17 日一部改定

本規程は、公益財団法人日本体育協会の設立の登記の日（平成 23 年４月１日）から施行する。

平成 30 年４月　１日一部改定
令和　６年１月　１日一部改定



大会会長トロフィー

国民スポーツ大会会長トロフィー授与規程

第１条　国民スポーツ大会開催基準要項第 11 項に基づき、国民スポーツ大会会長トロフィー(以下「大会会長トロフィー」という。)は、正式競技別男女総合成績第１位の都道府県に授与する。

２　第１位が２都道府県以上の場合は、当該都道府県で共有する。

第２条　大会会長トロフィーは、競技会表彰式に授与し、次回競技会において返還する。

第３条　大会会長トロフィーを授与された都道府県は、次の各項の義務を有する。

(1)　責任をもって保管する。

(2)　破損、紛失等の場合は当該都道府県の責任とする。

(3)　優勝の刻印を次回大会までに行なうものとする。ただし､第１条第２項の場合は､当該都道府県で協議して決めるものとする。

(4)　公益財団法人日本スポーツ協会が必要により一時返還を求めた場合は､これに応じなければならない。

第４条　本規程の改廃は、国民スポーツ大会委員会の決議を経て行う。

附　則　本規程は、昭和 41 年４月　１日制定
昭和 45 年１月 22 日一部改定
昭和 48 年７月 10 日一部改定
昭和 54 年５月　９日一部改定
平成 17 年６月 16 日一部改定

本規程は、公益財団法人日本体育協会の設立の登記の日（平成 23 年４月１日）から施行する。
平成 30 年４月　１日一部改定
令和　６年１月　１日一部改定

大会役員

2026年7月31日現在
（順不同・敬称略）

名誉会長	松本　洋平			
会長	遠藤　利明			
副会長	益子　直美	田中　不二夫	三宮　恵利子	森岡　裕策
	河合　純一	宮下　宗一郎		
顧問	森　喜朗	安西　孝之	岡崎　助一	越川　均
	坂元　要	勝田　隆	飯塚　悟	池田　めぐみ
	石井　砂織	植田　実	浦　美奈子	笠師　久美子
	鹿島　丈博	木平　芳定	工藤　保子	久保　正美
	小寺　洋	櫻井　由香	中嶋　実	橋本　聖子
	村松　さやか	室伏　由佳	湯川　和之	吉岡　成子
	久保　直生	藤田　裕司	藤原　誠	室城　信之
	金子　日出澄	貝瀬　智洋	森　晃	土橋　登志久
	石丸　元国	多氣　洋平	井﨑　洋志	鬼頭　有紀子
	長谷川　洋子	吉田　長寿	齋木　尚子	多賀　恒雄
	安藤　淳	上治　丈太郎	湧永　寛仁	三宅　秀一郎
	佐藤　健司	馬場　美香	堺　充廣	南　和文
	宮永　美寿津	千田　健一	中里　壮也	岡本　友章
	大野　淳	永谷　喜一郎	田村　恒彦	蒔田　実
	山﨑　勝洋	浅見　敬子	山口　徹正	田中　伸周
	村田　利衛	建部　彰弘	市野　保己	丸石　博
	中村　ゆり子	齋藤　良太郎	谷田部　和彦	木村　博美
	井上　弘	今川　啓一	近藤　重和	池谷　正成
	大澤　明美	古城　資久	小野　賢二	園山　和夫
	中山　俊行	田中　徹	知念　かおる	出口　弘之
	田邊　哲人	城門　政文	前川　恵	園田　義宜
	布村　幸彦	川原　元則	生島　典明	大沢　陽子
	谷藤　節雄	中村　伸彦	千葉　玲佳	奥山　雅信
	酒井　祐一	藤田　知巳	北條　俊明	田子　昌之
	新井　彰	山﨑　成夫	塩見　清仁	田名部　高雄
	井出　仁	今西　博一	中村　宏平	新保　暢
	森山　喜博	横山　幹夫	花崎　武彦	髙橋　繁浩
	山本　健次	増田　和伯	藤堂　寛	山本　誠三
	松本　恭幸	東　直也	奥田　晃	横尾　英治

小西 慎太郎	近藤 一幸	堂本 ひさ美	河村 祐一
渡邊 浩三	田中 稔	高岡 晃仁	青木 章泰
城戸 英敏	小柳 勝彦	辛木 秀子	宮成 康蔵
若林 繁幸	岩元 幸成	平良 朝治	藤原 正樹
新宮 領毅	川上 隆弘	佐藤 廣子	奈良 隆
小菅 司	宇津木 妙子	菊 幸一	小林 久美
寺澤 正孝	山口 純子	中村 裕之	小林 茂樹
清水 真人	福田 かおる	増子 宏	矢野 和彦
柿田 恭良	茂里 毅	浅野 敦行	津島 淳
神田 潤一	木村 次郎	江渡 聡徳	田名部 匡代
福士 珠美	山中 泉	工藤 慎康	風張 知子
横町 俊明	西 秀記	濱舘 豊光	尾﨑 寿一
鈴木 進	三本木 温	有森 裕子	鈴木 大地
宮本 恒靖	深澤 祐二	坂田 東一	三須 和泰
川合 俊一	藤田 直志	島田 慎二	富山 英明
馬場 益弘	砂岡 良治	金丸 恭文	安道 光二
河田 正也	豊田 章男	後藤 正幸	中村 真一
河合 満	村井 満	真砂 威	土田 雅人
町田 幸男	大野 正次	世耕 弘成	笹川 善弘
納冨 中	土居 淳	久保 素子	丹羽 秀樹
津賀 一宏	岩城 光英	北村 聡	荒川 裕生
達増 拓也	鶴田 有司	吉村 美栄子	北村 清士
大井川 和彦	福田 富一	遠藤 祐司	大野 元裕
熊谷 俊人	小谷 実可子	岡田 伸浩	花角 英世
新田 八朗	山野 之義	石田 嵩人	髙野 剛
阿部 守一	田口 義隆	中谷 多加二	大村 秀章
伊藤 歳恭	高橋 祥二郎	西脇 隆俊	髙橋 知史
斎藤 元彦	福谷 健夫	宮﨑 泉	林 昭男
丸山 達也	越宗 孝昌	迫谷 章	村岡 嗣政
後藤田 正純	綾田 裕次郎	大塚 岩男	今城 純子
服部 誠太郎	宮原 耕史	平田 研	木村 敬
麻生 益直	日隈 俊郎	塩田 康一	玉城 デニー

参　与	籾井圭子	大杉住子	中村宇一	廣田美香
	阿部祐己	安藤晴美	伊吹信一	井本貴之
	蛯沢正勝	大崎光明	大澤祥宏	大澤敏彦
	大平陽子	小笠原大佑	川村悟	菊池勲
	北向由樹	木明和人	櫛引ユキ子	工藤兼光
	工藤悠平	後藤清安	小比類巻正規	今博
	斉藤孝昭	齊藤爾	鹿内博	清水悦郎
	高橋修一	高畑紀子	田中順造	田名部定男
	田端深雪	鶴賀谷貴	寺田達也	夏坂修
	夏堀嘉一郎	夏堀浩一	成田陽光	花田栄介
	福士直治	丸井裕	三橋一三	森内之保留
	山田知	山谷清文	吉田ゆかり	吉俣洋
	和田寛司	奥田忠雄	大田圭	平間恵美
	安田博	松本史晴	中野博之	久慈美穂
	三浦猛史	千葉雄文	後村文子	細谷健司
	舩木久義	豊島信幸	秋野桂	上沢謙一
	工藤泰正	栗林豊	新屋孝文	簗田潮
	佐藤剛	安田貴司	東山国男	大山力
	山本恒太	津田英一	米内正明	小山内修
	堤静子	橋場保人	目澤伸一	山口龍城
	高杉勝彦	工藤裕司	中居敬子	川浪泰浩
	宮野孝晶	田村琢哉	中川伸吾	里村智彦
	佐藤忠全	倉橋純造	一戸善正	櫛引利貞
	七尾嘉信	佐藤健一	岡島裕史	工藤智久
	三上千春	高木伸也	高杉金之助	小関幸一
	外崎れい子			
委員長	山本浩			
副委員長	岩田史昭	石田裕美	出﨑和夫	
総務委員	松永敬子	三宅宏実	稲垣公雄	笠野英弘
	関口直樹	菅原哲朗	田﨑博道	松田基子
	三ヶ田礼一	山澤文裕	福田一稔	宇野武
	二宮智浩	小竹喜也	田内慎也	秋田勝行
	中尾慶一郎	下條伸彦	江橋千晴	宮本忠
	小澤大樹	小笠原忠儀	髙井和紀	

委　員

平野　了	髙橋　聖一	永井　雅史	神山　康洋
福士　幸洋	栗原　崇	竹ノ脇智秋	鈴木　克宜
葛西　玲広	濱野　勉	寺澤　淳	黒川　重男
舟喜　信生	福島　亮一	中梶　秀則	堀越　浩
加藤　憲二	宮川　良輔	鈴木　章広	川口　巖
山口　俊昭	岡泉　茂	朝倉　康善	木塚　鉄也
平井　宏治	濱﨑　滿	岸川　剛之	西原斗司男
山口　鉄正	菅原　正幸	伊東　毅嗣	長南　哲生
衛藤　敬輔	上久保　僚	中段亜由美	鈴木　信吾
内田　淳二	関根　明子	中山二三男	﨑村　尚人
吉田由美子	杉本　好二	國重さゆり	髙梨　治紀
川口　雅三	田邊　賢一	山口　剛	富澤　佑也
政岡　航大	坊　百花	井澤　貫太	田口　雅紀
寺垣　佑介	柿﨑　繁信	橋口　真夕	田中　遥太
町屋　毅博	山本　高史	松橋　伸哉	長谷川光昭
白幡　博久	田畑　幸浩	加藤　雄樹	小林　健也
幸田　和洋	大貫　大輔	小池　則之	今井　隆元
三浦　理	舟木　雅美	阿部　哲也	片岡　英史
福居　久志	三武　紀子	長坂　嘉久	井澤　克行
林　剛史	稲葉　晴伸	森島　哲也	和田　吉史
中野　真吾	佐々木智也	木原　哲也	越智　敏文
小林　悟	中嶋　純也	前田　康博	松本　守正
松本　綾子	中田　健治	石津　雅之	加藤　泰
高田　孝行	日野　剛	前田　義朗	笠井　康行
尾鷲　一成	川端　利行	濱本　昌宏	吉野賢一郎
都甲　尚生	山元　尚史	黒田　裕史	髙野　瑞洋
遠藤　信哉	角屋　憲正	千葉　雅也	菅間　裕晃
岡崎　正彦	角田　真司	加藤木紳克	柄澤　宏之
杉田　聡	塩田　憲司	藤丸　伸和	河野　公紀
碓井　稔	武田　知己	井上　哲	今後　元彦
沼田　守弘	田部長右衛門	松井　守	吉岡　直彦
髙岡　晃仁	葛目　憲昭	寺崎　雅巳	田島　祥嗣
荒木　健治	平江　公一	黒木淳一郎	城間　敏生
丹羽　浩彰			

競技会役員

（順不同・敬称略）

名誉会長	西　秀記			
会長	加藤勝信			
副会長	内浪博文	大島洋子	清水諭	柿崎泰明
	今井正樹	工藤拓実		
顧問	笠井達夫	北村和久	小原信幸	西村信寛
	本田茂雄	津田誠	井上清一	星野博
	萬正一	神崎公宏	原田直彦	新沼正博
	加藤育広	柏倉達雄	川島登	下妻利之
	鮒田健司	森田哲好	吉川洋一	石川雅利
	榎並紳吉	向山淳	廣田幹人	倉野立人
	山浦尚	道上宗雅	川畑茂	落合敏男
	竹内英高	喜田健児	小川信也	宇野治
	安道光二	谷尾敏男	芝地康幸	川西斎
	田谷節朗	田中一雄	三吉庸善	母谷龍典
	秋枝正文	岩脇真二	多田光廣	田坂信一
	横江忠志	加地邦雄	松尾勝利	吉田昌敬
	吉田博紀	外川陽一	鹿島庄一郎	川畑城
	外間勉	奈良岡隆	工藤裕司	
参与	重田衛	松岡孝太郎	水野明人	米山修一
	田淵光仁	丹崎健一	西田豊明	宮下恭子
	柳下秋久	山本毅	野際照章	木原晴彦
	川西斉	白水厚二	斉藤元三	安藤正美
	篠邉保	山下晴海	赤平勇人	小豆畑緑
	天内慎也	蛯名和子	大矢保	小熊ひと美
	小倉尚裕	柿崎孝治	軽米智雅子	木戸喜美男
	木下靖	木村淳司	工藤健	工藤夕介
	里村誠悦	澁谷洋子	関貴光	相馬純子
	竹山美虎	舘山善也	中田靖人	中村美津緒
	奈良祥孝	長谷川章悦	花田明仁	藤田誠
	万徳なお子	村川みどり	山田千里	山本武朝
	渡部伸広	天内博康	川村仁	齋藤美鈴
	土岐志麻	松浦淳	赤坂寛	横山英大
	横内修	舘山新	小野正貴	金谷浩光
	千葉康伸	齋藤賢剛	中村敦	白戸高史

	大久保 綾子	佐藤 秀彦	横内 信満	工藤 拓実
	大久保 文人	木村 颯希	土岐 政温	奈良 英文
	今 国弘	佐々木 正幸	泉 宏明	角田 毅
	太田 直樹	遠嶋 祥剛	船橋 正明	舘山 公
	髙野 雅子	齊藤 寿一	佐々木 和人	里村 誠悦
	倉橋 純造	一戸 善正	山本 知也	前田 済
	津島 淳	大瀬 良一	諏訪 正徳	今井 正樹
	河野 満	井戸端 隆雄	中村 雅彦	大矢 保
	服部 一雄	澁谷 洋子	正部家 淳司	高橋 修一
	菅原 文子	中嶋 與志久	長尾 信	川浪 泰浩
	相馬 克典	黒丸 健吾	中川 伸吾	今 卓也
	花田 惇	髙橋 秀親	佐藤 健一	盛 健一
	中村 紀徳	白鳥 晶司	小形 峰雄	工藤 智久
	大西 透信	北畠 滋郎	福田 真奈美	成田 幾末
	佐々木 重光	森 隆	工藤 拓実	西村 博史
	石塚 浩	太田 聖子	津川 三男	丹藤 公彦
	作田 宏之			
委員長	中田 裕之			
副委員長	田澤 康治	中田 真紀子	新保 俊彦	
委員	運上 琢諭	蛭田 香名子	額賀 富雄	大前 秀樹
	笠原 亜希子	菊間 路人	髙井 志保	髙野 健二
	堀越 浩	増木 博一	山本 悦子	横田 南
	青山 裕子	井上 直子	岩見 純子	上山 親子
	大津 竜二	久保 直生	久保村 康史	内田 裕行
	弘中 基之	豊巻 哲司	佐々木 正美	工藤 聡子
	豊川 徳浩	豊川 庸子	船水 宏二	片岡 勝
	一ノ渡 正人	風穴 武寿	鹿内 守	佐々木 公貴
	石橋 千暁	久保田 穣	鈴木 啓	黒瀧 昭仁
	手塚 正弘	石井 徳也	吉浦 一	小野 武志
	山辺 鉄春	佐藤 和孝	滝沢 武春	松代 直人
	高橋 修一	西村 博史	伊丸岡 みつる	和田 明
	髙橋 武夫	打谷 桂子		

競技役員

（順不同･敬称略）

総務委員長	新保 俊彦			
総務副委員長	運上 琢諭	大前 秀樹	豊巻 哲司	
総務委員	清水 望	川村 司	三浦 聖司	
競技委員長	堀越 浩			
競技副委員長	吉田 敏彦	片岡 勝		
式典委員長	太田 聖子			
式典委員	岡田 恵美子	太田 弘子	豊川 庸子	小川 展子
	諏訪 恵久子	鈴木 礼子	大川 美代子	伊丸岡 みつる
	今 真美	佐々木 和子	杉野森 明子	
総合成績計算委員長	額賀 富雄			
総合成績計算委員	伊藤 慎			
オーダー受付委員長	工藤 聡子			
オーダー受付委員	冨田 望	坂田 愛弥	小野 真梨子	
記録委員長	長野 賢司			
記録委員	乗次 孝	岩村 奏子	對馬 未来	
報道委員長	青山 裕子			
報道副委員長	工藤 聡子			
報道委員	山田 真優	大栁 慎之介		
放送委員長	黒瀧 昭仁			
放送委員	附田 真菜			
招集委員長	佐々木 正美			
進行委員長	蝦名 勇人			
進行副委員長	一ノ渡 正人	西舘 大輔		
進行委員	千葉 芳樹	三上 貴郷	松代 直人	山田 菜々花
	江渡 光毅	柴崎 恭麻	奈良 柊吾	
施設委員長・ボール管理委員長	鹿内 守			
施設副委員長・ボール管理副委員長	石橋 千暁			
施設委員	熊谷 裕一	我満 來羅	水木 紗浬	
ボール管理委員	豊巻 百合子	高杉 かりん	高橋 寿綺	宮澤 亮月
	瀬川 悠人			
補助員統括委員長	金澤 光修			
補助員統括副委員長	工藤 知明			

練習コート委員長	佐々木　公貴				
練習コート委員	土畑　心海	奈良　聖羅	阿保　卓也	小林　佑輔	
審判委員長	増木　博一				
審判副委員長	立元　真一	貝瀬　清			
審判委員	髙木奈央美	山口　梓	藤川　真帆	作田　泰章	
	大原江里亜	小林　大地	山本　徳満	成田　和男	
	佐々木さやか	三塚　心輝	附田　修宏	立花　昌樹	
	髙山　一博	伊藤　耕平	奈良　祐太	中川　大輔	
	山田　愛	今　龍之介	江波戸樟太	石井　徳也	
	山ノ内一誠	木浪　悠翔	佐藤　大紀	工藤　涼香	
	今　大樹陽	和野　弦太	鈴木　啓	蛯名　魁	
	中谷　亮	大澤　一統	小林　司	永野　孝明	
	向山　裕己	伊藤　肇	今　匡平	野呂　良子	
	武田　祐子	温水凛太郎	佐藤　亮介	大沢　優哲	
	小坂　朝陽	武石　智和	三塚　貴史	成田　勝	
	阿部　利美	兎澤　柊人	畠山　義也	折戸　維吹	
	宮崎　光	和賀　大毅	星野　信裕	橋本　達哉	
	齊藤　拓恵	新田　良輔	平葭　啓悟	林　美保	
	永澤　智子	葛西　孝藤	風穴　武寿	丹藤　公彦	
	小松　明夫	川村　和史	助川美千子	吉田　和久	
	吉浦　一	中村　勇貴	金濱　寛	青木　英子	
	松本　大介	中村　聡	溝江　巧	山谷和佳紗	
	山谷　秀和	瀬川友里絵	豊川　徳浩	石塚　浩	
	濱谷　隆博	越田　貴博	佐々木瑞希	秋穂　智則	
	船橋　達也	今井　史子	久保田穣	齋藤　正人	
	船水　敏晴	佐藤　圭	一戸　辰也	齋藤　舜也	
	中村　英和	佐々木祐馬	手塚　正弘	鳴海　将貴	
	小田桐未紀	千葉　寛泰			

競　技　補　助　員

青森県立青森東高等学校	１４名
青森県立青森北高等学校	２４名
青森県立青森南高等学校	１０名
青森県立弘前実業高等学校	４３名
青森明の星高等学校	２９名
下山学園高等学校	３０名

（順不同）

競　技　会　係　員

青の煌めきあおもり国スポ・障スポ青森市実施本部職員

競　技　会　補　助　員

青森市運営ボランティアの皆様

第８０回国民スポーツ大会　本大会実施要項総則

開 催 の 趣 旨

国民スポーツ大会は、広く国民の間にスポーツを普及し、スポーツ精神を高揚して国民の健康増進と体力の向上を図り、併せて地方スポーツの推進と地方文化の発展に寄与するとともに、国民生活を明るく豊かにしようとする国内最大のスポーツの祭典である。

青森県で開催する第80回国民スポーツ大会「青の煌(きら)めきあおもり国スポ」は、「翔けろ未来へ縄文の風に乗って」をスローガンに掲げ、スポーツによる感動や交流の輪が広がるとともに、本県のあらゆる魅力を発信するなど、県民総参加による青森県らしさあふれる大会を目指して開催する。

実　施　方　針

1　実施競技

⑴　正式競技（37 競技）

陸上競技、水泳、サッカー、テニス、ローイング、ホッケー、バレーボール、体操、バスケットボール、レスリング、セーリング、ウエイトリフティング、ハンドボール、自転車、ソフトテニス、卓球、軟式野球、相撲、馬術、フェンシング、柔道、ソフトボール、バドミントン、弓道、ライフル射撃、剣道、ラグビーフットボール、スポーツクライミング、カヌー、アーチェリー、空手道、銃剣道、クレー射撃、なぎなた、ボウリング、ゴルフ、トライアスロン

⑵　公開競技（７競技）

綱引、ゲートボール、武術太極拳、パワーリフティング、グラウンド・ゴルフ、バウンドテニス、エアロビック

⑶　デモンストレーションスポーツ（39 競技）

いきいき太極拳、インディアカ、ウオーキング、ウォークビンゴ、エンジョイ！グラウンド・ゴルフ、オリエンテーリング、カーリング、空道、女子ソフトボール、スポーツウエルネス吹矢、スポーツチャンバラ、ソフトバレーボール、ターゲット・バードゴルフ、ダンススポーツ、ドッジボール、年齢別ソフトテニス、年齢別テニス、年齢別バドミントン、ノルディックウォーキング、パークゴルフ、パラグライディング、ビリヤード、ビーチサッカー、ファイン・ボール、フライングディスク、ふれあいゲートボール、ふれあいソフトボール、ふれあいボウリング、フロアボール、ペタンク、マスターズスイミング、マスターズ陸上競技、マラソン、マラソン＆ウォーキング、モルック、ユニカール、ユニバーサルホッケー、ラージボール卓球、Let’s Enjoy バウンドテニス

⑷　特別競技（１競技）

高等学校野球

2　会期及び会場地

⑴　正式競技・特別競技（11 市、11 町、2 村：計 24 市町村）

会　　期	会　場　地
2026年10月10日（土） ～10月20日（火） 〔11日間〕	青森市、弘前市、八戸市、黒石市、五所川原市、十和田市、三沢市、むつ市、つがる市、平川市、西目屋村、藤崎町、七戸町、六戸町、東北町、六ヶ所村、おいらせ町、五戸町、南部町、階上町、山梨県北杜市
2026年９月３日（木） ～９月13日（日） 〔11日間〕	青森市、弘前市、十和田市、三沢市、むつ市、平内町、西目屋村、野辺地町、六ヶ所村、宮城県利府町 ※　水泳、ローイング、ホッケー、バレーボール（ビーチバレーボール）、体操、セーリング、ハンドボール、相撲、ライフル射撃、カヌー（スラローム・ワイルドウォーター）、クレー射撃、ゴルフ、トライアスロン競技会は上記会場地で実施
2026年10月２日（金） ～10月７日（水） 〔６日間〕	青森市、弘前市 ※　アーチェリー、高等学校野球競技会は上記会場地で実施

⑵　公開競技（３市２町：計５市町）

会　　期	会　場　地
2026年８月８日（土） ～10月４日（日）	十和田市、三沢市、平川市、平内町、藤崎町

⑶　デモンストレーションスポーツ（７市、16 町、６村：計 29 市町村）

会　　期	会　場　地
2026年５月10日（日） ～10月４日（日）	青森市、弘前市、八戸市、十和田市、三沢市、むつ市、平川市、今別町、蓬田村、外ヶ浜町、鰺ヶ沢町、深浦町、藤崎町、大鰐町、田舎館村、板柳町、鶴田町、中泊町、横浜町、東北町、おいらせ町、大間町、東通村、風間浦村、佐井村、三戸町、田子町、階上町、新郷村

⑷　文化プログラム

文化プログラムの実施については、「文化プログラム実施基準」に基づき、2026 年１月１日から 2026 年 12 月 31 日までの期間で、原則として、県内市町村で開催する。

3　競技方法

各競技別実施要項に示す方法とし、正式競技は都道府県対抗で実施する。

4　ドーピング検査の実施

大会におけるアンチ・ドーピング活動（ドーピング検査及びアンチ・ドーピング教育活動）は、公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構が定める「日本アンチ・ドーピング規程」及び別に定める「国民スポーツ大会アンチ・ドーピング活動に関するガイドライン」に基づき実施する。

なお、治療の目的で禁止物質・禁止方法を用いる必要がある場合は、事前に「治療使用特例」（TUE）の手続きを行うこと。

各都道府県の代表選手は、大会期間中は常に「国民スポーツ大会ドーピング検査同意書」を所持しなければならない。選手が 18 歳未満の場合、本人の署名及び親権者の署名がある同意書を所持すること。

５　参加資格、所属都道府県及び選手の年齢基準

選手及び監督の参加資格、所属都道府県及び選手の年齢基準は、次のとおりとする。

なお、参加資格については、「第 80 回国民スポーツ大会参加資格、所属都道府県及び年齢基準等の解釈・説明」を併せて確認すること。

【　公益財団法人日本スポーツ協会ホームページ　https://www.japan-sports.or.jp/　】

⑴　参加資格

ア　日本国籍を有する者であることとするが、選手及び監督のうち、次の者については、日本国籍を有しない者であっても、大会に参加することができる。

(ｱ)　「出入国管理及び難民認定法」に定める在留資格のうち「永住者」(「日本国との平和条約に基づき日本の国籍を離脱した者等の出入国管理に関する特例法」に定める「特別永住者」を含む。)

(ｲ)　少年種別年齢域に該当し、次の要件をいずれも満たす者

a　「学校教育法」第１条に規定する学校に在籍する学生又は生徒で、「８　参加申込方法」で定めた本戦参加申込締切時に１年以上在籍していること。

b　「出入国管理及び難民認定法」に定める在留資格のうち、「留学」、「家族滞在」又は「定住者」に該当していること。

(ｳ)　成年種別年齢域に該当し、次の要件をいずれも満たす者

a　少年種別年齢域にあった時点において前号(ｲ)に該当していた者であること。

b　「出入国管理及び難民認定法」に定める在留資格のうち、大会参加時から終了時まで「留学」に該当しないこと。

［注］　上記(ｳ)b について、大学及び専修学校等に在籍する成年種別の年齢域に該当する者は、「出入国管理及び難民認定法」に定める「留学」以外の在留資格を有する場合も「留学」と同等に扱う。

イ　選手及び監督は、所属都道府県の当該競技団体会長（代表者）とスポーツ協会会長（代表者）が代表として認め、選抜した者であること。

ウ　第 78 回又は第 79 回大会（都道府県大会及びブロック大会を含む）において選手又は監督として参加した者は、次の場合を除き、第 78 回又は第 79 回大会と異なる都道府県から参加することはできない。

(ｱ)　成年種別

a　「学校教育法」第１条に規定する学校を卒業した者

b　結婚又は離婚に係る者

［注］　a 及び b は当該要件発生後、初めて参加するものに限る。

c　ふるさと選手制度を活用する者（別記１「国民スポーツ大会ふるさと選手制度」による。）

［注］　別記３「JOC エリートアカデミーに係る選手の参加資格の特例措置」の適用を受け、ふるさと選手として参加する者を含む。

d　東日本大震災に係る参加資格特例措置を活用する者（別記５「東日本大震災に係る選手及び監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」による。）

e　令和６年能登半島地震に係る参加資格特例措置を活用する者（別記６「令和６年能登

半島地震に係る選手及び監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」による。）

(ｲ)　少年種別

a　「学校教育法」第１条に規定する学校を卒業した者

b　結婚又は離婚に係る者

c　一家転住に係る者（別記２「『一家転住等』に伴う特例措置」による。）

［注］　a から c は当該要件発生後、初めて参加するものに限る。

d　JOC エリートアカデミーに在籍する者（別記３「JOC エリートアカデミーに係る選手の参加資格の特例措置」による。）

e　東日本大震災に係る参加資格特例措置を活用する者（別記５「東日本大震災に係る選手及び監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」による。）

f　令和６年能登半島地震に係る参加資格特別措置を活用する者（別記６「令和６年能登半島地震に係る選手及び監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」による。）

エ　選手と監督の兼任は、同一種別内に限る。

オ　選手及び監督は、回数を同じくする大会において、冬季大会及び本大会にそれぞれ１競技に限り参加できる。

カ　選手及び監督は、回数を同じくする大会において、異なる都道府県から参加することはできない。

キ　選手、監督並びに本部役員帯同のスポーツドクター及びアスレティックトレーナーは、大会参加前の１年以内に公益財団法人日本スポーツ協会（以下「日本スポーツ協会」という。）が指定するアンチ・ドーピング教育を受講し、「国スポ本戦出場前のアンチ・ドーピング教育履歴」に記載した者であること。

ク　上記のほか、選手については次のとおりとする。

(ｱ)　都道府県大会及びブロック大会に参加し、これを通過した者であること。

(ｲ)　健康診断を受け、競技会への参加に支障がない者であること。

(ｳ)　ドーピング検査対象に選定された場合は、検査を受けなければならない。

ケ　上記のほか、監督については日本スポーツ協会公認スポーツ指導者制度に基づく競技別指導者資格を有する者とし、監督が不在の場合選手は参加することができない。各競技における対象資格については当該競技実施要項によるものとする。

⑵　所属都道府県

所属都道府県は、当該競技団体が限定する場合を除き、次のいずれかが属する都道府県から選択することができる。

ア　成年種別

(ｱ)　居住地を示す現住所

(ｲ)　勤務地

(ｳ)　ふるさと（別記１「国民スポーツ大会ふるさと選手制度」による。）

［注］　別記３「JOC エリートアカデミーに係る選手の参加資格の特例措置」の適用を受けふるさと選手として参加する者を含む。

イ　少年種別

(ｱ)　居住地を示す現住所

(ｲ)　「学校教育法」第１条に規定する学校の所在地（以下「学校所在地」という。）

(ｳ)　勤務地

(ｴ)　別記３「JOC エリートアカデミーに係る選手の参加資格の特例措置」に定める小学校の所在地

※　「居住地を示す現住所」、「勤務地」、「学校所在地」のいずれかから参加する場合は、2026年４月30日以前から本大会終了時（2026年10月20日）まで、引き続き当該地に、それぞれ居住、勤務、又は通学していなければならない。ただし、次の者はこの限りではない。

［成年種別］

a　別記４「トップアスリートの国民スポーツ大会参加資格の特例措置」の適用を受ける者

b　別記５「東日本大震災に係る選手及び監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」の適用を受ける者

c　別記６「令和６年能登半島地震に係る選手及び監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」の適用を受ける者

［少年種別］

a　別記２「『一家転住等』に伴う特例措置」の適用を受ける者

b　別記４「トップアスリートの国民スポーツ大会参加資格の特例措置」の適用を受ける者

c　別記５「東日本大震災に係る選手及び監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」の適用を受ける者

d　別記６「令和６年能登半島地震に係る選手及び監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」の適用を受ける者

⑶　選手の年齢基準

ア　選手の年齢基準については、下記を原則とする。

(ｱ)　成年種別に参加する者は、2008年４月１日以前に生まれた者とする。

(ｲ)　少年種別に参加する者は､2008年４月２日から2011年４月１日までに生まれた者とする。

(ｳ)　年齢を区分している種別へ参加する者の年齢計算は、2026年４月１日を基準とする。

イ　日本スポーツ協会が特に認める場合は、上記アにかかわらず、競技ごとに年齢区分を設定することができる。ただし、年齢の下限は中学３年生（2011年４月２日から2012年４月１日までに生まれた者）とする。

⑷　前記の各事項に疑義のあるときは、日本スポーツ協会及び当該競技団体が調査・審議の上、日本スポーツ協会がその可否を決定する

６　各正式競技の総合成績決定方法

各正式競技の総合成績決定方法は次のとおりとする。

⑴　次のア、イの得点を合計したものを男女総合成績（天皇杯得点）及び女子総合成績（皇后杯得点）とする。

ア　競技得点

競技得点は、各種別、種目などの第１位から第８位までの都道府県に与え、次のとおりとする。ただし、同順位の場合は、次の順位のものを加え、当該都道府県で等分し、割り切れない場合は、小数第３位以下を切り捨てる。

		１位	２位	３位	４位	５位	６位	７位	８位
種別	４人以下	24点	21点	18点	15点	12点	９点	６点	３点
	５人以上７人以下	40点	35点	30点	25点	20点	15点	10点	５点
	８人以上	64点	56点	48点	40点	32点	24点	16点	８点
種目	――――――	８点	７点	６点	５点	４点	３点	２点	１点

［注］　「種別」：種別などに与える競技得点　　「種目」：種目などに与える競技得点

イ　参加得点

参加得点は 10 点とし、大会（ブロック大会を含む。）に参加した都道府県に与える。

ただし、ブロック大会で本大会の出場権を獲得しながら、本大会に参加しなかった場合は与えない。

⑵　各競技の総合成績は、当該競技団体が決定する。

ただし、天候その他の事情により一部競技が中止になった場合は、当該競技団体と大会総務委員会が協議する。

⑶　参加資格違反等に関わる得点等の取り扱いについては、「国民スポーツ大会における違反に対する処分に関する規程」によるものとする。

7　表彰

⑴　冬季大会及び本大会で実施した全正式競技の男女総合成績第１位の都道府県に天皇杯を、同じく女子総合成績第１位の都道府県に皇后杯をそれぞれ授与する。

⑵　冬季大会及び本大会で実施した全正式競技の男女総合成績及び女子総合成績の第１位から第８位までの都道府県に、それぞれ表彰状を授与する。

⑶　各正式競技の男女総合成績第１位の都道府県に、国民スポーツ大会会長トロフィーを授与する。

⑷　各正式競技の男女総合成績及び女子総合成績の第１位から第８位までの都道府県に、それぞれ表彰状を授与する。

⑸　各競技の各種別及び各種目などの第１位から第８位までに賞状を授与する。団体競技の場合は、その都道府県名とチーム全員（監督を含む）の氏名を記載したものを都道府県用に１枚、さらにその都道府県名と個人名を記載したもの、又は都道府県名とチーム全員（監督を含む）の氏名を記載したものをチーム全員に授与する。

⑹　各正式競技及び特別競技の第１位から第３位までの選手にメダルを授与する。

8　参加申込方法

⑴　参加申込

都道府県スポーツ協会会長（代表者）及び競技団体会長（代表者）は、連署の上、都道府県大会又はブロック大会において選抜された者及び公益財団法人日本高等学校野球連盟が選出したチームを、大会会長宛てに申込むものとする。

⑵　参加申込締切

参加申込は、定められた締切日時までに国民スポーツ大会参加申込システムにより行う。

なお、各競技別実施要項の「参加申込方法」を併せて確認すること。

⑶　参加申込締切日時

締切日時	競　　技
2026 年 ８月 13 日（木） 午後５時 【15 競技】	水泳、ローイング、ホッケー、バレーボール（ビーチバレーボール）、体操、セーリング、ハンドボール、自転車、相撲、ライフル射撃、カヌー、クレー射撃、ボウリング、ゴルフ、トライアスロン

2026年 9月3日（木） 午後5時 【24競技】	陸上競技、サッカー、テニス、バレーボール（6人制）、バスケットボール、レスリング、ウエイトリフティング、ソフトテニス、卓球、軟式野球、馬術、フェンシング、柔道、ソフトボール、バドミントン、弓道、剣道、ラグビーフットボール、スポーツクライミング、アーチェリー、空手道、銃剣道、なぎなた、高等学校野球

⑷　参加申込様式

参加申込様式は、日本スポーツ協会が実施競技団体と協議の上、作成する。

⑸　公開競技の参加申込

公開競技については、別途当該中央競技団体が定める所定の手続きにより行う。

⑹　選手の交代

参加申込締切後の選手の交代は、特別な事情がない限り認めない。特別な事情で選手を交代する場合は、所定の様式、方法により次のア～ウ宛てに届け出なければならない。

ア　全国を統轄する各中央競技団体事務局

イ　青の煌(きら)めきあおもり国スポ・障スポ実行委員会事務局

ウ　青の煌(きら)めきあおもり国スポ・障スポ各競技会場地市町村実行委員会事務局

なお、日本スポーツ協会に対しては、大会終了後、所定の手続きにより参加申込情報を修正すること。

9　棄権手続

参加申込締切後から競技初戦までの間において、特別な事情で選手が競技会を棄権する場合には、所定の棄権手続きをとらなければならない。

なお、棄権手続きに係る届出については選手交代届と同じ様式を用いること。

10　大会参加負担金

⑴　大会に参加選手団（視察員を除く）を派遣する都道府県スポーツ協会は、大会参加負担金を納入する。一人あたりの大会参加負担金の額は下記のとおりとする。

区　　分	負　担　金
少年の種別に参加する選手	３，０００円
上記以外の者（本部役員、監督、成年の種別に参加する選手等）	６，０００円

［注］　地震、風水害、感染症及びその他主催者の責によらない事由により大会を中止した場合、大会参加負担金の返金は行わない。

⑵　大会参加負担金は、都道府県スポーツ協会で取りまとめ、次のとおり納入する。

ア　納入期限　2026年9月4日（金）

イ　納 入 先　みずほ銀行　渋谷支店　普通預金口座　513729

公益財団法人日本スポーツ協会

11　宿泊申込

大会参加者は、青の煌(きら)めきあおもり国スポ・障スポ実行委員会が指定した所定の様式により、定められた締切日までに申込む。

12　都道府県選手団本部役員編成

⑴　都道府県選手団本部役員は、次のとおりとする。

ア　参加選手 500 名以上の場合は、団長、総監督及び総務ほか、計 20 名以内とする。

イ　参加選手 300 名以上 500 名未満の場合は、団長、総監督及び総務ほか、計 15 名以内とする。

ウ　参加選手 300 名未満の場合は、団長、総監督及び総務ほか、計 10 名以内とする。

⑵　上記役員のほか、５名以内の顧問を設けることができる。

⑶　上記⑴及び⑵による本部役員総数の範囲内で、スポーツドクターを帯同するものとする。

なお、帯同するスポーツドクターは日本スポーツ協会公認スポーツドクター資格を有する者とする。

⑷　上記⑴及び⑵による本部役員総数の範囲内で、原則としてアスレティックトレーナーを帯同するものとする。

なお、帯同するアスレティックトレーナーは日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー資格を有する者とする。

⑸　都道府県選手団本部役員の１日あたりの編成人数については、上記⑴及び⑵による人数を上限とする。

⑹　都道府県選手団本部役員の参加申込は、2026 年９月３日（木）午後５時までに国民スポーツ大会参加申込システムにより行う。

13　視察員

⑴　視察員は、１都道府県３名以内とする。ただし、2027 年以降の国民スポーツ大会の開催が決定又は内定している県については、宮崎県 100 名以内、長野県及び群馬県 60 名以内、島根県及び奈良県 40 名以内とする。

⑵　都道府県の視察員の参加申込は、2026 年９月３日（木）午後５時までに国民スポーツ大会参加申込システムにより行う。

14　参加章及び AD カードの交付

参加章及び AD カードは、次の者に交付する。

⑴　参加章

ア　都道府県選手団の本部役員、監督及び選手

イ　大会役員、競技会役員及び競技団体が指定した競技役員

ウ　公開競技及びデモンストレーションスポーツ参加者

⑵　AD カード（Accreditation　Card）

ア　都道府県選手団

イ　大会役員、競技会役員及び競技団体が指定した競技役員

ウ　大会主催者及び競技会主催者が認めた者

エ　公開競技に参加する選手、監督及び役員

15　参加上の注意

⑴　大会期間中は、交付された AD カードを携帯しなければならない。

⑵　各都道府県の代表選手は、競技に際し、「国民スポーツ大会ユニフォーム規程」に基づき、ユニフォームを着用しなければならない。

16　個人情報及び肖像権に関わる取り扱い

日本スポーツ協会、青の煌めきあおもり国スポ・障スポ実行委員会、青の煌めきあおもり国スポ・障スポ各競技会場地市町村実行委員会及び国民スポーツ大会実施競技中央競技団体（以下「国スポ関係機関・団体」という。）は、参加申込等を通じて取得する個人情報及び肖像権の取り扱いに関して以下のとおり対応するものとする。

⑴　個人情報の取り扱い

ア　利用目的

大会参加申込として国民スポーツ大会参加申込システムへ登録された個人情報は、国スポ関係機関・団体において、参加資格の確認や競技組合せなどをはじめとする大会運営業務のために利用し、目的以外に利用しない。

イ　公表の範囲と方法

個人情報のうち、所属都道府県、氏名、性別、年齢、学校名、チーム名等、所属と個人を識別するために必要な情報については、以下の方法等により公表することがある。

(ｱ)　総合プログラム及び競技別プログラムへの掲載
(ｲ)　競技会場内におけるアナウンス等による紹介
(ｳ)　競技会場内外の掲示板等への掲載
(ｴ)　大会関連ホームページへの掲載
(ｵ)　報道機関への提供

ウ　競技結果（記録）等

競技結果（記録）については、上記イで定めた個人情報とともに、以下の方法等により公表することがある。

(ｱ)　青の煌めきあおもり国スポ・障スポ実行委員会が設置する記録本部を通じた公開
(ｲ)　国スポ関係機関・団体及び報道機関等による新聞・雑誌及び関連ホームページ等への掲載
(ｳ)　国スポ関係機関・団体が作成する大会報告書等への掲載
(ｴ)　次回以降の大会プログラムへの掲載【新記録、優勝及び上位入賞結果（記録）等】

⑵　肖像権に関する取り扱い

ア　写真

国スポ関係機関・団体又はこれらに認められた報道機関等によって撮影された写真が、新聞・雑誌・報告書及び関連ホームページ等で公開されることがある。

イ　写真（写真撮影企業等）

国スポ関係機関・団体に認められた写真撮影企業等によって撮影された写真等が販売されることがある。

なお、各競技・会場における販売の有無等の詳細は、当該中央競技団体を中心に対応する。

ウ　映像

国スポ関係機関・団体又はこれらに認められた報道機関等によって撮影された映像が、中継・録画放映及びインターネットによって配信されることがある。また、DVD 等に編集され、販売・配付されることがある。

⑶　対応

ア　承諾の確認

大会参加申込として国民スポーツ大会参加申込システムへ登録された時点で、上記取り扱いに関する承諾を得たものとして対応する。

なお、各競技会における取り扱いに伴い、別途、当該中央競技団体等によって個別に承諾

を確認することがある。

イ　役員等

大会役員、競技役員、運営役員、その他各種委員や補助員、国スポ関係機関・団体と大会に関する契約をしている者及び大会運営関係者については、上記取り扱いに関する承諾を得たものとして対応する。

17　都道府県大会及びブロック大会

正式競技については、本大会の予選として次のとおり都道府県大会（ブロック大会）を開催しなければならない。

⑴　都道府県の主催団体は、必要に応じて日本スポーツ協会及び中央競技団体等関係団体と協議の上、本要項に基づき実施要項を作成する。

なお、日本スポーツ協会及び中央競技団体は、その内容に不備がある場合、適宜指導を行うものとする。

⑵　都道府県大会の実施にあたり、当該都道府県主催団体は、適正な手続きに則り決定した代表選手の選抜方法・選考基準について、予め関係者に周知徹底を図るものとする。

⑶　参加者は、実施要項に基づき当該主催団体に申込む。

なお、参加は、回数を同じくする大会において、冬季大会及び本大会にそれぞれ１競技に限り参加できる。

⑷　ブロック大会の申込みは、原則として国民スポーツ大会参加申込システムにより行い、様式は日本スポーツ協会及び当該主催団体が協議の上、作成する。

なお、参加申込システムを使用しない場合の様式については、当該主催団体において別途作成する。

⑸　都道府県大会の参加申込様式は、当該主催団体において作成する。

⑹　参加料を徴収する場合の金額は、当該主催団体が中央競技団体と協議の上、定める。

⑺　競技運営に差し支えない限り、青森県選手は当該競技ブロック大会を経ることなく本大会に参加することができる。

18　国民スポーツ大会参加者傷害補償制度

日本スポーツ協会及び都道府県スポーツ協会は、国民スポーツ大会参加者に対する社会的責任体制を整えるとともに、大会参加者の相互扶助の精神に基づいた補償制度として大会参加者による国民スポーツ大会参加者傷害補償制度を運営する。

⑴　本制度の対象となる参加者は、ブロック大会及び本大会に参加する本制度給付規定に定められた選手、監督、選手団本部役員（顧問を含む）、視察員並びにその他選手団役員とする。

⑵　大会参加の都道府県スポーツ協会は、国民スポーツ大会参加者傷害補償制度の対象となる参加者数に応じた制度負担金（一人あたり 1,000 円）を、日本スポーツ協会に納入する。

⑶　納入締切日及び納入先については、別途日本スポーツ協会から都道府県スポーツ協会へ通知する。

19　青の煌（きら）めきあおもり国スポの実施目標

⑴　スポーツによる感動の創出と地域へのスポーツの定着

スポーツを「する」「みる」「ささえる」など多様な場面で、感動が創出されることによ

り、県民の誰もがスポーツに関わる楽しさを感じることができる環境が整備されるとともに、県内各地で地域住民がスポーツに取り組む習慣が身につき、スポーツが地域に定着する大会とする。

⑵　自発的、積極的な県民参加による地域の活性化

県民一人ひとりが、開催準備に自発的、積極的に参加するとともに、スポーツを通した健康づくりなどに一丸となって取り組むことにより、全ての県民が心身ともに健康な状態で大会を迎え、その後も各地域が元気で活力に満ちた姿となる大会とする。

⑶　来県者への熱い心でのおもてなしとあらゆる魅力の発信

大会に参加する選手・監督・役員・応援者など数多くの来県者を熱いおもてなしの心で迎えるとともに、大会期間を通して本県のあらゆる魅力を体感していただくことにより、再び本県を訪問したいという気持ちを喚起する大会とする。

⑷　北国ならではの大会運営

北国ならではの気象条件を考慮し、総合開・閉会式を屋内開催とするとともに、競技特性も考慮の上、会期前競技を多く設定することなどにより選手ファーストを意識した大会とする。

20　その他

⑴　参加申込及び宿泊申込が、定められた締切日までに行われない場合、又は、参加負担金が定められた納入期限までに納入されない場合は、本大会への参加を認めない。

⑵　大会運営にあたり、選手・観客・大会関係者への安全を最優先に配慮し、気象状況・感染状況・交通状況・テロ行為等の各種災害に伴い、安全確保が見込めないと主催者が判断した場合は、主催者の指示に従うものとする。また、安全確保のために、参加申込システムに登録された以外の個人情報を取得する場合がある。取得した情報については、目的以外に利用しない。

⑶　その他の事項については、国民スポーツ大会開催基準要項及び同細則による。

別記１　「国民スポーツ大会ふるさと選手制度」

１　成年種別年齢域の選手は、国民スポーツ大会開催基準要項細則第３項〔国民スポーツ大会開催基準要項第８項第１号及び第 10 項第４号（参加資格及び年齢基準等）〕に基づき、下記のいずれかを拠点とした都道府県から参加することができる。

⑴　居住地を示す現住所

⑵　勤務地

⑶　ふるさと

２　「ふるさと」とは、卒業小学校、卒業中学校又は卒業高等学校のいずれかの所在地が属する都道府県とする。

ただし、JOC エリートアカデミーに係る選手については、別に定める「JOC エリートアカデミーに係る選手の参加資格の特例措置」第３項により取り扱うものとする。

３　我が国の競技力向上を支援する観点より、日本国籍を有する者及び「永住者」については、日本における滞在期間に関わらず、本制度を活用できるものとする。ただし、「日本国籍を有する者及び『永住者』」に該当しない者であっても、当該大会年の４月 30 日（冬季大会は前年の４月 30 日）以前から本大会終了時（冬季大会は各競技会終了時）まで継続的に日本に滞在している場合は、本制度を活用できるものとする。なお、やむを得ない事情により、一時的に日本を離れる場合は、総日数の半数を超えて日本で滞在していること。

４　「ふるさと選手制度」を活用し参加を希望する選手は、予め所定の方法により「ふるさと」を登録しなければならない。なお、一度登録した「ふるさと」は変更できないものとする。

５　「ふるさと」から参加する選手は、国民スポーツ大会開催基準要項細則第３項－⑴－1）－③（国内移動選手の制限）に抵触しないものとする。

６　ふるさと選手制度の活用については、原則として、１回につき２年以上連続とし、利用できる回数は２回までとする。

７　参加都道府県は「ふるさと選手」を所定の様式、方法により、当該大会実施要項で定めた参加申込締切期日までに、日本スポーツ協会宛てに提出する。

別記２　「『一家転住等』に伴う特例措置」

転校への特例

１　次の内容をすべて満たすことにより、国内移動選手の制限（国民スポーツ大会開催基準要項細則第３項－⑴－1）－③）に抵触しないものとする。

⑴　この特例の対象は、「少年種別」への参加者に限る。

⑵　本特例を受けることができるのは、一家転住等やむを得ない理由に限ることとする。
なお「一家転住等」とは概ね次のことを言う。

ア　親の転勤による一家の転居

イ　親の結婚、離婚による一家の転居

ウ　上記以外に、やむを得ない理由による一家の転居

⑶　転居した時点に応じて、以下の手続きを終了していること。

ア　本特例を受けようとする参加者は、下記２⑴の場合は転居元、下記２⑵の場合は転居先が属する都道府県スポーツ協会及び都道府県競技団体に対し、その旨報告すること。

イ　報告を受けた都道府県スポーツ協会及び都道府県競技団体は、下記２⑴の場合は転居先、下記２⑵の場合は転居元が属する都道府県スポーツ協会及び都道府県競技団体に対し、その旨報告し了承を得ること。

２　本特例を受ける当該大会において、参加することができる都道府県は以下のとおりとする。

⑴　転居した時点において、以下に該当する場合は転居元が属する都道府県から参加することができる。

ア　転居先が属する都道府県の代表が既に決定している場合

イ　当該参加者が、転居元が属する都道府県の代表として既に決定している場合

ウ　当該参加者が、転居元が属する都道府県の代表選考過程にある場合

⑵　転居した時点において、以下に該当する場合は転居先が属する都道府県から参加することができる。

ア　転居元が属する都道府県において、当該大会における都道府県代表の選考が開始されていない場合

別記３　「JOC エリートアカデミーに係る選手の参加資格の特例措置」

公益財団法人日本オリンピック委員会が実施する「JOC エリートアカデミー」に係る選手のうち、下記１に該当する者については、国民スポーツ大会開催基準要項細則第３項〔国民スポーツ大会開催基準要項第８項第１号及び第 10 項第４号（参加資格及び年齢基準等）〕及び別記１「国民スポーツ大会ふるさと選手制度」に関し、次の２～４の特例を適用する。

１　対象者

⑴　少年種別年齢域の選手で JOC エリートアカデミーに在籍する者

⑵　成年種別年齢域の選手で JOC エリートアカデミーを修了した者、又は同アカデミーに在籍する者

２　少年種別年齢域の選手の所属都道府県

本特例第１項－⑴に定める少年種別年齢域の選手は、その所属都道府県について、国民スポーツ大会開催基準要項細則第３項－⑴－2）- ②に定める「居住地を示す現住所」、「学校教育法第１条に規定する学校の所在地」、「勤務地」のほか、卒業小学校の所在地が属する都道府県を選択することができる。

なお、同アカデミーへの入校時において小学生であった場合には、入校する直前まで通学していた小学校の所在地が属する都道府県を選択することができる。

３　成年種別年齢域の選手の「ふるさと」

本特例第１項－⑵に定める成年種別年齢域の選手は、「国民スポーツ大会ふるさと選手制度」第２項に定める卒業小学校、卒業中学校又は卒業高等学校のいずれかの所在地が属する都道府県のほか、同アカデミーでの入校時において小学生であった場合には、入校する直前まで通学していた小学校の所在地が属する都道府県を「ふるさと」とすることができる。

４　国内移動選手の制限に係る例外適用

本特例第１項－⑴に定める少年種別年齢域の選手が前回の大会（都道府県大会を含む）と異なる都道府県から参加する場合、国民スポーツ大会開催基準要項細則第３項－⑴－1）－③（国内移動選手の制限）に抵触しないものとする。

［注］　本特例第１項－⑵に定める成年種別年齢域の選手については、国民スポーツ大会開催基準要項細則第３項－⑴－1）－③（国内移動選手の制限）の規定に従い取り扱うものとする。

５　その他

中央競技団体が国際競技力向上施策として独自に実施するアカデミー事業については、当該中央競技団体からの申請を踏まえ、当該事業の内容が JOC エリートアカデミーに準拠し実施されていることが、公益財団法人日本オリンピック委員会により確認された場合に限り、国民スポーツ大会委員会の決議を経て当該事業を本特例の対象に加えることができる。

別記４　「トップアスリートの国民スポーツ大会参加資格の特例措置」

我が国の競技力向上を支援する観点より、一定の競技力を有する選手に対して、「トップアスリートの国民スポーツ大会参加資格の特例措置（以下「本特例」という。）」を下記のとおり定める。

１　特例の対象となる選手

本特例の対象となる選手は、下記の条件のいずれかを満たす者とする。

⑴　第 33 回オリンピック競技大会（2024 年・パリ）に参加した者。

⑵　2026 年４月 30 日時点で、下記のいずれかに該当し、各中央競技団体が本特例の対象として認めた者

ア　JOC オリンピック強化指定選手

イ　各競技（種目）における国内ランキング上位 10 位以内の者

ウ　中央競技団体が定めた強化指定選手

※　強化指定ランクについては、各競技における全日本選手権大会入賞レベル以上のカテゴリーを対象とする。

２　特例の内容

⑴　予選会の免除

本特例の対象となる選手については、都道府県予選会及びブロック大会を経ずに国民スポーツ大会本大会に参加することができるものとする。ただし、ブロック大会実施競技種目・種別においては、当該都道府県代表選手又はチームがブロック大会に参加し、本大会参加枠を獲得している場合とする。

⑵　資格要件（日数要件の緩和）

本特例の対象となる選手が所属都道府県として「居住地を示す現住所」又は「勤務地」を選択する場合は、日数に関する要件を定めないこととし、以下のとおりとする。

ア　居住地を示す現住所

次の要件をいずれも満たすものとする。

（ｱ）　2026 年４月 30 日以前から大会終了時（2026 年 10 月 20 日）まで引き続き、住民票記載の住所に存する都道府県において生活している実態があり、当該都道府県以外（海外を含む）において生活している実態がないこと。

なお、生活の実態については、下記要件により判断する。

ａ　自ら所有する住居、又は自らの名義で住居を賃借していること

ｂ　当該住居に生計を一にする家族と共に住んでいること

ｃ　当該住居の水道光熱費など費用を自ら負担していること

ｄ　当該住居に主要な家財道具が存すること

（ｲ）　合宿、試合等により当該都道府県外で活動を行う場合、当該都道府県を移動の起点としていること。

イ　勤務地

次の要件をいずれも満たすものとする。

（ｱ）　2026 年４月 30 日以前から大会終了時（2026 年 10 月 20 日）まで引き続き、雇用主と雇用契約を締結した上で、当該都道府県内に存する雇用主の会社や事業所等に現実に通勤し、勤務していること。

（ｲ）　当該都道府県内で、競技普及活動等の事業に参加すること。

３　国内移動選手の制限

本特例の対象となる選手の国内移動選手の制限については、国民スポーツ大会開催基準要項細則第３項－⑴－1）－③のとおりとする。

別記５　「東日本大震災に係る選手及び監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」

１　特例の対象となる被災地域都道府県

震災による被害状況及び影響等を総合的に勘案し、青森県、岩手県、宮城県、福島県、茨城県、千葉県の６県を本特例の適用対象となる被災地域都道府県（以下「特例対象県」という。）とする。

なお、特例対象県以外の都道府県において対応が必要となった場合は、個別に取り扱うこととする。

２　特例の内容

⑴　特例対象県を所属都道府県とする場合の要件緩和

以下の選手及び監督については、「居住地を示す現住所」、「学校所在地」又は「勤務地」の各要件を満たしていなくとも、当該特例対象県から参加することができる。

【特例の対象者】

被災地域からの避難等、災害の影響によるやむを得ない事情によって、当該特例対象県における「居住地を示す現住所」、「学校所在地」又は「勤務地」の各要件を満たすことができなくなった者。

ただし、以下の事項のいずれにも該当していること。

ア　2011 年３月 11 日（震災発生時）時点において、当該特例対象県内に居住又は勤務していた者。若しくは当該特例対象県内の「学校教育法」第１条に規定する学校に在籍していた者であること。

イ　災害が発生しなかったと仮定した場合、2026 年４月 30 日以前から大会終了時（2026 年 10 月 20 日）まで継続して当該特例対象県を「居住地を示す現住所」、「学校所在地」又は「勤務地」とする要件を満たしていたと合理的に推測される者であること。

⑵　避難等による移動先の都道府県を所属都道府県とする場合の要件緩和

ア　被災地域からの避難等により、当該特例対象県と異なる都道府県に移動した以下の選手及び監督については、移動先の都道府県から参加することができる。

なお、この場合、第 78 回又は第 79 回大会に当該特例対象県から参加していても、国民スポーツ大会開催基準要項細則第３項－⑴－1）－③（国内移動選手の制限）には抵触しないものとする。

【特例の対象者】

被災地域からの避難等、災害の影響によるやむを得ない事情によって、当該特例対象県から移動せざるを得なかった者。

ただし、以下の事項のいずれにも該当していること。

(ｱ)　2011 年３月 11 日時点において、当該特例対象県内に居住又は勤務していた者。若しくは当該特例対象県内の「学校教育法」第１条に規定する学校に在籍していた者であること。

(ｲ)　移動先の都道府県を「居住地を示す現住所」、「学校所在地」又は「勤務地」とする要件を満たしていること。

なお、移動が生じた時期が 2026 年４月 30 日以降の場合は、移動先の都道府県の予選会開始までに要件を満たしていることとする。

［注］　「居住地を示す現住所」及び「学校所在地」として参加を希望する者については、当該自治体への住所に関する届出又は学籍に係る要件を満たしていなくとも、それに準ずる公的な証明書類を提出でき、かつ移動先の都道府県に居住あるいは通学している実態を有していると日本スポーツ協会が認めた場合、移動先の都道府県から出場す

ることができる。

イ　本項アを適用して避難等による移動先の都道府県から第 79 回大会又は第 80 回大会に参加した者が、第 81 回大会において、以下のような震災にかかる理由により再度都道府県を移動して参加する場合は、国民スポーツ大会開催基準要項細則第３項－⑴－1）－③（国内移動選手の制限）には抵触しないものとする。

＜例＞　○　避難先を離れ、当該特例対象県に戻る場合

○　避難先を離れ、他の都道府県を「居住地を示す現住所」、「学校所在地」又は「勤務地」とする場合

○　他の都道府県に避難先を移す場合

⑶　避難等による移動先の属する都道府県において学校を卒業した場合の「ふるさと」選択要件の緩和

避難等による移動先の属する都道府県において小学校、中学校又は高等学校を卒業した者が、成年種別年齢域に達した際、「国民スポーツ大会ふるさと選手制度」を活用して参加する場合、以下のいずれかを「ふるさと」として登録することができる。

ア　卒業小学校、卒業中学校又は卒業高等学校の所在地

イ　災害の発生した時点で在籍していた小学校、中学校又は高等学校の所在地

なお、本特例を適用して上記イの学校所在地を「ふるさと」として登録した場合についても、卒業小学校、卒業中学校又は卒業高等学校の所在地を「ふるさと」とする場合と同様、一度登録した「ふるさと」は変更できない。

【特例の対象者】

2011年度から2012年度（小学校は2015年度）までに、避難等による移動先の属する都道府県において小学校、中学校又は高等学校を卒業した者。

別記６　「令和６年能登半島地震に係る選手及び監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」

１　特例の対象となる被災地域都道府県

震災による被害状況及び影響等を総合的に勘案し、新潟県、富山県、石川県、福井県の４県を本特例の適用対象となる被災地域都道府県（以下「特例対象県」という。）とする。

なお、特例対象県以外の都道府県において対応が必要となった場合は、個別に取り扱うこととする。

２　特例の内容

⑴　特例対象県を所属都道府県とする場合の要件緩和

以下の選手及び監督については、「居住地を示す現住所」、「学校所在地」又は「勤務地」の各要件を満たしていなくとも、当該特例対象県から参加することができる。

【特例の対象者】

被災地域からの避難等、災害の影響によるやむを得ない事情によって、当該特例対象県における「居住地を示す現住所」、「学校所在地」又は「勤務地」の各要件を満たすことができなくなった者。

ただし、以下の事項のいずれにも該当していること。

ア　2024 年１月１日（震災発生時）時点において、当該特例対象県内に居住又は勤務していた者。若しくは当該特例対象県内の「学校教育法」第１条に規定する学校に在籍していた者であること。

イ　災害が発生しなかったと仮定した場合、2026 年４月 30 日以前から当該大会終了時（2026 年 10 月 20 日）まで継続して当該特例対象県を「居住地を示す現住所」、「学校所在地」又は「勤務地」とする要件を満たしていたと合理的に推測される者であること。

⑵　避難等による移動先の都道府県を所属都道府県とする場合の要件緩和

ア　被災地域からの避難等により、当該特例対象県と異なる都道府県に移動した以下の選手及び監督については、移動先の都道府県から参加することができる。

なお、この場合、第 78 回大会又は第 79 回大会に、当該特例対象県から参加していても、国民スポーツ大会開催基準要項細則第３項－⑴－1）－③（国内移動選手の制限）には抵触しないものとする。

【特例の対象者】

被災地域からの避難等、災害の影響によるやむを得ない事情によって、当該特例対象県から移動せざるを得なかった者。

ただし、以下の事項のいずれにも該当していること。

(ｱ)　2024 年１月１日時点において、当該特例対象県内に居住又は勤務していた者。若しくは当該特例対象県内の「学校教育法」第１条に規定する学校に在籍していた者であること。

(ｲ)　移動先の都道府県を「居住地を示す現住所」、「学校所在地」又は「勤務地」とする要件を満たしていること。

なお、移動が生じた時期が 2026 年４月 30 日以降の場合は、移動先の都道府県の予選会開始までに要件を満たしていることとする。

［注］　「居住地を示す現住所」及び「学校所在地」として参加を希望する者については、当該自治体への住所に関する届出又は学籍に係る要件を満たしていなくとも、それに準ずる公的な証明書類を提出でき、かつ移動先の都道府県に居住あるいは通学してい

る実態を有していると日本スポーツ協会が認めた場合、移動先の都道府県から出場することができる。

イ　本項アを適用して避難等による移動先の都道府県から第 79 回大会又は第 80 回大会に参加した者が、第 81 回大会において、以下のような震災に係る理由により再度都道府県を移動して参加する場合は、国民スポーツ大会開催基準要項細則第３項－⑴－1）－③（国内移動選手の制限）には抵触しないものとする。

＜例＞　○　避難先を離れ、当該特例対象県に戻る場合

○　避難先を離れ、他の都道府県を「居住地を示す現住所」、「学校所在地」又は「勤務地」とする場合

○　他の都道府県に避難先を移す場合

⑶　避難等による移動先の属する都道府県において学校を卒業した場合の「ふるさと」選択要件の緩和

避難等による移動先の属する都道府県において小学校、中学校又は高等学校を卒業した者が、成年種別年齢域に達した際、「国民スポーツ大会ふるさと選手制度」を活用して参加する場合、以下のいずれかを「ふるさと」として登録することができる。

ア　卒業小学校、卒業中学校又は卒業高等学校の所在地

イ　災害の発生した時点で在籍していた小学校、中学校又は高等学校の所在地

なお、本特例を適用して上記イの学校所在地を「ふるさと」として登録した場合についても、卒業小学校、卒業中学校又は卒業高等学校の所在地を「ふるさと」とする場合と同様、一度登録した「ふるさと」は変更できない。

【特例の対象者】

2024年度から2025年度（小学校は2028年度）までに、避難等による移動先の属する都道府県において小学校、中学校又は高等学校を卒業した者。

〔15〕ソフトテニス競技

1　期　　日　　2026年10月16日（金）から10月19日（月）まで（４日間）

種　　別	10月16日（金）	10月17日（土）	10月18日（日）	10月19日（月）
成年男子			１・２回戦 準々決勝	準決勝 決勝 ３～８位決定戦
成年女子			１回戦 準々決勝	準決勝 決勝 ３～８位決定戦
少年男子	１・２・３回戦	準々決勝 準決勝 決勝 ３～８位決定戦		
少年女子	１・２回戦 準々決勝	準決勝 決勝 ３～８位決定戦		

2　会　　場　　青森市（全種別）　　新青森県総合運動公園テニスコート

3　種別及び参加人員

種　　別	監　　督	選　　手	参加都道府県	小　　計	合　計（人）
成年男子	1	5	24	144	648
成年女子	1	5	16	96	
少年男子	1	5	47	282	
少年女子	1	5	21	126	

4　競技上の規程及び方法

⑴　競技は全て公益財団法人日本ソフトテニス連盟ソフトテニスルールブックにより行う。

⑵　試合方法について

ア　各種別とも点取り法によるダブルス２ペア・シングルス１名によるチーム対抗戦とし、マッチは全て７ゲームとする。

イ　対戦はダブルス・シングルス・ダブルスの順とする。ただし、１対戦中選手は重複して出場できない。

ウ　対戦の都度オーダーを変えてもよい。

エ　メンバーに欠員が生じた場合のオーダーは、ダブルス・シングルスの順に出場しなければならない。

オ　各種別ともトーナメント方式によって勝敗を決める。ただし、天候その他の事情により変更することもある。

カ　対戦するチームが初回戦の場合はダブルス・シングルス・ダブルス全ての試合を行うが、それ以降は２点先取制とする。ただし、天候その他の事情により変更することもある。

⑶　監督について

ア　各種別に監督を配置し、他種別と兼ねることはできない。

イ　監督を選手が兼ねることはできない。

⑷　選手・監督の交代について

ア　選手・監督の交代は、認めない。ただし、特別な事情があるときは、その理由を明記して監督会議開始前までに、当該都道府県スポーツ協会会長・競技団体会長から選手交代届を総則８－⑹のとおりに提出し、承認された者に限り出場できる。

イ　選手と監督の入替えは認めない。

5　予選方法

⑴　都道府県連盟は、種別ごとに都道府県大会を実施し、ブロック大会に出場するチームを決定する。

⑵　各ブロック大会主管連盟は、本大会実施要項に準じてブロック大会を実施し、本大会に出場する代表を決定する。ただし、少年男子の代表はブロック大会を行わないで本大会に出場できる。

⑶　ブロック大会の所属都道府県及びその選抜チーム数は、下表のとおりとする。

ブロック名	都　道　府　県　名	成年男子	成年女子	少年女子
北海道	北海道	1	1	1
東　北	岩手、宮城、秋田、山形、福島	3	2	3
関　東	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、山梨	4	2	4
北信越	新潟、長野、富山、石川、福井	2	2	2
東　海	静岡、愛知、三重、岐阜	2	1	2
近　畿	滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山	3	2	2
中　国	鳥取、島根、岡山、広島、山口	2	2	2
四　国	香川、徳島、愛媛、高知	2	1	1
九　州	福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄	4	2	3
開催県	青森	1	1	1
計		24	16	21

6　参加資格、所属都道府県及び選手の年齢基準

総則５に定めるものとする。

なお、少年種別に参加できる選手には、2011 年４月２日から 2012 年４月１日までの間に生まれた中学３年生を含むものとする。

また、監督は、公益財団法人日本スポーツ協会公認スポーツ指導者制度に基づく、公認ソフトテニスコーチ１、公認ソフトテニスコーチ２、公認ソフトテニスコーチ３、公認ソフトテニスコーチ４のいずれかの資格を有していること。

7　総合成績決定方法

男女総合成績（天皇杯得点）及び女子総合成績（皇后杯得点）は、競技得点と参加得点の合計とし、その得点の多い都道府県順に第１位から第８位までを決定する。

ただし、同点の場合は、その順位を共有し、次の順位を欠位とする。

⑴　競技得点

天皇杯対象種別	皇后杯対象種別	競　技　得　点
成　年　男　子 成　年　女　子 少　年　男　子 少　年　女　子	成　年　女　子 少　年　女　子	各種別とも１位 40 点、２位 35 点、３位 30 点、４位 25 点、５位 20 点、６位 15 点、７位 10 点、８位５点の競技得点を与える。 ただし、４－(2)オにより同順位の場合は、その順位を共有し、次の順位を欠位とする。なお、得点は次の順位のものを加え、当該都道府県で等分する。

⑵　参加得点

大会（ブロック大会を含む）に参加した都道府県に 10 点を与える。ただし、ブロック大会で本大会の出場権を獲得しながら、本大会に参加しなかった場合は与えない。

８　表　　彰

⑴　男女総合成績及び女子総合成績第１位から第８位までの都道府県に、表彰状を授与する。
⑵　男女総合成績第１位の都道府県に、大会会長トロフィーを授与する。
⑶　各種別の第１位から第８位までに、賞状を授与する。

９　参加申込方法

総則８に定めるもののほか、次による。

⑴　所定の Web ページ（国民スポーツ大会参加申込システム）へアクセスし、必要項目を入力の上、所属都道府県スポーツ協会を通じて、2026 年９月３日（木）午後５時までに申込手続を完了すること。

⑵　締切期限以降は、所定の Web ページ（国民スポーツ大会参加申込システム）へアクセスできなくなるので、締切期限を厳守すること。

⑶　参加申込締切後の選手・監督変更は、疾病、傷害等の特別な場合のみ認めるものとし、監督会議開始前までに下記ア、イ、ウ宛てにそれぞれ文書をもって届け出なければならない。

ア　〒140-0014　東京都品川区大井一丁目 16 番地２号 201 号室
公益財団法人日本ソフトテニス連盟
TEL 03-6417-1654　FAX 03-6417-1664
E-mail　aomori2026kokuspo@jsta.or.jp

イ　〒030-8570　青森県青森市長島一丁目１番１号
青の煌めきあおもり国スポ・障スポ実行委員会事務局
（青森県国スポ・障スポ局　競技式典課　競技運営グループ）
TEL 017-734-9771　FAX 017-734-8015
E-mail　aomori2026kyougiunei@pref.aomori.lg.jp

ウ　〒038-8505　青森県青森市柳川二丁目１番１号
青の煌めきあおもり国スポ・障スポ青森市実行委員会事務局
（青森市経済部国スポ・障スポ競技課）
TEL 017-761-4458　FAX 017-761-4489
E-mail　softtennis2026@city.aomori.aomori.jp

なお、イ、ウについては、原則メールにて提出とする。また、公益財団法人日本スポーツ協会に対しては、大会終了後、別途、所定の手続きにより、参加申込情報を修正すること。

10　参加上の注意

各都道府県の代表選手は、競技の際に、必ずその都道府県名・姓（苗字）を記載したゼッケンを着用すること。

なお、ゼッケンは開催地にて用意する。

コート内でのビデオカメラ等での映像の撮影は禁止する。また、選手の写真や動画などのSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）関連への無断掲載は、個人情報保護の観点から禁止する。

11　その他

⑴　組合せ抽選会

日　時　　2026年9月7日（月）　午後3時30分

場　所　　JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE　公益財団法人日本スポーツ協会会議室

〒160-0013　東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号

JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 12階

TEL 03-6417-1654　FAX 03-6417-1664

⑵　公式練習（全種別）

日　時　　2026年10月15日（木）

場　所　　①　新青森県総合運動公園テニスコート

〒039-3505 青森県青森市大字宮田字高瀬22番地2

TEL 017-737-0601　FAX 017-726-3691

②　大進建設スポーツ広場テニスコート

〒030-0123　青森市大字大矢沢字野田87番地4

TEL 017-764-5525

なお、コート割りについては別途通知する。

⑶　本部役員打合せ会議

日　時　　2026年10月15日（木）　午後2時

場　所　　青森県総合社会教育センター　2階　第3研修室

〒030-0111　青森県青森市大字荒川字藤戸119番地7

TEL 017-739-1251　FAX 017-739-2570

⑷　監督会議

日　時　　2026年10月15日（木）　午後3時

場　所　　青森県総合社会教育センター　2階　大研修室

〒030-0111　青森県青森市大字荒川字藤戸119番地7

TEL 017-739-1251　FAX 017-739-2570

⑸　表彰式

（少年男女）

日　時　　2026年10月17日（土）　全対戦終了30分後

場　所　　新青森県総合運動公園テニスコート

〒039-3505　青森県青森市大字宮田字高瀬22番地2

（成年男女・総合）

日　時　　2026年10月19日（月）　全対戦終了30分後

場　所　　新青森県総合運動公園テニスコート

〒039-3505　青森県青森市大字宮田字高瀬22番地2

表 彰 式 次 第

種別表彰式
（少年男子・少年女子）

日　時　　令和８年１０月１７日（土）
　　競技終了３０分後

会　場　　新青森県総合運動公園テニスコート（S5・S6）
　　※雨天時は公園内「ひだまり広場」大テント

順序	次　　第
	選手・役員整列完了
1	開式通告
2	種別成績発表
3	賞状授与・副賞贈呈
4	競技会会長あいさつ
5	歓送のことば
6	閉式通告
	選手・役員解散

種別表彰式・総合表彰式
（成年男子・成年女子）

日　時　　令和８年１０月１９日（月）
　　競技終了３０分後

会　場　　新青森県総合運動公園テニスコート（S5・S6）
　　※雨天時は公園内「ひだまり広場」大テント

順序	次　　第
	選手・役員整列完了
1	開式通告
2	種別成績発表
3	賞状授与・副賞贈呈
4	総合成績発表
5	表彰状授与
6	大会会長トロフィー授与
7	競技会会長あいさつ
8	歓送のことば
9	国旗・諸旗儀礼
10	競技会終了宣言
11	閉式通告
	選手・役員解散

〔15〕ソフトテニス競技

競 技 日 程

競技会場　：　新青森県総合運動公園テニスコート

10月16日（金）	10月17日（土）	10月18日（日）	10月19日（月）
受付完了（少年女子）　9:45 競技開始（少年女子）　9:00 受付完了（少年男子）　9:45 競技開始（少年男子）　10:45	受付完了　8:30 競技開始　9:30	受付完了（成年男子）　8:00 競技開始（成年男子）　9:00 受付完了（成年女子）　9:45 競技開始（成年女子）　10:45	受付完了　8:00 競技開始　9:00
少年男子 1回戦 10:45～12:30 （15試合） 2回戦 12:30～14:15 （16試合） 3回戦 14:15～16:00 （8試合）	少年男子 準々決勝 9:30～11:15 （4試合） 準決勝・5～8位順位戦 11:15～13:00 （4試合） 決勝戦・3～8位決定戦 13:00～14:45 （4試合）	成年男子 1回戦 9:00～10:45 （8試合） 2回戦 10:45～12:30 （8試合） 準々決勝 12:30～14:15 （4試合）	成年男子 準決勝・5～8位順位戦 9:00～10:45 （4試合） 3～8位決定戦 10:45～12:30 （3試合） 決勝戦 12:30～14:15 （1試合）
少年女子 1回戦（5試合）2回戦（2試合） 9:00～10:45 2回戦 10:45～12:30　（5試合） 12:30～14:15　（1試合） 準々決勝 12:30～14:15　（3試合） 14;15～16:00　（1試合）	少年女子 準決勝・5～8位決定戦 9:30～11:15 （4試合） 3～8位決定戦 11:15～13:00 （3試合） 決勝戦 13:00～14:45 （1試合）	成年女子 1回戦 10:45～12:30 （8試合） 準々決勝 12:30～14:15 （4試合）	成年女子 準決勝・5～8位順位戦 9:00～10:45 （4試合） 3～8位決定戦 10:45～12:30 （3試合） 決勝戦 12:30～14:15 （1試合）
	種別表彰式 （全対戦終了30分後）		種別・総合表彰式 （全対戦終了30分後）

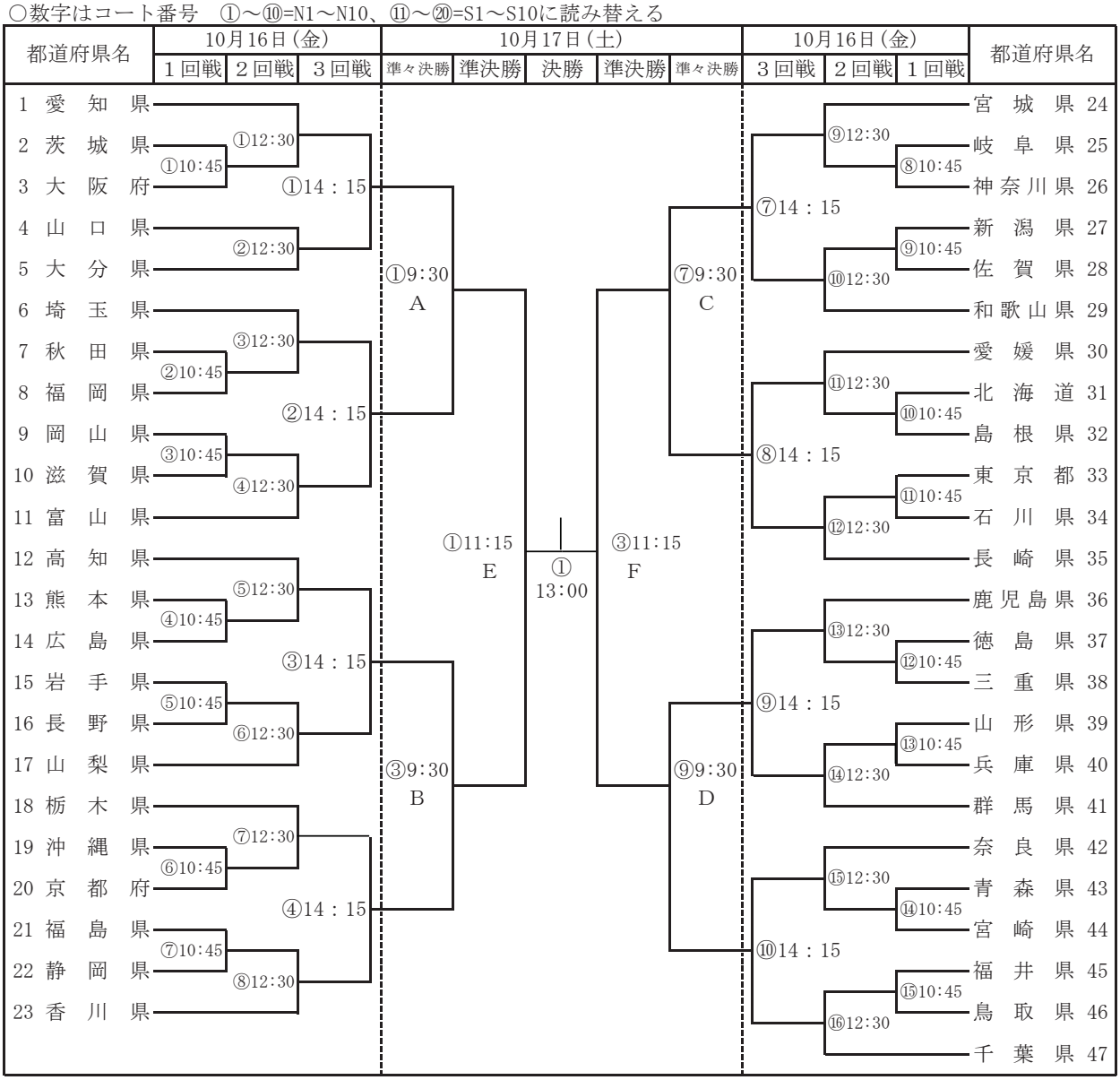
会 議 日 程

会　議　名	日　　時	場　　所
本部役員打合せ会議	10月15日（木）　14:00～	青森県総合社会教育センター２階第３研修室
監督会議	10月15日（木）　15:00～	青森県総合社会教育センター２階大研修室
開始式	10月15日（木）　16:00～	青森県総合社会教育センター３階大研修室

ソフトテニス競技組合せ表

【少年男子】

○数字はコート番号　①～⑩=N1～N10、⑪～⑳=S1～S10に読み替える



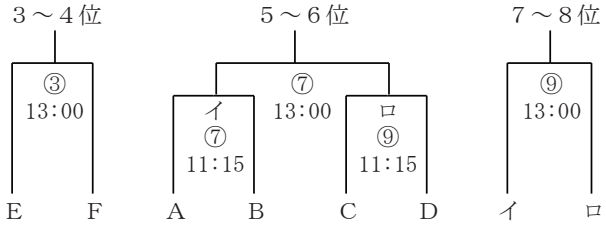
10月17日

都道府県名	決勝	都道府県名
・	―	・
	―	
・	―	・
	対	

都道府県名	準決勝	都道府県名
・	―	・
	―	
・	―	・
	対	

都道府県名	準決勝	都道府県名
・	―	・
	―	
・	―	・
	対	

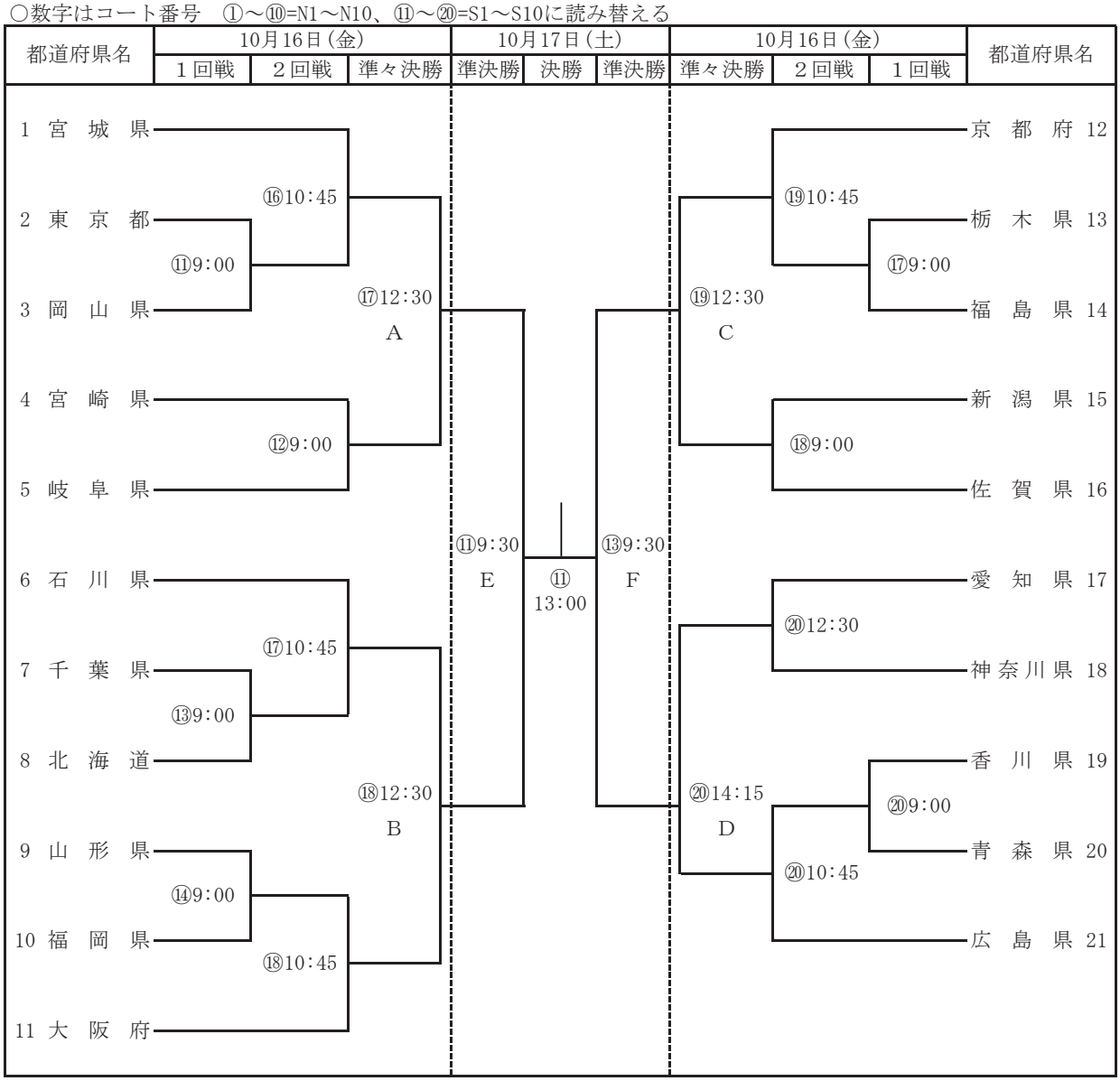
都道府県名	3・4位決定	都道府県名
・	―	・
	―	
・	―	・
	対	



ソフトテニス競技組合せ表

【少年女子】

○数字はコート番号　①～⑩=N1～N10、⑪～⑳=S1～S10に読み替える



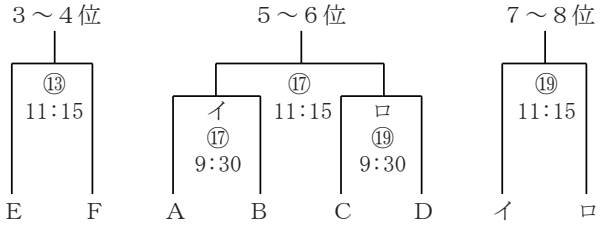
10月17日

都道府県名	決勝	都道府県名
・	―	・
	―	
・	―	・
	対	

都道府県名	準決勝	都道府県名
・	―	・
	―	
・	―	・
	対	

都道府県名	準決勝	都道府県名
・	―	・
	―	
・	―	・
	対	

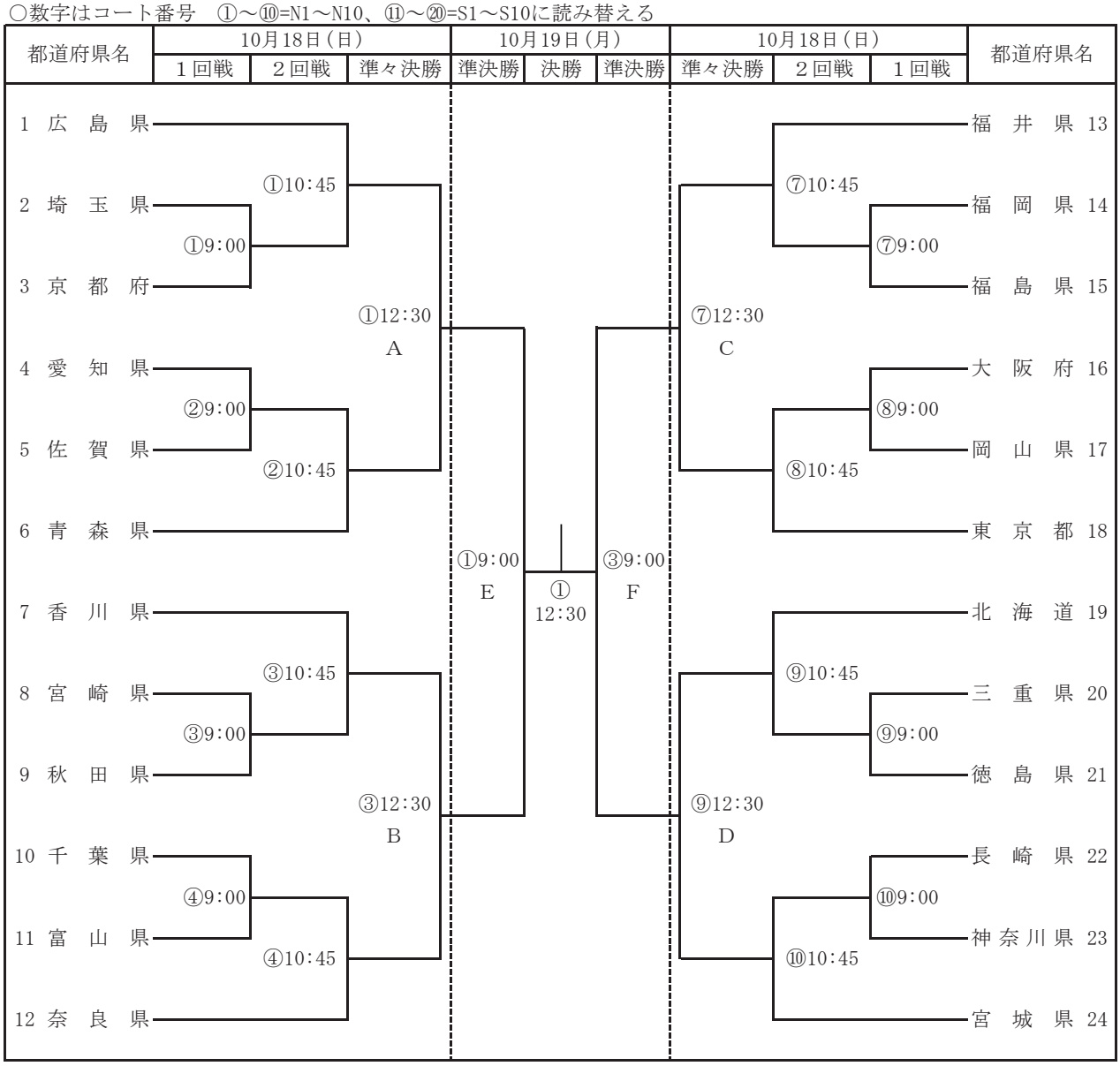
都道府県名	3・4位決定	都道府県名
・	―	・
	―	
・	―	・
	対	



ソフトテニス競技組合せ表

【成年男子】

○数字はコート番号　①～⑩=N1～N10、⑪～⑳=S1～S10に読み替える



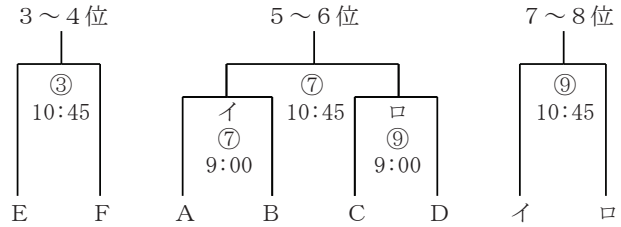
10月19日

都道府県名	決勝	都道府県名
・	―	・
	―	
・	―	・
	対	

都道府県名	準決勝	都道府県名
・	―	・
	―	
・	―	・
	対	

都道府県名	準決勝	都道府県名
・	―	・
	―	
・	―	・
	対	

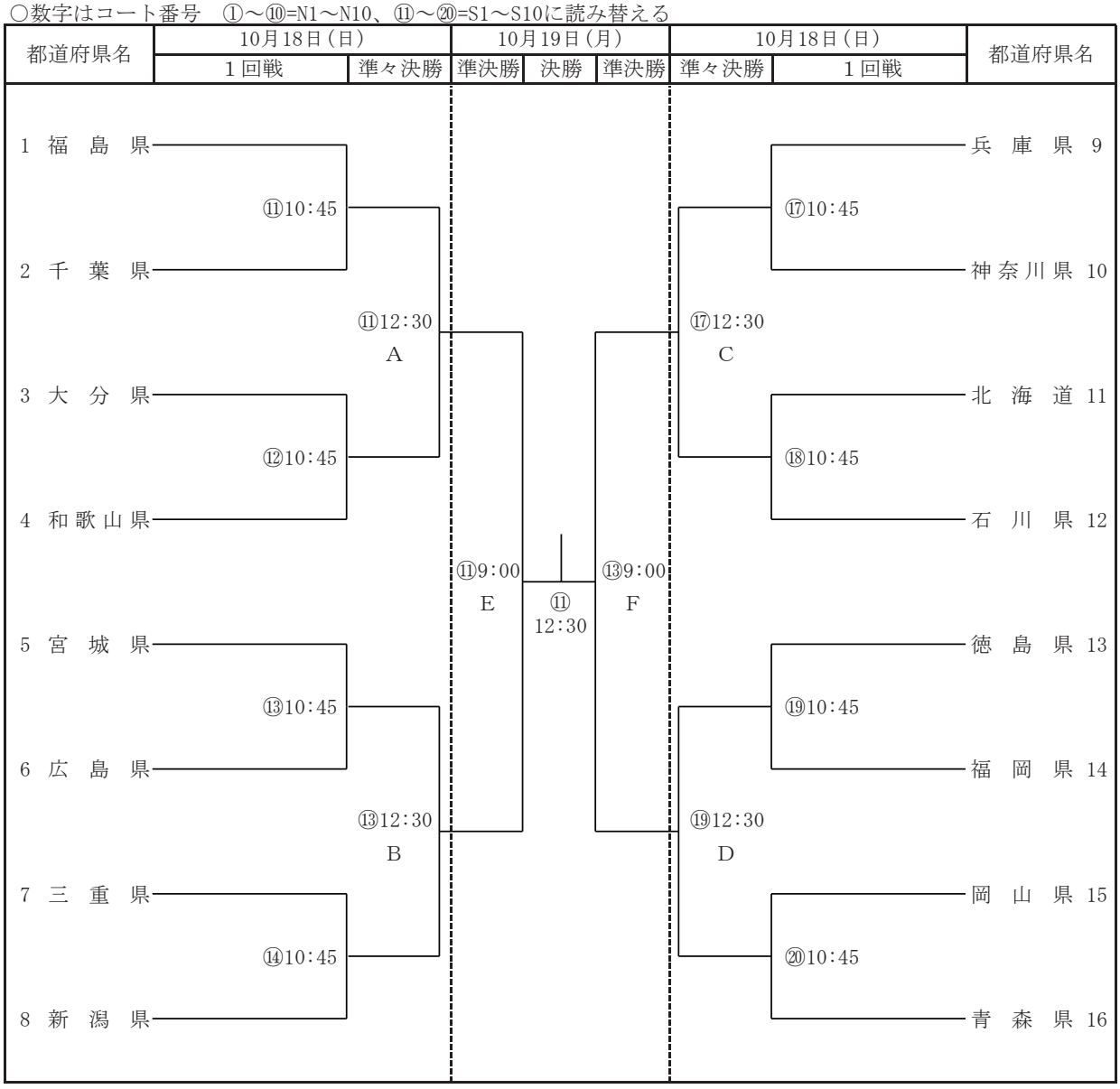
都道府県名	3・4位決定	都道府県名
・	―	・
	―	
・	―	・
	対	



ソフトテニス競技組合せ表

【成年女子】

○数字はコート番号　①～⑩=N1～N10、⑪～⑳=S1～S10に読み替える



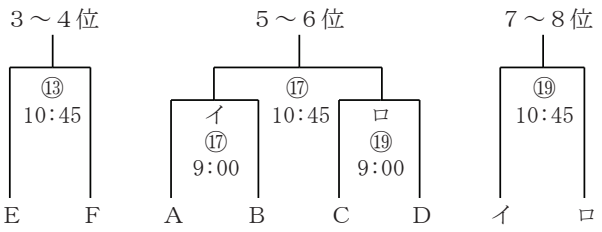
10月19日

都道府県名	決勝	都道府県名
・	―	・
	―	
・	―	・
	対	

都道府県名	準決勝	都道府県名
・	―	・
	―	
・	―	・
	対	

都道府県名	準決勝	都道府県名
・	―	・
	―	
・	―	・
	対	

都道府県名	3・4位決定	都道府県名
・	―	・
	―	
・	―	・
	対	



競技進行表
（少年男子・少年女子）

１０月１６日（金）

種別・時間	N1コート	N2コート	N3コート	N4コート	N5コート	N6コート	N7コート	N8コート	N9コート	N10コート	S1コート	S2コート	S3コート	S4コート	S5コート	S6コート	S7コート	S8コート	S9コート	S10コート
少女1回戦 ９：００～１０：４５											少年女子 2 － 3	少年女子 4 － 5	少年女子 7 － 8	少年女子 9 － 10			少年女子 13 － 14	少年女子 15 － 16		少年女子 19 － 20
少男1回戦・少女2回戦 １０：４５～１２：３０	少年男子 2 － 3	少年男子 7 － 8	少年男子 9 － 10	少年男子 13 － 14	少年男子 15 － 16	少年男子 19 － 20	少年男子 21 － 22	少年男子 25 － 26	少年男子 27 － 28	少年男子 31 － 32	少年男子 33 － 34	少年男子 37 － 38	少年男子 39 － 40	少年男子 43 － 44	少年男子 45 － 46	少年女子 1 ～ 3	少年女子 6 ～ 8	少年女子 9 ～ 11	少年女子 12 ～ 14	少年女子 19 ～ 21
少男2回戦・少女2・3回戦 １２：３０～１４：１５	少年男子 1 ～ 3	少年男子 4 － 5	少年男子 6 ～ 8	少年男子 9 ～ 11	少年男子 12 ～ 14	少年男子 15 ～ 17	少年男子 18 ～ 20	少年男子 21 ～ 23	少年男子 24 ～ 26	少年男子 27 ～ 29	少年男子 30 ～ 32	少年男子 33 ～ 35	少年男子 36 ～ 38	少年男子 39 ～ 41	少年男子 42 ～ 44	少年男子 45 ～ 47	少年女子 1 ～ 5	少年女子 6 ～ 11	少年女子 12 ～ 16	少年女子 17 － 18
少男3回戦・少女3回戦 １４：１５～１６：００	少年男子 1 ～ 5	少年男子 6 ～ 11	少年男子 12 ～ 17	少年男子 18 ～ 23			少年男子 24 ～ 29	少年男子 30 ～ 35	少年男子 36 ～ 41	少年男子 42 ～ 47										少年女子 17 ～ 21

※　進行状況によりコート変更する場合があります。　　※　進行状況により複数面展開する場合があります。

１０月１７日（土）

種別・時間	N1コート	N2コート	N3コート	N4コート	N5コート	N6コート	N7コート	N8コート	N9コート	N10コート	S1コート	S2コート	S3コート	S4コート	S5コート	S6コート	S7コート	S8コート	S9コート	S10コート
少男準々戦・少女準決戦 ９：３０～１１：１５	少年男子 準々決勝 1 ～ 11		少年男子 準々決勝 12 ～ 23				少年男子 準々決勝 24 ～ 35		少年男子 準々決勝 36 ～ 47		少年女子 準決勝 1 ～ 11		少年女子 準決勝 12 ～ 21				少年女子 順位戦 A － B		少年女子 順位戦 C － D	
少男準決戦・少女順位戦 １１：１５～１３：００	少年男子 準決勝 1 ～ 23		少年男子 準決勝 24 ～ 47				少年男子 順位戦 A － B		少年男子 順位戦 C － D				少年女子 3・4位決定 E － F				少年女子 5・6位決定 A ～ D		少年女子 7・8位決定 イ － ロ	
少男決戦・少女決勝 １３：００～１４：４５	少年男子 決勝 1 ～ 47			少年男子 3・4位決定 E － F			少年男子 5・6位決定 A ～ D		少年男子 7・8位決定 イ － ロ		少年女子 決勝 1 ～ 21				（表彰式リハーサル）					
１４：４５															表彰式準備					
１５：１５															表彰式					

※　進行状況によりコート変更する場合があります。　　※　進行状況により複数面展開する場合があります。

競技進行表
（成年男子・成年女子）

１０月１８日（日）

種別・時間	N1コート	N2コート	N3コート	N4コート	N5コート	N6コート	N7コート	N8コート	N9コート	N10コート	S1コート	S2コート	S3コート	S4コート	S5コート	S6コート	S7コート	S8コート	S9コート	S10コート
成男1回戦	成年男子	成年男子	成年男子	成年男子			成年男子	成年男子	成年男子	成年男子										
９：００～１０：４５	2 － 3	4 － 5	8 － 9	10 － 11			14 － 15	16 － 17	20 － 21	22 － 23										
成男2回戦・成女1回戦	成年男子	成年男子	成年男子	成年男子			成年男子	成年男子	成年男子	成年男子	成年女子	成年女子	成年女子	成年女子			成年女子	成年女子	成年女子	成年女子
１０：４５～１２：３０	1 ～ 3	4 ～ 6	7 ～ 9	10 ～ 12			13 ～ 15	16 ～ 18	19 ～ 21	22 ～ 24	1 － 2	3 － 4	5 － 6	7 － 8			9 － 10	11 － 12	13 － 14	15 － 16
成男準々戦・成女準々戦	成年男子		成年男子				成年男子		成年男子		成年女子		成年女子				成年女子		成年女子	
１２：３０～１４：１５	1 ～ 6		7 ～ 12				13 ～ 18		19 ～ 24		1 ～ 4		5 ～ 8				9 ～ 12		13 ～ 16	

※　進行状況によりコート変更する場合があります。　　※　進行状況により複数面展開する場合があります。

１０月１９日（月）

種別・時間	N1コート	N2コート	N3コート	N4コート	N5コート	N6コート	N7コート	N8コート	N9コート	N10コート	S1コート	S2コート	S3コート	S4コート	S5コート	S6コート	S7コート	S8コート	S9コート	S10コート
成男準決戦・成女準決戦	成年男子		成年男子				成年男子		成年男子		成年女子		成年女子				成年女子		成年女子	
	準決勝		準決勝				順位戦		順位戦		準決勝		準決勝				順位戦		順位戦	
９：００～１０：４５	1 ～ 12		13 ～ 24				A － B		C － D		1 ～ 8		9 ～ 16				A － B		C － D	
成男順位戦・成女順位戦			成年男子				成年男子		成年男子				成年女子				成年女子		成年女子	
			3・4位決定				5・6位決定		7・8位決定				3・4位決定				5・6位決定		7・8位決定	
１０：４５～１２：３０			E － F				A ～ D		イ － ロ				E － F				A ～ D		イ － ロ	
成男決勝・成女決勝	成年男子										成年女子									
	決勝										決勝									
１２：３０～１４：１５	1 ～ 16										1 ～ 16									
１４：１５～															表彰式準備					
１４：４５～															表彰式					

※　進行状況によりコート変更する場合があります。　　※　進行状況により複数面展開する場合があります。

競 技 の 見 方

ソフトテニスの歴史

日本のソフトテニスは、明治１７年（１８８４年）に当時わが国の体育界の先覚者であった坪井玄道氏らによって東京高等師範学校（現筑波大学）において行われたのが始まりとされており、明治の初期に日本に伝来した近代テニス（ローンテニス）を基に、日本独特のゴムボールを使用するテニス（軟式テニス）が考案され、その後、先駆者達の努力によって全国津々浦々まで普及されました。

軟式テニス大会としての最初の記録は、明治３１年の東京高師と東京高商の対抗戦です。明治３６年には慶応大学、３７年には早稲田大学が加わり４校の対抗戦は大変な人気を博したそうです。

ソフトテニス競技は、平成２７年に創始１３０周年、（公財）日本ソフトテニス連盟創立９０周年を迎え、現在では大衆スポーツとして老若男女問わず幅広い年齢層が楽しめるスポーツとして普及・定着し、競技人口も約５０万人を数えています。

（公財）日本ソフトテニス連盟は、ソフトテニスの発展のため国際普及活動にも力を注ぎ、韓国・中華台北と共に、東南アジアへの普及活動も積極的に行い、昭和３１年からはアジア選手権大会を開催しています。後にこの国際普及活動には中国も参加することとなり、中国では昭和６１年にソフトテニスを正式に大学の科目として採用しました。

またアジアだけにとどまらずアメリカ・ハワイ・ヨーロッパ・アフリカ・南米等世界各地でもソフトテニス普及活動を行っています。昭和４９年には「国際軟式庭球連盟」結成を成し遂げ、昭和５０年にはハワイにおいて「第１回軟式庭球世界選手権大会」が開催されました。

こうして、ソフトテニスは国際スポーツの仲間入りをすることになりました。

平成２年の「北京アジア競技大会」では公開競技として開催され、平成６年の「広島アジア競技大会」では正式競技となりました。この両アジア競技大会の間にソフトテニスの国際化は急速に進むことになります。この流れを受け更なる国際化を図るため、平成４年には１００年以上続いた名称を「軟式庭球」から「ソフトテニス」と改め、平成５年からはシングルスの採用とサービス、ポジション、ファイナルゲームなどの変更を柱とした国際競技規則の制定が行われました。

その結果、平成１１年に台北市で開催された「第１１回世界選手権大会」では、過去最大の２６ヶ国（地域）が参加するに至りました。指導者は「世界を目指さないスポーツは衰退する」を肝に銘じ、選手達の「夢」であるオリンピック参加を目標に国際普及の推進に日々努力しています。また、平成１６年にも、競技規則を一部変更し「ソフトテニスハンドブック」で対応しています。

国際大会については、平成１７年「東アジア大会（マカオ）」、平成１８年「第１５回アジア競技大会（カタール・ドーハ）」、平成１９年「第１３回世界選手権大会（韓国・安城市）」（４０ケ国・地域が参加）、平成２０年には「第６回アジア選手権大会（韓国・聞慶市）」が開催されており、平成２１年には念願であった、第１回国際ジュニア大会を四日市市で開催しました。

平成２２年には「第１６回アジア競技大会（中国・広州市）」、平成２３年「第１４回世界選手権大会（韓国・聞慶市）」、平成２４年「第７回アジア選手権大会（中華台北・嘉義市）」、平成２５年「第６回東アジア競技大会（中国・天津市）」、平成２６年「第１７回アジア競技大会（韓国・仁川市）」、平成２７年「第１５回世界選手権大会（インド・ニューデリー市）」、平成２８年「第８回 アジア選手権大会（日本・千葉）、平成２９年は、「第２５回 日韓中ジュニア交流競技大会（日本・笠間市）、そして、　平成３０年は、「第１８回 アジア競技大会がインドネシア・パレンバンで開催されました。令和８年９月には「第２０回アジア競技大会」が愛知県名古屋市で開催されました。

ソフトテニスの見どころ

ソフトテニスは、テニスと同じように、ネットをはさんで相手と向かい合い、ラケットを使ってボールを打ち合ってポイントを競います。自分のコートに飛んできたボールをノーバウンド（コートに一度もつかない状態）か、ワンバウンド（コートに一度だけついた状態）で返します。

ソフトテニスの試合にはダブルスとシングルスがあり、対戦方法としては個人戦と団体戦があります。国スポの場合は、２０１５年の和歌山国体からダブルス・シングルス・ダブルスの都道府県対抗の団体戦で行われ、「成年男子」・「成年女子」「少年男子」・「少年女子」の４種別で試合が行われます。

各都道府県の代表チームは、監督が作戦を練り相手チームの特徴などの情報を集め自軍との比較により、出場選手（オーダー）を決定します。ダブルス２ペアシングルス１プレーヤーのうち２勝しなければ負けとなるため、どのプレーヤーを１番（ダブルス）、２番（シングルス）、３番（ダブルス）に起用するかが作戦として大切になります。

ソフトテニスのダブルスの魅力は、ラリー（球の打ち合い）が続くことと、２人のプレーヤーのコンビネーションの妙技にあります。

ラリーの見どころとしては、シュートボール（速いボール）での打ち合いの迫力はもちろん、ロビング（山なりのゆるいボール）やショートボールを織り交ぜた多彩な攻撃や、スマッシュやボレーなどの華麗なネットプレーが挙げられます。

コンビネーションは、パートナー同士がお互いにカバーし合うだけでなく、相手陣形を崩すような配球をしたり、ポジション取りを変えたりすることによって、味方のプレーヤーがポイントしやすいようにプレーしたり、相手のミスを誘ったりすることもあります。このようなことは平素からお互いの気持ちが通じ合っているから可能なことであり、ダブルスならではの魅力です。

シングルスでは、対戦する両プレーヤーの敏捷性や巧緻性、パワーや状況判断力、プレッシャーへの抵抗力、集中力などが勝敗の鍵になり、団体戦の２番目に入りますので、チームの勝敗の分かれ目となります。

ダブルスの特色である２人で協力して１ポイントを獲得するラリーの応酬はもちろんですが、より攻撃的なフォーメーションである２人のプレーヤーがネットに付き、ボレーやスマッシュでポイントをしたり、ソフトテニス独特のカットサービスを行うこともあります。

シングルス選手の個々の技と能力にも注目すると、またひと味違った競技の楽しみ方ができるはずです。

都道府県別参加人員一覧表

番号	都道府県	人員（監督含）	種別			
			少年男子	少年女子	成年男子	成年女子
1	北海道	24	6	6	6	6
2	青森県	24	6	6	6	6
3	岩手県	6	6			
4	宮城県	24	6	6	6	6
5	秋田県	12	6		6	
6	山形県	12	6	6		
7	福島県	24	6	6	6	6
8	茨城県	6	6			
9	栃木県	12	6	6		
10	群馬県	6	6			
11	埼玉県	12	6		6	
12	千葉県	24	6	6	6	6
13	東京都	18	6	6	6	
14	神奈川県	24	6	6	6	6
15	山梨県	6	6			
16	新潟県	18	6	6		6
17	長野県	6	6			
18	富山県	12	6		6	
19	石川県	18	6	6		6
20	福井県	12	6		6	
21	静岡県	6	6			
22	愛知県	18	6	6	6	
23	三重県	18	6		6	6
24	岐阜県	12	6	6		
25	滋賀県	6	6			
26	京都府	18	6	6	6	
27	大阪府	18	6	6	6	
28	兵庫県	12	6			6
29	奈良県	12	6		6	
30	和歌山県	12	6			6
31	鳥取県	6	6			
32	島根県	6	6			
33	岡山県	24	6	6	6	6
34	広島県	24	6	6	6	6
35	山口県	6	6			
36	香川県	18	6	6	6	
37	徳島県	18	6		6	6
38	愛媛県	6	6			
39	高知県	6	6			
40	福岡県	24	6	6	6	6
41	佐賀県	18	6	6	6	
42	長崎県	12	6		6	
43	熊本県	6	6			
44	大分県	12	6			6
45	宮崎県	18	6	6	6	
46	鹿児島県	6	6			
47	沖縄県	6	6			
計		648	282	126	144	96

監督・選手一覧表【少年男子】

都道府県名	監　督	氏名及び所属		
		選手１	選手３	選手５
		選手２	選手４	
北海道	播磨　良信 酪農学園大学附属とわの森三愛高等学校(教)	森谷　太一 北海道科学大学高等学校 松田　快晴 北海道科学大学高等学校	山田　泰宝 酪農学園大学付属とわの森三愛高等学校 岩間　吉平 酪農学園大学付属とわの森三愛高等学校	佐々木　蓮 登別市地域クラブ
青森県	宇野　吉正 青森県立弘前実業高等学校(教)	北山　悠月 青森県立弘前実業高等学校 北俣　航太 青森明の星高等学校	宮川　遼久 青森県立弘前高等学校 三浦　瑠騎亜 青森県立弘前実業高等学校	中村　心響 八戸工業大学第一高等学校
岩手県	高田　将史 岩手県立久慈翔北高等学校(教)	菊地　煌成 インフィニティ水沢STC・奥州市立水沢南中学校 熊谷　光輝 インフィニティ水沢STC・奥州市立水沢南中学校	久保田　悠斗 岩手県立黒沢尻工業高等学校 小深田　煌人 岩手県立黒沢尻工業高等学校	菊池　海人 岩手高等学校
宮城県	菊地　貴樹 村田高等学校(教)	伊藤　康介 東北高等学校 大村　怜央 東北高等学校	小吉　歩大 東北高等学校 桐山　柊介 東北高等学校	北野　咲斗 東北高等学校
秋田県	伊藤　岳史 秋田県立角館高等学校(教)	土橋　幸矢 秋田令和高等学校 柏山　昇輝 秋田県立大館鳳鳴高等学校	九嶋　利一 秋田令和高等学校 山口　光琉 秋田令和高等学校	櫻橋　仁力 秋田令和高等学校
山形県	村田　優 学校法人羽黒学園羽黒高等学校(教)	遠藤　悠輝 山形県立山形中央高等学校 渡邉　秀哉 山形県立山形中央高等学校	坂本　悠真 学校法人羽黒学園羽黒高等学校 早坂　康輔 学校法人羽黒学園羽黒高等学校	中易　快翔 学校法人羽黒学園羽黒高等学校
福島県	松崎　法夫 福島県立田村高等学校(教)	千葉　史和 学校法人石川高等学校 田林　克憲 学校法人石川高等学校	相山　尚慧 福島県立田村高等学校 櫻本　珠穏 福島県立田村高等学校	宮本　凌生 学校法人石川高等学校
茨城県	藤岡　一雄 霞ヶ浦高等学校(教)	吉井　翼 霞ヶ浦高等学校 重田　隼 霞ヶ浦高等学校	飯田　陽乃助 霞ヶ浦高等学校 山里　綺乙 霞ヶ浦高等学校	高橋　良輔 霞ヶ浦高等学校
栃木県	正木　孝裕 宇都宮短期大学附属高等学校(教)	並木　孝輔 宇都宮短期大学附属高等学校 上山　空希 宇都宮短期大学附属高等学校	和久井　結仁 宇都宮短期大学附属高等学校 和久井　温仁 宇都宮短期大学附属高等学校	君島　佑悟 宇都宮短期大学附属高等学校
群馬県	篠原　和隆 群馬県立渋川高等学校(教)	牧野　穂 群馬県立高崎高等学校 後藤　類 群馬県立高崎商業高等学校	坂庭　駿介 群馬県立前橋商業高等学校 飯ヶ谷　星成 東京農業大学第二高等学校	和地　真太朗 群馬県立前橋商業高等学校
埼玉県	橋本　和真 埼玉県立熊谷工業高等学校(教)	荻野　健吾 埼玉県立松山高等学校 塚本　侑飛 埼玉県立松山高等学校	久保　響 昌平高等学校 江口　真叶 昌平高等学校	寺門　共生 武蔵越生高等学校
千葉県	東　慎一郎 木更津総合高等学校(教)	舘田　陸斗 木更津総合高等学校 布施谷　煌 木更津総合高等学校	渡邊　惺矢 木更津総合高等学校 鈴木　櫂正 木更津総合高等学校	篠　英聖 木更津総合高等学校

監督・選手一覧表【少年男子】

都道府県名	監　督	氏名及び所属		
		選手１	選手３	選手５
		選手２	選手４	
東京都	市原　英典 駒澤大学高等学校(教)	小沼　優希 早稲田大学系属早稲田実業学校高等部 赤金　泰河 早稲田大学系属早稲田実業学校高等部	加藤　僚一郎 駒澤大学高等学校 寺田　壮甫 駒澤大学高等学校	中村　喜厘 駒澤大学高等学校
神奈川県	松口　良也 横浜創英高等学校(教)	大沢　風木 横浜創英高等学校 松野　光希 横浜創英高等学校	中山　椋太 法政大学第二高等学校 金倉　佑樹 東海大学付属相模高等学校	神藏　颯季 東海大学付属相模高等学校
山梨県	三森　大樹 山梨県立笛吹高等学校(教)	小林　侑永 山梨県立笛吹高等学校 真瀬　詩音 笛吹高等学校	井上　道成 笛吹高等学校 井上　颯 駿台甲府高等学校	津金　飛吹 駿台甲府高等学校
新潟県	佐藤　勲 新潟産業大学附属高等学校(教)	早川　寛康 北越高等学校 髙橋　奈々輝 北越高等学校	髙橋　泰斗 北越高等学校 山澤　隆人 北越高等学校	渡辺　颯冴 小千谷中学校
長野県	石田　忠之 長野俊英高等学校(教)	伊藤　克規 東京都市大学塩尻高等学校 竹田　真翔 長野吉田高等学校	飛岡　煌志朗 長野俊英高等学校 布川　泰良 長野俊英高等学校	西塔　敬祐 東京都市大学塩尻高等学校
富山県	伊野　拓実 入善高等学校(教)	前川　悠成 高岡商業高等学校 木村　悠太郎 高岡商業高等学校	島　大凪 高岡商業高等学校 白井　柚紀 高岡商業高等学校	根羽　晃玄 高岡商業高等学校
石川県	平　武 石川県立能登高等学校(教)	久田　陸人 金沢学院大学附属高等学校 松濱　惇己 石川県立能登高等学校	丸山　陽 石川県立能登高等学校 古本　竜吾 石川県立能登高等学校	藤澤　理央馬 石川県立小松高等学校
福井県	伊勢　泰隆 福井県立金津高等学校(教)	山本　翔太 福井県立金津高等学校 石隅　空峨 福井県立金津高等学校	斎藤　泰市 福井県立金津高等学校 本塚　皓貴 福井県立金津高等学校	三輪　怜慈 福井県立金津高等学校
静岡県	稲村　健吾 三島学園知徳高等学校(教)	梶原　理市 三島学園知徳高等学校 土屋　篤人 県立韮山高等学校	粉間　飛羽 静岡市立高等学校 鈴木　龍真 三島学園知徳高等学校	齋藤　亘 県立静岡高等学校
愛知県	牧　知秀 岡崎城西高等学校(教)	塚本　光琉 岡崎城西高等学校 山田　健太郎 岡崎城西高等学校	丹羽　真音 岡崎城西高等学校 下村　瑛和 岡崎城西高等学校	河合　顕志良 岡崎城西高等学校
三重県	玉川　裕司 学校法人三重高等学校　三重高等学校(教)	保海　郁弥 近畿大学工業高等専門学校 山口　義人 近畿大学工業高等専門学校	藏座　和希 学校法人三重高等学校　三重高等学校 森　俊亮 学校法人三重高等学校　三重高等学校	小宅　肇 学校法人三重高等学校　三重高等学校
岐阜県	荒山　雅治 美濃加茂高等学校(教)	嶋﨑　佑紀 中京高等学校 北島　空季 中京高等学校	森口　閃吏 中京高等学校 山本　駿 中京高等学校	北島　青季 中京高等学校

監督・選手一覧表【少年男子】

都道府県名	監　督	氏名及び所属		
		選手１	選手３	選手５
		選手２	選手４	
滋賀県	峯松　健太朗 立命館守山高等学校(教)	岡本　拓久 立命館守山高等学校 稲垣　晴舜 立命館守山高等学校	田中　壱冴 綾羽高等学校 保田　大凱 立命館守山高等学校	小林　蓮斗 滋賀県立甲西高等学校
京都府	友渕　教貴 福知山成美高等学校(教)	内藤　理央 福知山成美高等学校 大垣　颯摩 福知山成美高等学校	加藤　歩 福知山成美高等学校 中谷　琉晶 福知山成美高等学校	桝谷　怜生 福知山成美高等学校
大阪府	灰田　直弘 東海大学付属大阪仰星高等学校(教)	福田　　喜大 上宮高等学校 福井　峻也 上宮高等学校	立石　健成 上宮高等学校 西崎　奏斗 上宮高等学校	清水　勇斗 上宮高等学校
兵庫県	小林　大樹 神戸星城高等学校(教)	實重　遼 尼崎市立尼崎高等学校 村上　陽向 尼崎市立尼崎高等学校	北条　駿 神戸国際大学附属高等学校 増田　塁寿 神戸国際大学附属高等学校	保田　颯志 神戸国際大学附属高等学校
奈良県	越智　敏晃 大和高田市立高田商業高等学校(教)	前田　蒼生 大和高田市立高田商業高等学校 荻谷　侑磨 大和高田市立高田商業高等学校	樋口　大翔 大和高田市立高田商業高等学校 野田　悠貴 大和高田市立高田商業高等学校	村上　嘉弥 大和高田市立高田商業高等学校
和歌山県	渡海　聡 和歌山県立和歌山北高等学校(教)	内海　遼太 和歌山県立和歌山北高等学校 村上　太陽 和歌山県立和歌山北高等学校	下迫　寛斗 和歌山県立和歌山北高等学校 花谷　羽空汰 和歌山県立和歌山北高等学校	中西　海斗 和歌山県立和歌山北高等学校
鳥取県	森　恭平 鳥取県立鳥取商業高等学校(教)	藤原　聖 米子松蔭高等学校 林　龍輝 米子松蔭高等学校	大田　万葉 米子松蔭高等学校 中川　龍 米子松蔭高等学校	森田　誠史 鳥取県立倉吉東高等学校
島根県	野津　洋吉 島根県立松江工業高等学校(教)	葉末　遼也 島根県立松江工業高等学校 荒川　大空 島根県立松江工業高等学校	木村　一心 出雲北陵高等学校 知野見　奏翔 島根県立松江工業高等学校	杉田　悠 島根県立松江工業高等学校
岡山県	今田　瑞基 岡山理科大学附属高校(教)	佐藤　優真 岡山理科大学附属高校 佐藤　蒼真 岡山理科大学附属高校	小原　颯眞 岡山理科大学附属高校 下村　連太郎 岡山理科大学附属高校	森　涼哉 岡山理科大学附属高校
広島県	宇根田　浩昭 尾道学園尾道高等学校(教)	東　稜久 清水ヶ丘学園清水ヶ丘高等学校 仲　孝太 清水ヶ丘学園清水ヶ丘高等学校	新谷　煌 尾道学園尾道高等学校 水野　健太朗 尾道学園尾道高等学校	大名　快青 尾道学園尾道高等学校
山口県	光廣　大樹 山口県立南陽工業高等学校(教)	松本　一真 山口県立南陽工業高等学校 山本　大輔 山口県立南陽工業高等学校	横山　大翔 山口県立南陽工業高等学校 西村　悠真 山口県立南陽工業高等学校	田王　尚希 山口県立南陽工業高等学校
香川県	森　博朗 尽誠学園高等学校(教)	木原　祐翔 尽誠学園高等学校 伊藤　陽聖 尽誠学園高等学校	錦見　琉生 尽誠学園高等学校 宮田　亮 尽誠学園高等学校	堀　拓仁 尽誠学園高等学校

監督・選手一覧表【少年男子】

都道府県名	監　督	氏名及び所属		
		選手１	選手３	選手５
		選手２	選手４	
徳島県	落合　将大 (株)リブドゥコーポレーション	玉井　圭哉 つるぎ高等学校 堺　碧音 佐那河内中学校	大村　咲也 つるぎ高等学校 近藤　和輝 つるぎ高等学校	薮田　真那社 つるぎ高等学校
愛媛県	谷　博文 済美高等学校(教)	安藤　大輝 愛媛県立西条高等学校 大谷　和夢 新田高等学校	山本　煌 済美高等学校 梅谷　咲仁 済美高等学校	行元　大雅 済美高等学校
高知県	宮地　正義 明徳義塾中学高等学校(教)	福見　優心 明徳義塾高等学校 林　寿李稀 明徳義塾高等学校	柴崎　雄斗 明徳義塾高等学校 山田　隆真 明徳義塾高等学校	山本　悠人 明徳義塾中学校
福岡県	前野　智輝 筑紫台高等学校(教)	野田　暖仁 大牟田高等学校 池田　蓮 大牟田高等学校	橋田　武流 筑紫台高等学校 中島　陸 筑紫台高等学校	岸川　知史 東福岡高等学校
佐賀県	大島　樹 佐賀県立嬉野高等学校(教)	松尾　航希 佐賀県立嬉野高等学校 川浪　孝太郎 佐賀県立嬉野高等学校	仁戸田　遥斗 佐賀県立嬉野高等学校 小川　晃典 佐賀県立嬉野高等学校	大矢　昊叶 佐賀県立嬉野高等学校
長崎県	山本　健太 長崎県立長崎工業高等学校(教)	山口　蒼來 長崎南山高等学校 坪井　結 長崎南山高等学校	村山　慶斗 長崎南山高等学校 宇田川　浬 長崎南山高等学校	山口　遥斗 長崎県立鹿町工業高等学校
熊本県	今泉　克 熊本県立小川工業高等学校(教)	和田　楓 ルーテル学院高等学校 稲尾　風海 熊本県立小川工業高等学校	尾﨑　優太 熊本県立球磨工業高等学校 髙宮　聡真 文徳高等学校	武末　崚汰 熊本県立小川工業高等学校
大分県	平原　滉太郎 大分高等学校(教)	穴見　舜 大分高等学校 小野　弘太郎 大分県立大分商業高等学校	中野　琉翔 大分高等学校 工藤　翔悟 大分県立大分商業高等学校	杉森　陽太 大分高等学校
宮崎県	山口　龍史 県立都城商業高等学校(教)	大前　幸輝 県立都城商業高等学校 宮路　朝陽 県立都城商業高等学校	岩﨑　蓮 県立都城商業高等学校 前川　惇 県立都城商業高等学校	石川　銀次 県立都城商業高等学校
鹿児島県	森　圭也 鹿児島市立鹿児島商業高等学校(教)	美坂　瑛人 鹿児島市立鹿児島商業高等学校 深見　皐雅 鹿児島市立鹿児島商業高等学校	萩原　塡ノ祐 鹿児島市立鹿児島商業高等学校 勝田　歩夢 鹿児島市立鹿児島商業高等学校	中野　漣 鹿児島市立鹿児島商業高等学校
沖縄県	神谷　繁也 沖縄県立南部農林高等学校(教)	照屋　盛麻 沖縄県立向陽高等学校 知念　巨力 沖縄県立名護高等学校	山下　雄靖 沖縄県立名護高等学校 國場　理央 沖縄県立名護商工高等学校	西里　奏汰 沖縄県立八重山高等学校

監督・選手一覧表【少年女子】

都道府県名	監　督	氏名及び所属		
		選手１	選手３	選手５
		選手２	選手４	
北海道	小出　えり 北海道苫小牧東高等学校(教)	小野寺　咲柚 札幌大谷高等学校 上原　心音 札幌大谷高等学校	森川　智巴 酪農学園大学附属とわの森三愛高等学校 山本　真明早 酪農学園大学附属とわの森三愛高等学校	川島　世愛 札幌大谷高等学校
青森県	黒滝　亮 青森県立野辺地高等学校(教)	粒來　夏帆 八戸工業大学第一高等学校 廣﨑　未来 八戸工業大学第一高等学校	小野　美桜 下山学園高等学校 高橋　陽奏 八戸工業大学第一高等学校	川村　実乃凛 八戸工業大学第一高等学校
宮城県	仙台　茉莉花 角田高等学校(教)	柏　春花 東北高等高校 村上　芹 東北高等高校	中山　萌 東北高等高校 根岸　ゆず 東北高等高校	安保　美桜 東北高等学校
山形県	白幡　光 学校法人羽黒学園羽黒高等学校(教)	對馬　優 学校法人羽黒学園羽黒高等学校 三浦　綾花 学校法人羽黒学園羽黒高等学校	戸川　瑠花 学校法人羽黒学園羽黒高等学校 石田　にこ 学校法人羽黒学園羽黒高等学校	小林　瑠心 学校法人羽黒学園羽黒高等学校
福島県	北澤　聖明 福島県立本宮高等学校(教)	青木　希 学校法人石川高等学校 馬上　世愛 学校法人石川高等学校	大武　姫菜 学校法人石川高等学校 大武　夢菜 学校法人石川高等学校	柴田　知歩 学校法人石川高等学校
栃木県	長　光則 白鷗大学足利高等学校(教)	螺良　寧々 白鷗大学足利高等学校 阿久津　美優 白鷗大学足利高等学校	手塚　咲希 白鷗大学足利高等学校 福地　奈津美 白鷗大学足利高等学校	三浦　夕依 白鷗大学足利高等学校
千葉県	土屋　貴亮 成田高等学校(教)	波多江　光咲 成田高等学校 増田　梨菜 成田高等学校	平野　亜樹 昭和学院高等学校 堂上　紗莱 昭和学院高等学校	相生　麻緒 昭和学院高等学校
東京都	松並　梨紗 東京家政大学附属女子高等学校(教)	栁川　凛 文化学園大学杉並高等学校 富永　紗妃 文化学園大学杉並高等学校	後藤　千尋 文化学園大学杉並高等学校 泉屋　咲穂 文化学園大学杉並高等学校	長澤　凛果 文化学園大学杉並高等学校
神奈川県	刑部　修平 相洋高等学校(教)	飯島　陽菜乃 相洋高等学校 石井　海菜 相洋高等学校	枝川　多映 相洋高等学校 市川　結菜 相洋高等学校	後藤　由季奈 相洋高等学校
新潟県	栁　直子 北越高等学校(教)	樋口　綺 中越高等学校 戸松　煌理 北越高等学校	薄　優心 北越高等学校 中島　美雅 白根第一中学校	黒島　帆夏 小千谷中学校
石川県	中島　義春 金沢学院大学附属高等学校(教)	森川　愛瑠 石川県立能登高等学校 小酒　虹海 金沢学院大学附属高等学校	蓮沼　優希 石川県立能登高等学校 黒島　望花 石川県立能登高等学校	横田　優和 石川県立能登高等学校
愛知県	伊藤　広剛 岡崎城西高等学校(教)	三輪　夏己 豊田大谷高等学校 水野　史菜 岡崎城西高等学校	三輪　愛奈 岡崎城西高等学校 渡邉　柚月 豊橋中央高等学校	日下部　夢華 岡崎城西高等学校

監督・選手一覧表【少年女子】

都道府県名	監　　督	氏名及び所属		
		選手１	選手３	選手５
		選手２	選手４	
岐阜県	中村　貴子 鶯谷高等学校(教)	廣岡　愛珠 岐阜県立岐阜商業高等学校 武山　愛佳 美濃加茂高等学校	髙橋　優芽 岐阜県立岐阜商業高等学校 早見　優里 岐阜県立岐阜商業高等学校	奥村　菜々美 鶯谷高等学校
京都府	南本　昭紀 京都光華高等学校(教)	長崎　有花 京都光華高等学校 山本　好来 京都光華高等学校	下田　浬愛 京都光華高等学校 中田　葵彩 京都光華高等学校	牧　優花 京都光華高等学校
大阪府	仲座　英二 四天王寺高等学校(教)	野間　結菜 昇陽高等学校 竹田　羽花 昇陽高等学校	藤田　杏 昇陽高等学校 中川　莉音 昇陽高等学校	藪内　穂乃佳 四天王寺高等学校
岡山県	黒田　奈穂子 岡山県立玉島商業高校(教)	佐々木　莉子 山陽学園高校 桑原　日和 倉敷中央高校	内藤　愛莉 就実高校 花房　彩風 就実高校	馬島　汐理 山陽学園高校
広島県	渡部　剛史 広島翔洋高等学校(教)	伊藤　美咲華 広島翔洋高等学校 村上　鈴 広島翔洋高等学校	松井　文音 広島翔洋高等学校 久野　凪桜 広島翔洋高等学校	渡邉　愛梨 広島翔洋高等学校
香川県	香川　翔 英明高等学校(教)	吉田　唯杏 英明高等学校 小池　涼花 英明高等学校	髙田　美滴 英明高等学校 北見　莉子 英明高等学校	椎名　梨香子 英明高等学校
福岡県	原口　俊之 中村学園高等学校(教)	深澤　里菜 中村学園高等学校 田代　柚花 中村学園高等学校	長島　朱伽 中村学園高等学校 田代　穂花 中村学園高等学校	野田　ひまり 中村学園高等学校
佐賀県	山下　ひかる 佐賀県立嬉野高等学校(教)	杉原　澄 佐賀県立嬉野高等学校 牧山　彩羽 佐賀県立嬉野高等学校	髙瀬　捺月 佐賀清和高等学校 髙瀬　結月 佐賀清和高等学校	飯田　桃華 佐賀県立唐津商業高等学校
宮崎県	川﨑　智成 県立宮崎商業高等学校(教)	瀬戸口　椛 県立宮崎商業高等学校 結城　和華 県立宮崎商業高等学校	山口　優菜 県立宮崎商業高等学校 甲斐　愛実瑠 県立宮崎商業高等学校	三枝　柚葵 県立宮崎商業高等学校

監督・選手一覧表【成年男子】

都道府県名	監　　督	氏名及び所属		
		選手１	選手３	選手５
		選手２	選手４	
北海道	新田　晃士 札幌学院クラブ	岡田　侑也 明治大学 五十嵐　和真 北翔大学	内海　大輔 CLOSSTY HOLDINGS 榊原　健太 CLOSSTY HOLDINGS	太田　遥来 札幌学院大学
青森県	船水　宏二 青森県教育庁	船水　颯人 One 水木　洸 日本体育大学	松田　拳弥 法政大学 水木　瑠 アサヒビール株式会社	渡邊　祐幸 渡邊農園
宮城県	石森　慶哉 KEIスポーツ株式会社	浅見　竣一朗 早稲田大学 佐藤　駿丞 日本体育大学	根岸　澪紋 日本体育大学 中尾　彦斗 中央大学	工藤　浩輔 AWESOME　BUDDY株式会社
秋田県	黒澤　勝 秋田県信用保証協会	田村　翔 中電防災株式会社 松田　知大 東京経済大学	本間　勇太 青山学院大学 佐藤　仁 日本体育大学	高橋　柊真 岩手大学
福島県	菅野　智之 福島刑務所	相山　昂慧 東京経済大学 吉田　拓翔 日本体育大学	根本　拓哉 日本信号株式会社 安部　蓮生 日本体育大学	草野　春真 明治大学
埼玉県	及川　哲也 アキム株式会社	黒坂　卓矢 日本体育大学 大村　圭志朗 アキム株式会社	佐藤　大和 アキム株式会社 野口　快 日本体育大学	黒須　柾暉 アキム株式会社
千葉県	大川戸　岳 新日本設計株式会社	米川　結翔 ヨネックス株式会社 増田　洋五豊 ヨネックス株式会社	昼間　悠佑 日本体育大学 笹井　悠月 立教大学	山中　一世 國學院大學
東京都	小野寺　剛 学校法人　巣鴨学園(教)	荒木　駿 ヨネックス株式会社 吉田　樹 大塚製薬	大辻　伸彬 明治大学 四位　光太 株式会社ベスト	伊藤　幹太 早稲田大学
神奈川県	山口　大地 一般社団法人 さとまちのみりょく	金子　大祐 公益財団法人 厚木市環境みどり公社 赤阪　英昭 慶應義塾大学	井上　弘翔 明治大学 小池　賀久 慶應義塾大学	飯田　脩三 大和市役所
富山県	稲積　京之介 (公財)氷見市スポーツ協会	伊藤　幹 ヨネックス 大家　健慎 東海大学	室　愛琉 新潟大学 西田　慎 YKK㈱	髙田　翼 東京ガスネットワーク株式会社
福井県	山口　一也 富士フソー精工株式会社	中本　圭哉 福井県立福井商業高等学校（職） 品川　貴紀 福井県立福井南特別支援学校（教）	早川　和宏 福井県立福井南特別支援学校（職） 小林　裕仁郎 福井県立福井南特別支援学校（職）	中村　悠峰 明治大学
愛知県	鶴見　和生 東邦ガス(株)	安藤　圭祐 東邦ガス（株） 大友　駿 東邦ガス（株）	安藤　優作 東邦ガス（株） 片岡　暁紀 東邦ガス（株）	坂口　生磨 明治大学

監督・選手一覧表【成年男子】

都道府県名	監　督	氏名及び所属		
		選手１	選手３	選手５
		選手２	選手４	
三重県	塚本　祐也 株式会社おやつタウン	南　龍之介 早稲田大学 松原　幹 株式会社ヨシザワ	竹内　慶悟 法政大学 丸山　章 株式会社ヨシザワ	戸田　佳惟斗 株式会社ヨシザワ
京都府	岩本　偉佐有 京都市役所	星野　雄慈 ワタキューセイモア株式会社 山本　貴大 ワタキューセイモア株式会社	松本　炎 ワタキューセイモア株式会社 金山　勇波 ワタキューセイモア株式会社	竹田　凌 ワタキューセイモア株式会社
大阪府	深江　信弘 (一社)オリエンタル労働衛生協会	清水　駿 同志社大学 広岡　大河 日本信号	藤井　一貴 株式会社ルーセント 須原　蒼 関西学院大学	木内　陸人 明治大学
奈良県	松原　豊広 公益財団法人奈良県学校給食会	橋場　柊一郎 法政大学 菊山　太陽 法政大学	安達　宣 早稲田大学 小島　大輝 立命館大学	植田　璃音 早稲田大学
岡山県	上嶋　俊介 ㈱岡山エコール	石井　佑一 レイズネクスト（株） 島谷　楽空 マツダ（株）	浅野　佑月 (株)丸運テクノサポート 堺　瑠音 阿部商事（株）	橋本　駿太 有限会社橋本屋根工事
広島県	村上　雄人 NTT西日本(株)	長江　光一 NTT西日本（株） 内田　理久 NTT西日本（株）	本倉　健太郎 NTT西日本（株） 上松　俊貴 NTT西日本（株）	矢野　颯人 NTT西日本（株）
香川県	今村　義美 高松市立香川第一中学校(教)	岩田　晧平 日本体育大学 内田　陽斗 法政大学	野本　凌生 法政大学 小山　寛晴 明治大学	豊田　祐冴 立教大学
徳島県	横石　智 大神子病院	岩佐　和樹 日亜化学工業(株) 鈴木　亮太朗 (株)百十四銀行	宮田　智友 ミヤタスポーツ 藤井　聡人 四国大学	宮田　成将 同志社大学
福岡県	杉本　慈 (株)グッド・サポート	中村　圭吾 エスエスライン（株） 山下　憲哉 Raise	松本　秀之 I-PEX（株） 中村　海斗 福岡県立戸畑工業高等学校（教）	末吉　慶如 福岡大学（職）
佐賀県	山﨑　智彦 有限会社スポーツアイランド	上岡　俊介 Team SAGA SSP 丸山　海斗 Team SAGA SSP	小副川　忠希 有限会社スポーツアイランド 藤井　智暉 日本体育大学	井田　隼介 福岡大学
長崎県	児玉　浩太 株式会社レガーク	今城　大貴 株式会社十八親和銀行 木原　颯斗 株式会社十八親和銀行	竹添　幹倫 株式会社十八親和銀行 福田　柊哉 （公財）佐世保観光コンベンション協会	畑本　理士 日本紙器株式会社
宮崎県	中須　遼平 県立日南高等学校(教)	井口　雄介 スマッシュイグチ 鹿島　鉄平 都城市立山之口中学校（教）	中村　匡起 日南学園高等学校（教） 川﨑　康平 日本体育大学	森　良輔 日本体育大学

監督・選手一覧表【成年女子】

都道府県名	監　督	氏名及び所属		
		選手１	選手３	選手５
		選手２	選手４	
北海道	三田　智郎 千歳市立千歳中学校(教)	大和　かのん 北翔大学 石田　夏美 北翔大学	義達　心陽 國學院大学 佐々木　南帆 明治大学	松井　玲奈 (株) エス・エム・エスサポートサービス
青森県	天間　雅則 有限会社　乙供塗装店	天間　麗奈 日本体育大学 天間　美嘉 日本体育大学	細田　美帆 ナガセケンコー株式会社 新山　千春 東海大学	向山　せら 日本体育大学
宮城県	吉田　美穂 仙台白百合学園小学校(教)	大和　美月 早稲田大学 佐藤　紗空 神戸松蔭大学	坂本　朱羽 一般財団法人どんぐり財団 濱口　芽花 日本体育大学	横山　心花 立教大学
福島県	大槻　三喜 住友ゴム工業株式会社白河工場	小川　木乃花 住友ゴム工業株式会社白河工場 清水　麻美 住友ゴム工業株式会社白河工場	髙濵　美厘 住友ゴム工業株式会社白河工場 近藤　明日咲 住友ゴム工業株式会社白河工場	佐藤　あいり 住友ゴム工業株式会社白河工場
千葉県	吉村　寛子 大和ハウス工業株式会社	片野　理音 ヨネックス株式会社 小林　愛美 ヨネックス株式会社	吉田　澪奈 ヨネックス株式会社 青松　淑佳 ヨネックス株式会社	服部　七海 神戸松蔭大学
神奈川県	福田　勝吾 JX金属㈱ 倉見工場	吉野　真未 ㈱ウェルトレード 後藤　理子 県立横浜ひなたやま支援学校（教）	鈴木　心菜 ㈱ウェルトレード 原田　美結 ㈱ウェルトレード	石津　緩奈 青山学院大学
新潟県	新倉　裕二 ヨネックス㈱新潟工場	大野　愛香 ヨネックス㈱新潟工場 田辺　なつき ヨネックス㈱新潟工場	源川　耀子 ヨネックス㈱新潟工場 前角地　彩菜 ヨネックス㈱新潟工場	本間　友里那 神戸松蔭大学
石川県	達　珠美 石川県立錦城特別支援学校(教)	中村　璃緒 金沢市立中央小学校芳斎分校（教） 髙松　沙也花 白山市あさひこども園	大村　友里 関西大学 宮下　日香莉 日本体育大学	岩見　莉歩 神戸松蔭大学
三重県	川淵　泰直 パナソニック エレクトリックワークス電材三重株式会社	大橋　玲雨 明治大学 藤城　みちる ナガセケンコー株式会社	松岡　琴美 日本体育大学 大友　紅実 ヨネックス株式会社	岡　美志 四国大学
兵庫県	岡部　勝式 東芝姫路	根岸　楓英奈 東芝姫路 佐藤　日香莉 東芝姫路	前田　梨緒 明治大学 中谷　さくら 明治大学	中谷　ももこ 明治大学
和歌山県	塩嵜　弘騎 和歌山県庁	江口　咲礼紗 関西大学 天野　莉子 日本体育大学	佐々木　真凜 日本体育大学 佐々木　夏 きのくに信用金庫	久留　紅 きのくに信用金庫
岡山県	後藤　浩一 (株)アステック工業	柴田　凛 関西大学 山本　萌衣紗 ノートルダム清心女子大学	足利　茉奈 神戸松蔭大学 近坂　優衣 立教大学	森田　すず 神戸親和大学

監督・選手一覧表【成年女子】

都道府県名	監　　督	氏名及び所属		
		選手１	選手３	選手５
		選手２	選手４	
広島県	中堀　成生 NTT西日本(株)	箱崎　愁里 ナガセケンコー株式会社 西村　優那 神戸親和大学	西村　心那 株式会社　TS DESIGN 秋葉　はるか 日本基準寝具株式会社	横山　友香 日本基準寝具株式会社
徳島県	土井内　陽介 学校法人四国大学(職)	逸見　真子 四国大学 谷　明日里 四国大学	杉本　咲楽 四国大学 長谷　歩奈 四国大学	高木　己想 四国大学
福岡県	中村　佳奈枝 福岡市立福岡女子高等学校(教)	山下　永遠 日本体育大学 岩田　愛美 日本体育大学	西村　麻央 福岡大学 岩隈　彩乃 福岡大学	安保　陽菜子 関西外国語大学
大分県	杉野　浩司 日本製鉄㈱九州製鉄所大分地区	門松　虹 日本製鉄㈱九州製鉄所大分地区 中嶋　心暖 神戸親和大学	岩倉　彩佳 どんぐり北広島ソフトテニスクラブ 後藤　紗奈 大商鬼魄会クラブ	神　果歩 JX金属クラブ

総合成績決定方法

男女総合成績(天皇杯)、女子総合成績(皇后杯)決定方法

男女総合成績、女子総合成績は、競技得点と参加得点の合計とし、その得点の多い都道府県順に第１位から第８位までを決定する。ただし、同点の場合は、その順位を共有し、次の順位を欠位とする。

⑴　競技得点

天皇杯対象種別	皇后杯対象種別	競　技　得　点
成　年　男　子 成　年　女　子 少　年　男　子 少　年　女　子	成　年　女　子 少　年　女　子	各種別とも１位４０点、２位３５点、３位３０点、４位２５点、５位２０点、６位１５点、７位１０点、８位５点の競技得点を与える。 ただし、天候その他の事情により順位戦及び決定戦を行わず同順位の場合は、その順位を共有し、次の順位を欠位とする。 なお、得点は次の順位のものを加え、当該都道府県で等分する。

⑵　参加得点

大会（ブロック大会を含む）に参加した都道府県には、参加種別数にかかわらず１都道府県に１０点を与える。ただし、ブロック大会で本大会の出場権を獲得しながら、本大会に参加しなかった場合は与えない。

男女総合成績（天皇杯得点）・女子総合成績（皇后杯得点）一覧表

区分 / 都道府県名		男女総合成績(天皇杯得点)												女子総合成績(皇后杯得点)					
		少年男子		少年女子		成年男子		成年女子		競技得点合計	参加得点	合計	順位	少年女子	成年女子	競技得点合計	参加得点	合計	順位
		順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点										
1	北海道																		
2	青森																		
3	岩手																		
4	宮城																		
5	秋田																		
6	山形																		
7	福島																		
8	茨城																		
9	栃木																		
10	群馬																		
11	埼玉																		
12	千葉																		
13	東京																		
14	神奈川																		
15	山梨																		
16	新潟																		
17	長野																		
18	富山																		
19	石川																		
20	福井																		
21	静岡																		
22	愛知																		
23	三重																		
24	岐阜																		
25	滋賀																		
26	京都																		
27	大阪																		
28	兵庫																		
29	奈良																		
30	和歌山																		
31	鳥取																		
32	島根																		
33	岡山																		
34	広島																		
35	山口																		
36	香川																		
37	徳島																		
38	愛媛																		
39	高知																		
40	福岡																		
41	佐賀																		
42	長崎																		
43	熊本																		
44	大分																		
45	宮崎																		
46	鹿児島																		
47	沖縄																		

過去の成績一覧表

回		1	2	3	4	5	6	7	8	9
年		昭和21年度	昭和22年	昭和23年	昭和24年	昭和25年	昭和26年	昭和27年	昭和28年	昭和29年
開催県		京都府	石川県	福岡県	東京都	愛知県	広島県	福島県	愛媛県	北海道
会場		京都市 西京極競技場	七尾市 小丸山公園 七尾中学	福岡市 東公園 コート	東京都 後楽園 コート	名古屋 久屋 コート	呉市営 稲荷町 コート	会津若松 市営 コート	松山市 堀の内県営 コート	旭川 市営 コート
男女総合				岡山県	東京都	広島県	岡山県	三重県	三重県	東京都
女子総合				三重県	香川県	福島県	長野県	三重県 広島県	三重県	東京都 長野県
高校男子	優勝	木村 原 （倉敷商中）	三重県	岡山県	和歌山県	静岡県	岡山県	三重県	三重県	広島県
	2位	内藤 石原 （岡山商中）	徳島県	和歌山県	栃木県	岡山県	東京都	神奈川県	徳島県	神奈川県
	3位	増田 江坂 （高松中）	大分県	兵庫県	三重県	兵庫県	兵庫県	福島県	千葉県	静岡県
	3位	立川 児玉 （大分中）	長野県	愛知県	神奈川県	広島県	広島県	和歌山県	長野県	山口県
高校女子	優勝	森 芥川 （茨木高女）	東京都	三重県	三重県	三重県	長野県	広島県	三重県	千葉県
	2位	中尾 （中学）増田 （茨木高女）	大阪府	東京都	埼玉県	広島県	岡山県	埼玉県	愛知県	長野県
	3位	福島 新保 （桜町高女）	愛知県	岡山県	愛知県	千葉県	兵庫県	愛知県	広島県	栃木県
	3位	小山 道原 （北海道高女）	岡山県	長野県	東京都	大阪府	神奈川県	栃木県	鹿児島県	埼玉県
教員（大学・高専）	優勝		日本大学	決勝降雨中止 日本大学		日本大学				
	2位		明治大学	早稲田大学		関西学院大学				
	3位		早稲田大学	同志社大学		関西大学				
	3位		明治学院大学	関西学院大学		中央大学				
一般女子	優勝	千葉 大門 （福島県）	三重県	三重県	東京都	福島県		三重県	三重県	三重県
	2位	免山 村山 （大阪府）	岡山県	福島県	福島県	東京都		東京都	愛媛県	東京都
	3位	山崎 塚原 （大阪府）	神奈川県	東京都	3 岡山県	神奈川県		福島県	長野県	岡山県
	3位	須々木 三垣 （岡山県）	福島県	兵庫県	4 神奈川県	愛知県		長野県	東京都	愛媛県
一般男子	優勝	磯辺 石川 （大阪府）	岡山県	岡山県	東京都	岡山県		岡山県	東京都	東京都
	2位	山木 木田 （東京都）	東京都	東京都	岡山県	東京都		東京都	岡山県	岐阜県
	3位	浅野 山名 （愛知県）	群馬県	群馬県	3 茨城県	静岡県		愛知県	岐阜県	兵庫県
	3位	小川 志賀 （福島県）	山梨県	山梨県	4 兵庫県	島根県		山梨県	愛知県	茨城県
壮年（一般男子二部）	優勝	間賀 多久 （大阪府）	京都府	京都府	東京都	大阪府		北海道	東京都	北海道
	2位	伊藤 高橋 （東京都）	大阪府	大阪府	京都府	北海道		大阪府	北海道	大阪府
	3位	宮崎 富尾 （三重県）	岡山県	岡山県	3 千葉県	東京都		愛知県	広島県	広島県
	3位	森 鳴川 （愛知県）	愛知県	愛知県	4 山梨県	山梨県		愛媛県	福島県	東京都
備考		第１回大会は日本選手権を兼ねて行われた。	①第２回大会より都道府県対抗になった。 ②第２回・第３回・第５回大会は大学・高専対抗が行われた。							

回		10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
年		昭和30年	昭和31年	昭和32年	昭和33年	昭和34年	昭和35年	昭和36年	昭和37年	昭和38年	昭和39年
開催県		神奈川県	兵庫県	静岡県	富山県	東京都	熊本県	秋田県	岡山県	山口県	新潟県
会場		小田原市城山庭球場	明石市営コート	浜松市営コート	高岡市営前田コート	後楽園中大・竹早区営コート	玉名市玉名高校コート	大館市鳳鳴高校コート	岡山市烏城コート	下関市営庭球場	新潟市営白山庭球場
男女総合		岡山県	広島県	兵庫県	兵庫県	岡山県	東京都	岡山県	東京都 岡山県	大阪府 岡山県	新潟県
女子総合		広島県	東京都	岡山県	広島県	静岡県 広島県	広島県	広島県	東京都	東京都 愛知県	新潟県 愛知県
高校男子	優勝	神奈川県	山形県	高知県	兵庫県	広島県	広島県	岡山県	広島県	広島県	大阪府
	2位	兵庫県	広島県	岡山県	広島県	埼玉県	徳島県	静岡県	岡山県	大阪府	熊本県
	3位	千葉県	東京都	山梨県	徳島県	兵庫県	福島県	岩手県	山口県	岩手県	新潟県
	3位	山形県	岡山県	大分県	高知県	群馬県	岡山県	東京都	東京都	栃木県	広島県
高校女子	優勝	広島県	広島県	広島県	広島県	広島県	兵庫県	東京都	東京都	新潟県	静岡県
	2位	埼玉県	静岡県	長野県	千葉県	埼玉県	京都府	徳島県	徳島県	愛知県	愛知県
	3位	愛媛県	兵庫県	大阪府	埼玉県	大阪府	広島県	群馬県	広島県	兵庫県	新潟県
	3位	栃木県	大阪府	徳島県	静岡県	静岡県	大阪府	愛媛県	千葉県	広島県	兵庫県
教員	優勝	愛知県	岩手県	兵庫県	山梨県	岡山県	東京都	京都府	岡山県	岡山県	岡山県
	2位	兵庫県	山梨県	山梨県	兵庫県	兵庫県	兵庫県	東京都	兵庫県	高知県	新潟県
	3位	新潟県	鹿児島県	新潟県	熊本県	静岡県	京都府	山梨県	大分県	熊本県	静岡県
	3位	岩手県	愛知県	鹿児島県	岡山県	岩手県	高知県	大阪府	東京都	京都府	兵庫県
一般女子	優勝	岡山県	東京都	岡山県	東京都	静岡県	東京都	広島県	静岡県	東京都	東京都
	2位	福島県	岡山県	三重県	静岡県	岡山県	広島県	岡山県	東京都	静岡県	新潟県
	3位	東京都	福島県	福島県	岡山県	東京都	長野県	静岡県	宮城県	愛知県	岡山県
	3位	三重県	三重県	宮崎県	群馬県	広島県	熊本県	愛知県	岡山県	群馬県	愛知県
一般男子	優勝	岡山県	兵庫県	兵庫県	兵庫県	兵庫県	兵庫県	岡山県	大阪府	大阪府	兵庫県
	2位	東京都	大阪府	大阪府	東京都	埼玉県	岡山県	東京都	山口県	岡山県	大阪府
	3位	兵庫県	岡山県	徳島県	愛知県	東京都	岐阜県	岐阜県	岡山県	神奈川県	東京都
	3位	徳島県	愛知県	山口県	高知県	岡山県	東京都	兵庫県	大分県	山梨県	岐阜県
壮年（一般男子二部）	優勝	福岡県	福岡県	広島県	福岡県	岡山県	岡山県	岡山県	一般男子に合併		
	2位	広島県	熊本県	三重県	山梨県	東京都	大阪府	大阪府			
	3位	三重県	大阪府	福岡県	東京都	大阪府	福岡県	愛知県			
	3位	北海道	愛知県	山梨県	大阪府	福岡県	東京都	東京都			
備考		第１７回大会より壮年（４５歳以上）を一般男子に編入した。									

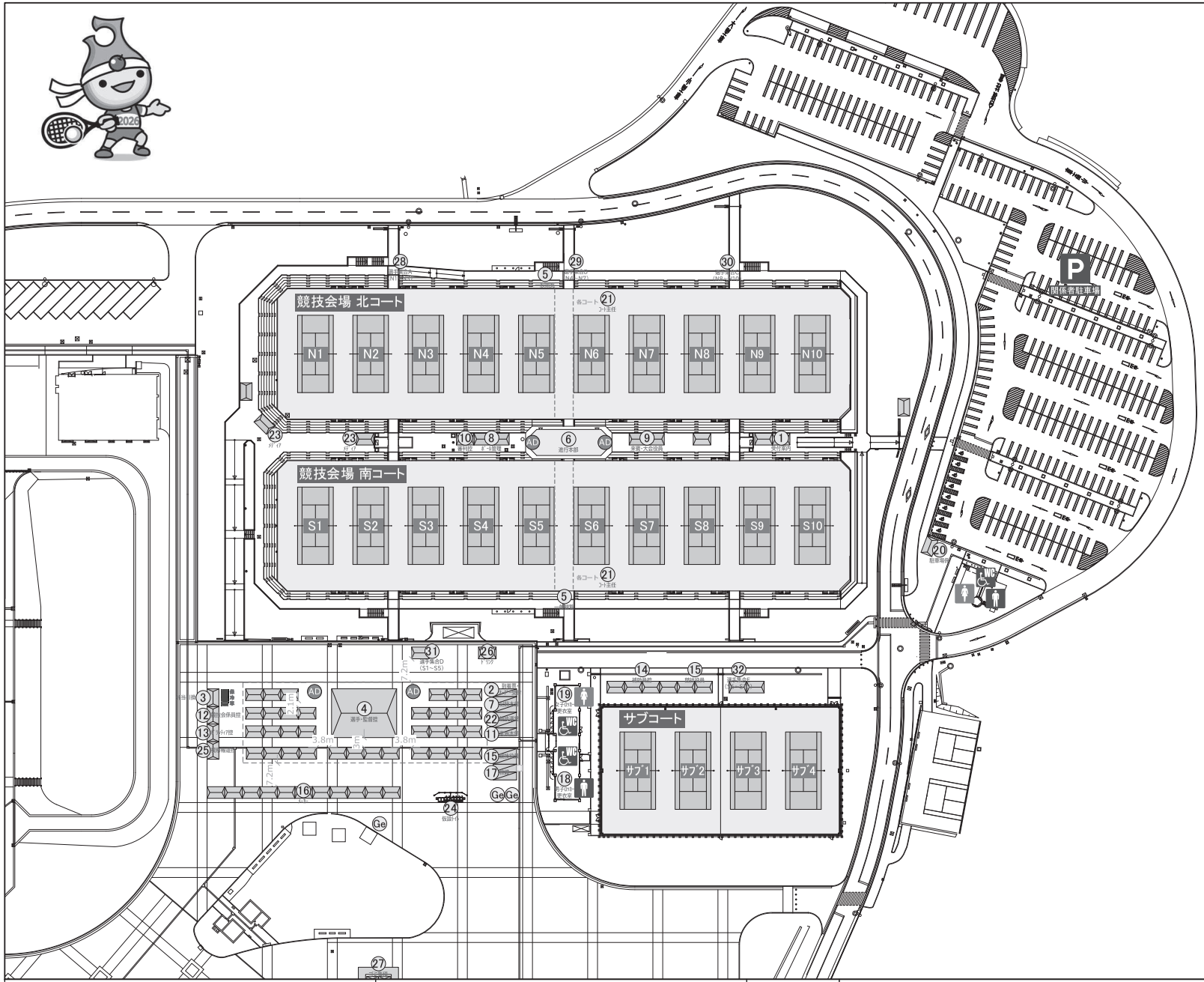
回		20	21	22	23	24	25	26	27	28	29
年		昭和40年	昭和41年	昭和42年	昭和43年	昭和44年	昭和45年	昭和46年	昭和47年	昭和48年	昭和49年
開催県		岐阜県	大分県	埼玉県	福井県	長崎県	岩手県	和歌山県	鹿児島県	千葉県	茨城県
会場		大垣市西公園コート	大分県営庭球場	東松山市営庭球場	武生市営庭球場	長崎市営庭球場	北上市営常磐台市民コート	かつらぎ公園テニスコート	鹿児島市東開庭球場	茂原市営庭球場	土浦市川口運動公園庭球場
男女総合		岐阜県	兵庫県	東京都	兵庫県	長崎県	広島県	和歌山県	鹿児島県	鹿児島県	広島県
女子総合		広島県	兵庫県	広島県	福岡県	兵庫県 長崎県	広島県	兵庫県 鹿児島県	鹿児島県	鹿児島県	兵庫県
高校男子	優勝	大阪府	京都府	岡山県	岡山県	京都府	京都府	京都府	鹿児島県	鹿児島県	鹿児島県
	2位	広島県	熊本県	埼玉県	京都府	大分県	長崎県	埼玉県	山口県	岡山県	愛媛県
	3位	岐阜県	岡山県	愛媛県	大阪府	長崎県	山口県	大阪府	埼玉県	京都府	茨城県
	3位	東京都	高知県	大分県	福井県	大阪府	山梨県	和歌山県	奈良県	千葉県	大阪府
高校女子	優勝	兵庫県	兵庫県	広島県	福岡県	長崎県	鹿児島県	兵庫県	鹿児島県	鹿児島県	千葉県
	2位	愛知県	栃木県	静岡県	愛知県	広島県	広島県	鹿児島県	福岡県	福岡県	茨城県
	3位	新潟県	新潟県	愛知県	京都府	兵庫県	兵庫県	和歌山県	岡山県	愛知県	愛媛県
	3位	栃木県	広島県	埼玉県	岡山県	愛知県	愛知県	大分県	兵庫県	三重県	神奈川県
教員	優勝	東京都	東京都	熊本県	兵庫県	大分県	岩手県	鹿児島県	鹿児島県	鹿児島県	広島県
	2位	新潟県	熊本県	兵庫県	東京都	東京都	群馬県	岩手県	岩手県	千葉県	兵庫県
	3位	岐阜県	大分県	鹿児島県	大分県	長崎県	京都府	京都府	福井県	東京都	鹿児島県
	3位	静岡県	兵庫県	東京都	福井県	京都府	大分県	和歌山県	岡山県	和歌山県	東京都
一般女子	優勝	広島県	兵庫県	東京都	兵庫県	兵庫県	広島県	群馬県	鹿児島県	東京都	兵庫県
	2位	埼玉県	愛知県	広島県	岐阜県	広島県	兵庫県	広島県	兵庫県	千葉県	福岡県
	3位	岐阜県	広島県	長野県	広島県	東京都	東京都	鹿児島県	広島県	長野県	広島県
	3位	新潟県	東京都	徳島県	福岡県	長崎県	新潟県	新潟県	和歌山県	鹿児島県	静岡県
一般男子	優勝	大阪府	兵庫県	東京都	東京都	東京都	広島県	愛媛県	鹿児島県	広島県	広島県
	2位	岡山県	京都府	埼玉県	兵庫県	広島県	岡山県	和歌山県	東京都	千葉県	岐阜県
	3位	愛媛県	広島県	広島県	鹿児島県	静岡県	京都府	岩手県	福井県	岐阜県	愛媛県
	3位	岐阜県	埼玉県	静岡県	山口県	山形県	鹿児島県	岡山県	広島県	静岡県	岡山県
備考											

回		30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42
年		昭和50年	昭和51年	昭和52年	昭和53年	昭和54年	昭和55年	昭和56年	昭和57年	昭和58年	昭和59年	昭和60年	昭和61年	昭和62年
開催県		三重県	佐賀県	青森県	長野県	宮崎県	栃木県	滋賀県	島根県	群馬県	奈良県	鳥取県	山梨県	沖縄県
会場		伊勢市営庭球場	小城公園庭球場	青森県営庭球場	上田市営庭球場	延岡市西階公園庭球場	黒磯市総合運動場庭球場	長浜市民庭球場	安来運動公園庭球場	高崎市上並榎庭球場	公苑明日香庭球場	鳥取市千代テニス場	石和中央スポーツ公園テニスコート	県総合運動公園庭球場
男女総合		三重県	鹿児島県	埼玉県	兵庫県	千葉県	大阪府	埼玉県	千葉県	千葉県	奈良県	鳥取県	山梨県	沖縄県
女子総合		三重県	兵庫県	千葉県	兵庫県	千葉県	千葉県	埼玉県	千葉県	大阪府	奈良県	千葉県	山梨県	埼玉県 広島県
少年男子	優勝	三重県	三重県	東京都	奈良県	鹿児島県	栃木県	東京都	埼玉県	奈良県	奈良県	鳥取県	三重県	沖縄県
	2位	奈良県	京都府	京都府	茨城県	神奈川県	静岡県	福岡県	大阪府	香川県	東京都	広島県	山梨県	奈良県
	3位	茨城県	山形県	栃木県	長野県	群馬県	大阪府	広島県	東京都	広島県	佐賀県	埼玉県	広島県	栃木県
	3位	鹿児島県	鹿児島県	石川県	鹿児島県	石川県	長野県	青森県	島根県	大阪府	宮崎県	三重県	大阪府	福岡県
少年女子	優勝	千葉県	兵庫県	千葉県	千葉県	千葉県	大阪府	福岡県	千葉県	大阪府	奈良県	千葉県	大阪府	広島県
	2位	鹿児島県	鹿児島県	愛媛県	兵庫県	東京都	熊本県	奈良県	熊本県	千葉県	群馬県	福岡県	山梨県	大阪府
	3位	福岡県	千葉県	群馬県	香川県	栃木県	愛知県	青森県	大阪府	熊本県	兵庫県	鳥取県	茨城県	石川県
	3位	三重県	福岡県	鹿児島県	鹿児島県	大阪府	千葉県	大分県	群馬県	長崎県	鳥取県	北海道	千葉県	沖縄県
成年男子	優勝	福岡県	鹿児島県	埼玉県	大阪府	静岡県	京都府	神奈川県	宮崎県	千葉県	千葉県	兵庫県	岡山県	東京都
	2位	千葉県	埼玉県	静岡県	東京都	東京都	東京都	埼玉県	山口県	岡山県	埼玉県	奈良県	奈良県	岡山県
	3位	奈良県	佐賀県	大阪府	兵庫県	北海道	広島県	京都府	大阪府	神奈川県	長崎県	山口県	東京都	奈良県
	3位	静岡県	福岡県	岡山県	長野県	栃木県	佐賀県	和歌山県	山形県	山口県	愛知県	鳥取県	山梨県	神奈川県
成年女子	優勝	三重県	東京都	埼玉県	兵庫県	兵庫県	兵庫県	埼玉県	兵庫県	兵庫県	奈良県	埼玉県	埼玉県	埼玉県
	2位	東京都	埼玉県	兵庫県	埼玉県	千葉県	千葉県	千葉県	東京都	千葉県	東京都	千葉県	山梨県	神奈川県
	3位	静岡県	新潟県	東京都	東京都	北海道	東京都	兵庫県	埼玉県	福島県	千葉県	東京都	東京都	愛知県
	3位	兵庫県	兵庫県	新潟県	福岡県	新潟県	北海道	東京都	千葉県	大阪府	埼玉県	鳥取県	千葉県	長野県
備考		①第３０回大会より高校男女が少年男女に種別名変更した。 ②第３０回大会より一般男女が成年男女に種別名変更した。												

回		43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56
年		昭和63年	平成元年	平成２年	平成３年	平成４年	平成５年	平成６年	平成７年	平成８年	平成９年	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年
開催県		京都府	北海道	福岡県	石川県	山形県	徳島県	愛知県	福島県	広島県	大阪府	神奈川県	熊本県	富山県	宮城県
会場		福知山市三段地公園テニスコート	苫小牧市緑が丘公園庭球場	県営名島運動公園庭球場	県営能登健民テニスコート	山形市総合スポーツセンターコート	徳島市大神子テニスセンター	一宮市テニス場	会津若松市会津総合運動公園ﾃﾆｽｺｰﾄ	因島運動公園テニスコート	大阪市マリンテニスパーク北村	小田原テニスガーデン・厚木市営南毛利テニスコート	熊本市県民総合運動公園ﾃﾆｽｺｰﾄ	高岡市テニスコート	仙台市青葉山公園庭球場
男女総合		京都府	東京都	福岡県	石川県	東京都	京都府 徳島県	愛知県	神奈川県	広島県	東京都	奈良県 広島県	広島県	広島県	和歌山県
女子総合		愛知県	東京都	福岡県	石川県	東京都	東京都	東京都	大阪府 広島県	大阪府	広島県	広島県	広島県	広島県	広島県
少年男子	優勝	神奈川県	神奈川県	奈良県	神奈川県	三重県	奈良県	神奈川県	三重県	奈良県	宮城県	埼玉県	宮城県	奈良県	奈良県
	2位	広島県	大阪府	石川県	奈良県	山形県	京都府	石川県	岐阜県	群馬県	長崎県	東京都	奈良県	神奈川県	和歌山県
	3位	東京都	香川県	福岡県	徳島県	奈良県	山梨県	三重県	奈良県	広島県	茨城県	三重県	鹿児島県	東京都	群馬県
	4位	京都府	福岡県	広島県	茨城県	大阪府	徳島県	福岡県	大分県	香川県	群馬県	佐賀県	京都府	栃木県	宮城県
少年女子	優勝	愛知県	広島県	福岡県	石川県	広島県	奈良県	三重県	広島県	和歌山県	福岡県	長野県	広島県	広島県	広島県
	2位	大阪府	岐阜県	熊本県	奈良県	東京都	大阪府	兵庫県	鹿児島県	広島県	三重県	広島県	長野県	石川県	和歌山県
	3位	長崎県	石川県	神奈川県	福岡県	大阪府	東京都	福岡県	大阪府	大阪府	長野県	群馬県	北海道	群馬県	静岡県
	4位	神奈川県	東京都	石川県	群馬県	奈良県	広島県	大阪府	熊本県	奈良県	奈良県	神奈川県	石川県	長野県	石川県
成年男子	優勝	千葉県	京都府	千葉県	岐阜県	京都府	京都府	京都府	愛知県	岡山県	京都府	京都府	広島県	広島県	和歌山県
	2位	京都府	岐阜県	東京都	千葉県	山口県	東京都	三重県	京都府	石川県	岡山県	岡山県	富山県	千葉県	富山県
	3位	奈良県	千葉県	岡山県	石川県	東京都	岡山県	福島県	神奈川県	千葉県	奈良県	奈良県	千葉県	富山県	京都府
	4位	岐阜県	岡山県	福岡県	宮崎県	長崎県	千葉県	愛知県	福島県	広島県	千葉県	神奈川県	岡山県	熊本県	群馬県
成年女子	優勝	埼玉県	埼玉県	埼玉県	石川県	兵庫県	兵庫県	兵庫県	東京都	東京都	東京都	広島県	愛知県	埼玉県	兵庫県
	2位	愛知県	千葉県	千葉県	京都府	埼玉県	東京都	東京都	兵庫県	大阪府	広島県	長崎県	広島県	富山県	広島県
	3位	兵庫県	京都府	兵庫県	埼玉県	京都府	京都府	神奈川県	大阪府	兵庫県	兵庫県	兵庫県	神奈川県	広島県	神奈川県
	4位	北海道	愛知県	京都府	兵庫県	神奈川県	石川県	愛知県	千葉県	広島県	大阪府	奈良県	香川県	長崎県	大阪府
成年２部	優勝	山口県	北海道	岐阜県	兵庫県	千葉県	香川県	愛知県	神奈川県						
	2位	大阪府	静岡県	長野県	北海道	山形県	徳島県	京都府	北海道						
	3位	長野県	愛媛県	埼玉県	東京都	岡山県	群馬県	静岡県	宮城県						
	4位	岩手県	宮崎県	福岡県	石川県	北海道	長野県	埼玉県	福島県						
備考		①第４３回から第５０回大会まで成年２部を行う（シニア男子４５、女子４５、男子５５編成） ②第４５回大会より全種別８位までの順位決定戦を行う。													

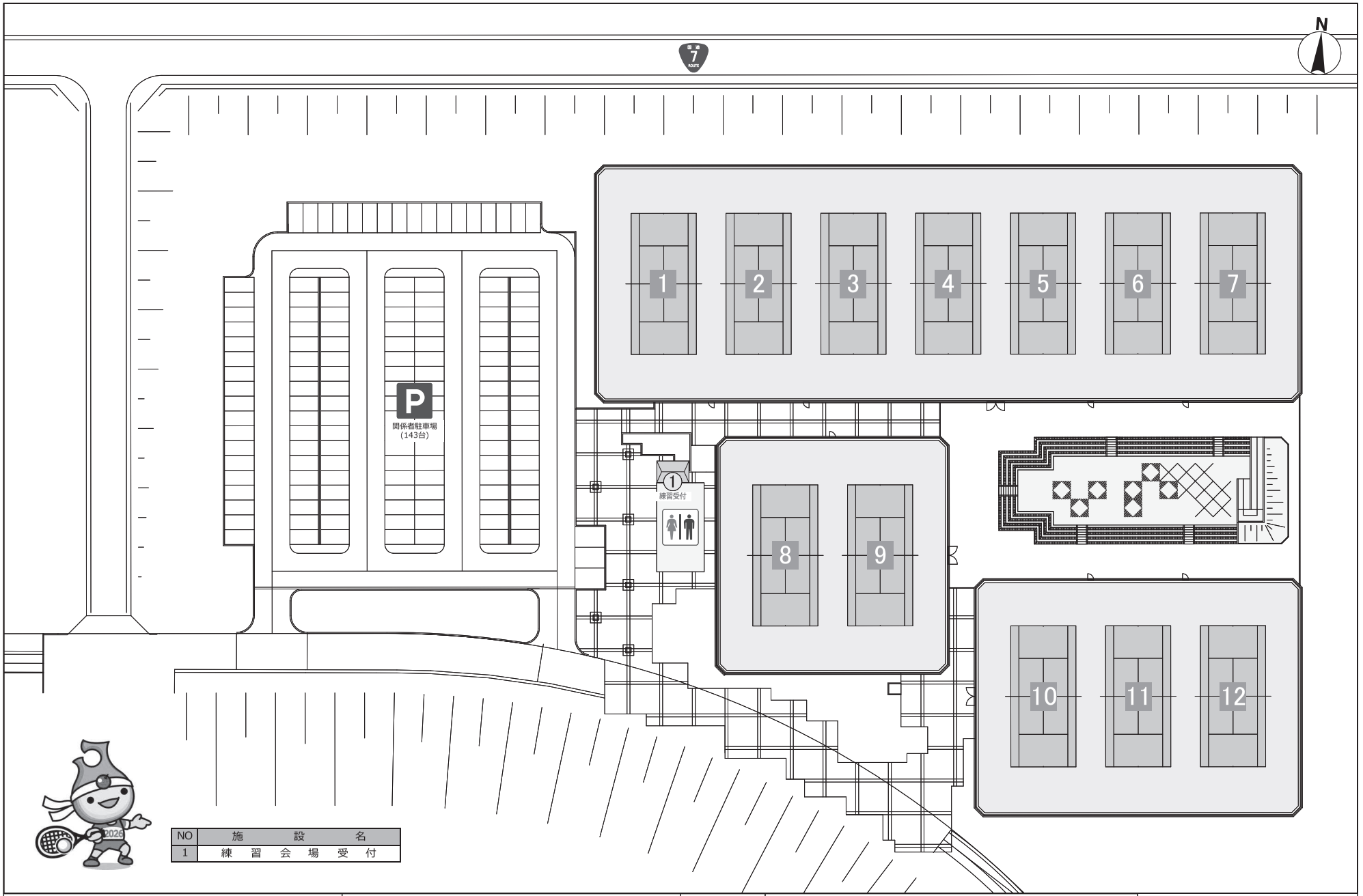
回		57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68
年		平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年
開催県		高知県	静岡県	埼玉県	岡山県	兵庫県	秋田県	大分県	新潟県	千葉県	山口県	岐阜県	東京都
会場		高知市 東部総合運動場 テニスコート	草薙総合運動場庭球場 有度山総合公園運動施設 テニスコート	狭山市 智光山公園 テニスコート	岡山市 浦安総合公園 テニスコート	姫路市立広畑テニスコート 吉川総合公園テニスコート	大館市 高館 テニスコート	大分市 大分スポーツ公園 テニスコート	上越総合運動公園 テニスコート 新潟市庭球場	白子町 白子サニー テニスコート	宇部マテ “フレッセラ” テニスコート	瑞浪市民 テニスコート 土岐市総合公園 テニスコート	世田谷区 総合運動場庭球場 大蔵第二運動場庭球場 駒沢オリンピック公園テニスコート
男女総合		広島県	広島県	広島県	広島県	神奈川県	奈良県	広島県	広島県	東京都	広島県	奈良県	東京都
女子総合		兵庫県 広島県	兵庫県 広島県	広島県	広島県	広島県	広島県	広島県	広島県	東京都	広島県	東京都	東京都
少年男子	優勝	奈良県	三重県	宮城県	三重県	愛媛県	奈良県	宮城県	奈良県	宮城県	大阪府	奈良県	山形県
	2位	宮城県	石川県	奈良県	宮城県	神奈川県	三重県	香川県	千葉県	千葉県	香川県	岡山県	香川県
	3位	岡山県	奈良県	岡山県	富山県	奈良県	大阪府	栃木県	三重県	奈良県	奈良県	岐阜県	宮城県
	4位	熊本県	千葉県	神奈川県	和歌山県	三重県	宮崎県	石川県	香川県	和歌山県	広島県	北海道	茨城県
少年女子	優勝	奈良県	広島県	広島県	岡山県	広島県	広島県	広島県	広島県	福岡県	広島県	東京都	東京都
	2位	大阪府	神奈川県	大阪府	三重県	和歌山県	和歌山県	岡山県	和歌山県	東京都	三重県	徳島県	広島県
	3位	群馬県	北海道	埼玉県	広島県	東京都	群馬県	和歌山県	新潟県	三重県	岡山県	広島県	福岡県
	4位	北海道	岡山県	愛知県	愛媛県	群馬県	埼玉県	香川県	岡山県	広島県	宮城県	福岡県	千葉県
成年男子	優勝	広島県	広島県	京都府	広島県	宮城県	奈良県	広島県	京都府	神奈川県	広島県	奈良県	奈良県
	2位	宮崎県	埼玉県	広島県	京都府	神奈川県	兵庫県	宮崎県	広島県	埼玉県	山口県	広島県	愛媛県
	3位	和歌山県	京都府	埼玉県	群馬県	千葉県	秋田県	宮城県	神奈川県	三重県	奈良県	神奈川県	宮崎県
	4位	京都府	奈良県	熊本県	埼玉県	群馬県	宮城県	長崎県	埼玉県	宮崎県	千葉県	三重県	熊本県
成年女子	優勝	兵庫県	兵庫県	広島県	兵庫県	香川県	京都府	東京都	東京都	東京都	広島県	兵庫県	東京都
	2位	神奈川県	千葉県	東京都	広島県	岡山県	東京都	千葉県	兵庫県	兵庫県	山口県	福岡県	兵庫県
	3位	広島県	富山県	長崎県	東京都	兵庫県	兵庫県	兵庫県	京都府	広島県	兵庫県	東京都	千葉県
	4位	福岡県	東京都	福岡県	石川県	奈良県	千葉県	広島県	徳島県	岡山県	千葉県	埼玉県	和歌山県
備考													

回		69	70	71	72	73	74	75	76	77	特別	78	79	80
年		平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和２年	令和３年	令和４年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年
開催県		長 崎 県	和歌山県	岩手県	愛媛県	福井県	茨城県	鹿児島県	三重県	栃木県	鹿児島県	佐賀県	滋賀県	青森県
会 場		佐世保市 総合グラウンド 庭球場	白浜町 テニスコート	和賀川 グリーンパーク テニスコート	八幡浜・大洲地区運動公園 テニスコート 今治市営 スポーツパーク テニスコート	武生中央公園 庭球場 福井市わかば テニスコート	磯原地区公園 テニスコート	東開庭球場	三重交通G スポーツの杜 鈴鹿 庭球場	石川スポーツグラウンド くろいそ テニスコート	東開庭球場	松浦河畔公園庭球場 佐賀県立唐津東高等学校・唐津東中学校テニスコート	長浜城テニスガーデン supported by HEISHIN	新青森県 総合運動公園 テニスコート
男女総合		千葉県 兵庫県	和歌山県	三重県	三重県	東京都 奈良県	東京都	—	—	群馬県	広島県	奈良県	宮崎県	
女子総合		千葉県 兵庫県	京都府	東京都	千葉県 東京都 新潟県	東京都	東京都	—	—	兵庫県	兵庫県	兵庫県 広島県	京都府	
少年男子	優勝	大阪府	香川県	三重県	奈良県	奈良県	奈良県	—	—	奈良県	香川県	奈良県	愛知県	
	2位	岡山県	奈良県	奈良県	島根県	北海道	香川県	—	—	香川県	千葉県	香川県	千葉県	
	3位	富山県	山形県	宮城県	山形県	宮城県	千葉県	—	—	宮城県	宮城県	宮崎県	宮城県	
	4位	群馬県	岡山県	島根県	宮城県	宮崎県	群馬県	—	—	千葉県	三重県	三重県	香川県	
少年女子	優勝	福岡県	和歌山県	東京都	東京都	東京都	東京都	—	—	兵庫県	広島県	広島県	宮城県	
	2位	三重県	三重県	広島県	三重県	福岡県	大阪府	—	—	三重県	兵庫県	岡山県	広島県	
	3位	兵庫県	兵庫県	三重県	神奈川県	京都府	宮城県	—	—	東京都	宮城県	三重県	京都府	
	4位	北海道	東京都	千葉県	和歌山県	埼玉県	大分県	—	—	和歌山県	三重県	石川県	大阪府	
成年男子	優勝	京都府	和歌山県	北海道	広島県	和歌山県	広島県	—	—	広島県	広島県	奈良県	広島県	
	2位	奈良県	千葉県	広島県	三重県	広島県	宮崎県	—	—	群馬県	佐賀県	石川県	宮城県	
	3位	山口県	奈良県	和歌山県	北海道	岡山県	岡山県	—	—	北海道	和歌山県	佐賀県	福井県	
	4位	石川県	岡山県	宮崎県	和歌山県	宮崎県	和歌山県	—	—	埼玉県	奈良県	大阪府	滋賀県	
成年女子	優勝	千葉県	千葉県	兵庫県	千葉県	東京都	東京都	—	—	愛知県	兵庫県	兵庫県	京都府	
	2位	岐阜県	京都府	福島県	京都府	広島県	広島県	—	—	群馬県	千葉県	京都府	福島県	
	3位	兵庫県	福島県	東京都	福島県	愛知県	愛知県	—	—	兵庫県	京都府	鹿児島県	青森県	
	4位	東京都	富山県	愛知県	兵庫県	福井県	福島県	—	—	京都府	岐阜県	青森県	山口県	
備考		①第７５回大会及び第７６回大会は、中止となった。												



NO	施設名
1	受付案内所
2	到着票・オーダー受付所
3	弁当引換所
4	選手・監督控所
5	一般観覧席
6	進行本部
7	記録本部
8	ボール管理委員
9	来賓・大会役員席
10	審判控所
11	実施本部
12	競技会係員控所
13	ボランティア控所
14	競技補助員控所
15	競技役員控所
16	メーカーテント
17	救護所
18	男子ロッカー・更衣室
19	女子ロッカー・更衣室
20	駐車場係員控所
21	コート主任席
22	競技運営本部
23	メディアブース
24	仮設トイレ
25	視察員・報道員控所
26	ドリンクコーナー
27	ゴミ集積所
28	選手集合所A（N1～N3）
29	選手集合所B（N4～N7）
30	選手集合所C（N8～N10）
31	選手集合所D（S1～S5）
32	選手集合所E（S6～S10）

青の煌めきあおもり国スポ・障スポ青森市実行委員会	青の煌めきあおもり国スポ 2026 翔けろ未来へ縄文の風に乗って 第80回国民スポーツ大会	競技名	第80回国民スポーツ大会 ソフトテニス競技会
		図面名	会場配置計画（新青森県総合運動公園_テニスコート）



青の煌めきあおもり国スポ・障スポ青森市実行委員会	青の煌めきあおもり国スポ 2026 翔けろ未来へ絣文の風に乗って 第80回国民スポーツ大会	競技名	第80回国民スポーツ大会 ソフトテニス競技会
		図面名	会場配置計画（練習会場_大進建設スポーツ広場）

アクセスマップ



新青森県総合運動公園

■電車・バス

・青い森鉄道「野内駅」下車、徒歩25分（約40分）

・青森市営バス青森駅②のりば　市バス「矢田・滝沢線」乗車「新総合運動公園前」下車（約40分）

■お車

・みちのく有料道路青森料金所から約15分（11.2km）

・青森自動車道　青森東ICから約5分（2.1km）

・青森駅から約25分（10.3km）

・新青森駅から約35分（14.4km）

・青森空港から約45分（20.6km）

青森県総合社会教育センター

■バス

・青森市営バス青森駅⑥のりば　「M43朝日放送」「M38南部工業団地」または市バス「浪岡線（空港経由）」乗車、「社会教育センター前」下車（約16分）

・青森市営バス青森駅⑥のりば　「M35浜田循環」乗車、「大野若宮」下車、徒歩8分（約25分）

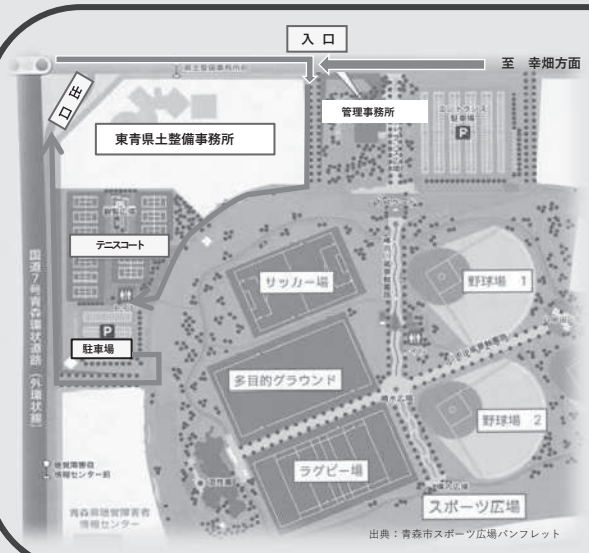
■お車

・青森自動車道　青森中央ICから約2分（2.1km）

・青森駅から約12分（4km）

・新青森駅から約20分（8.1km）

・青森空港から約11分（9.1km）



出典：青森市スポーツ広場パンフレット

大進建設スポーツ広場

■電車・バス

・青い森鉄道「筒井駅」下車、徒歩24分（約30分）

・青森市営バス青森駅③のりば　「J32横内環状」乗車、「上筒井」下車、徒歩15分（約40分）

・青森市営バス青森駅④のりば　「K32横内環状」行乗車、「妙見」下車、徒歩18分（約41分）

・青森市営バス青森駅④のりば　「K33学校教育センター」乗車、「地域整備部前」下車、徒歩6分（約31分）

■お車

・青森自動車道　青森中央ICから約6分（2.6km）

・青森駅から約20分（7.6km）

・新青森駅から約27分（11km）

・青森空港から約18分（12km）

※大会期間中、駐車場の入口から出口までの敷地内は一方通行です。進行方向をご確認の上、安全確保にご協力をお願いします。

関係機関連絡先一覧

◆市実行委員会事務局

名称	所在地	電話番号
青の煌めきあおもり国スポ・障スポ青森市実行委員会	青森市柳川二丁目１番１号	０１７－７６１－４４５８

◆競技会場

名称	所在地	電話番号
新青森県総合運動公園 テニスコート	青森市宮田高瀬２２番地２	０１７－７３７－０６１０

◆練習会場

名称	所在地	電話番号
大進建設スポーツ広場 テニスコート	青森市大矢沢野田８７番地４	０１７－７６４－５５２５

◆警察・消防署・保健所等

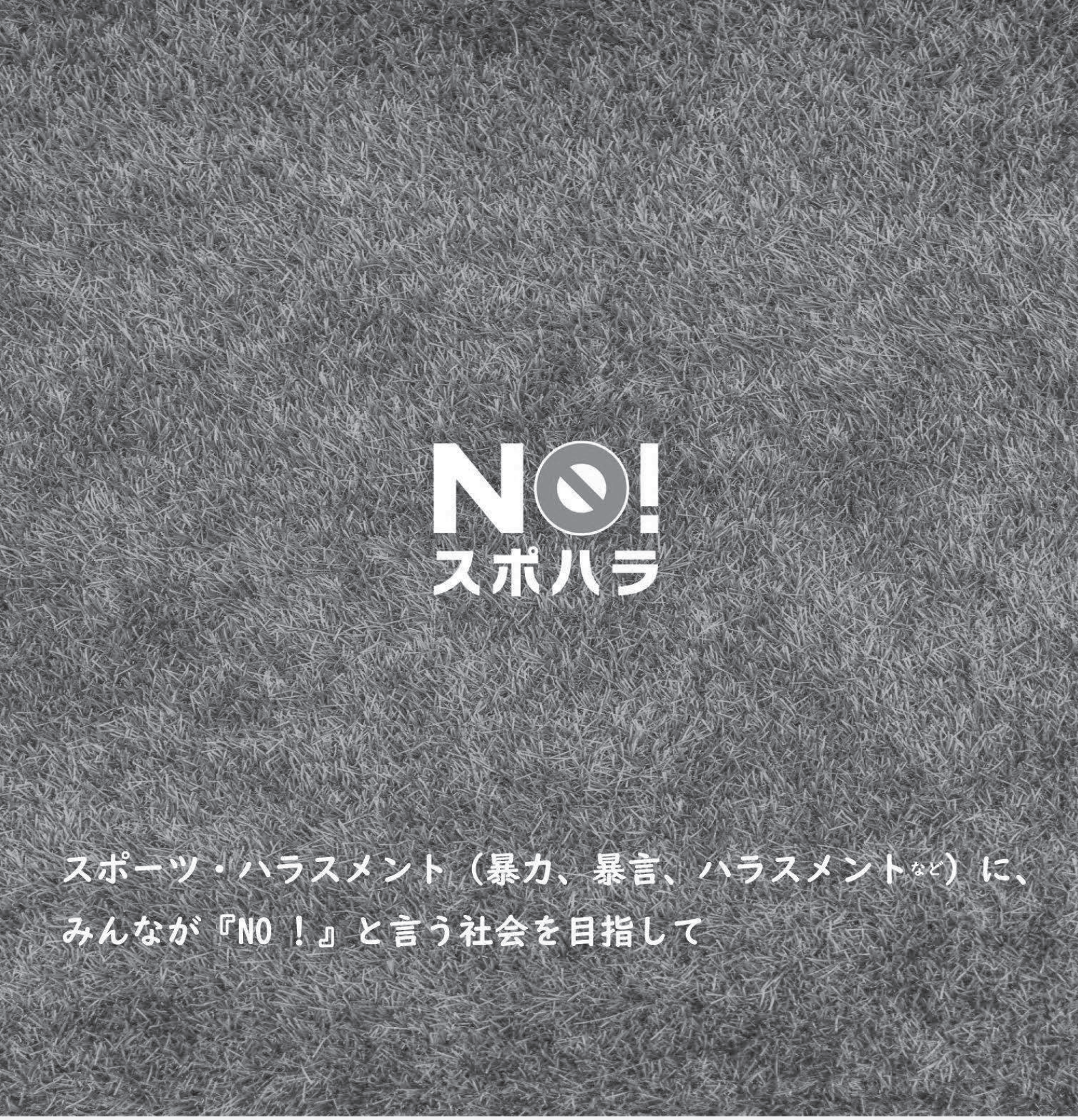
名称	所在地	電話番号
青森県警察　青森警察署	青森市安方二丁目１５番９号	０１７－７２３－０１１０
青森地域広域事務組合 消防本部	青森市長島二丁目１番１号	０１７－７７５－０８５３
青森市保健所	青森市佃二丁目１９番１３号	０１７－７６５－５２８０

〈青森市実行委員会公式サイト〉

名称	URL	二次元コード
青の煌めきあおもり国スポ・障スポ青森市実行委員会	https://www.aomoricity-kokuspo2026.jp/	

〈医療機関〉

名称	URL	二次元コード
医療情報ネット（ナビイ）	https://www.iryou.teikyouseido.mhlw.go.jp/znk-web/juminkanja/S2300/initialize	



スポーツ・ハラスメント（暴力、暴言、ハラスメントなど）に、
みんなが『NO！』と言う社会を目指して

『スポハラ（スポーツ・ハラスメント）』とは？

「スポハラ（スポーツ・ハラスメント）」とは、スポーツの現場において、「暴力」、「暴言」、「ハラスメント」、「差別」など“安全・安心にスポーツを楽しむことを害する行為”のことです。

指導者と指導を受ける者との関係のみならず、スポーツの現場における関係者の誰によっても、また誰に対してであっても、スポハラは起こりえます。

JSPO Japan Sport Association
TEAM JAPAN Japanese Olympic Committee
JPSA Japanese Para Sports Association
UNIVAS



JSPO
Japan Sport Association

スポーツと、望む未来へ。

わたしたちは、JAPAN GAMES を応援しています。

Otsuka 大塚製薬　Mizuno　三井住友海上 MS&AD INSURANCE GROUP

セレスポ　時事通信

FAIR PRIDE

勝利を超える価値がある

私たちは信じる。

正々堂々と競いあう潔さを。

相手をリスペクトすることで生まれる友情や感動を。

まっすぐ挑戦しつづける、そこに、

自分や、仲間や、社会さえ変える力があることを。

さあ、すべては、私たちの中にある

フェアネスの心からはじまる。

スポーツのフェアネスが、社会のフェアネスを支えるために。

JADA PLAY TRUE
Japan Anti-Doping Agency

青の煌めきあおもり国スポ 2026
翔けろ未来へ縄文の風に乗って
第80回国民スポーツ大会

公益財団法人 日本アンチ・ドーピング機構

スポーツ庁委託事業
Copyright © JAPAN Anti-Doping Agency All Rights Reserved.
Ver.201903

MIZUNO SPORTS PROMOTION FOUNDATION

1970 ▷▷▷▷▷ 56TH ▷▷▷▷▷ 2026










スポーツを愛する人たちへ

私たち、ミズノスポーツ振興財団は、

スポーツの普及、振興に必要な事業を行い、

スポーツを愛する人たちを応援しています。

公益財団法人
ミズノスポーツ振興財団

青森市協賛企業・団体のご紹介

（順不同・敬称略）

青森トヨタ自動車株式会社
青森三菱自動車販売株式会社
株式会社マツダアンフィニ青森
有限会社タイムプラン
青森市新町商店街振興組合
創創舎
有限会社オフィスオー・シー
青森市緑化事業協同組合
青森市造園協同組合
株式会社テクノル
株式会社オカモト
青森市アメニティ事業協同組合
A・Zコーポレーション株式会社
合同会社丸髙興業

青森県産米需要拡大推進本部
ヤマモト食品株式会社
鐘屋産業株式会社
二分団ねぶた会
株式会社アイティフォー
青森おでんの会
大和リース株式会社
一般社団法人公縁クロス機構
株式会社吉田工機
株式会社Sky Next
赤平設備工業株式会社
大塚製薬株式会社ニュートラシューティカルズ事業グループ東北支店

株式会社エイ・ワンド
有限会社松栄堂
小田桐錦石研究所合同会社
成邦商事株式会社
株式会社しじみちゃん本舗

株式会社CUTE UP
株式会社翁屋
全国農業協同組合連合会青森県本部
イオン東北株式会社

私たちは、青の煌（きら）めきあおもり国スポ・障スポ
青森市開催競技を応援しています！

青の煌（きら）めきあおもり国スポ・障スポ
2026 AOMORI CITY

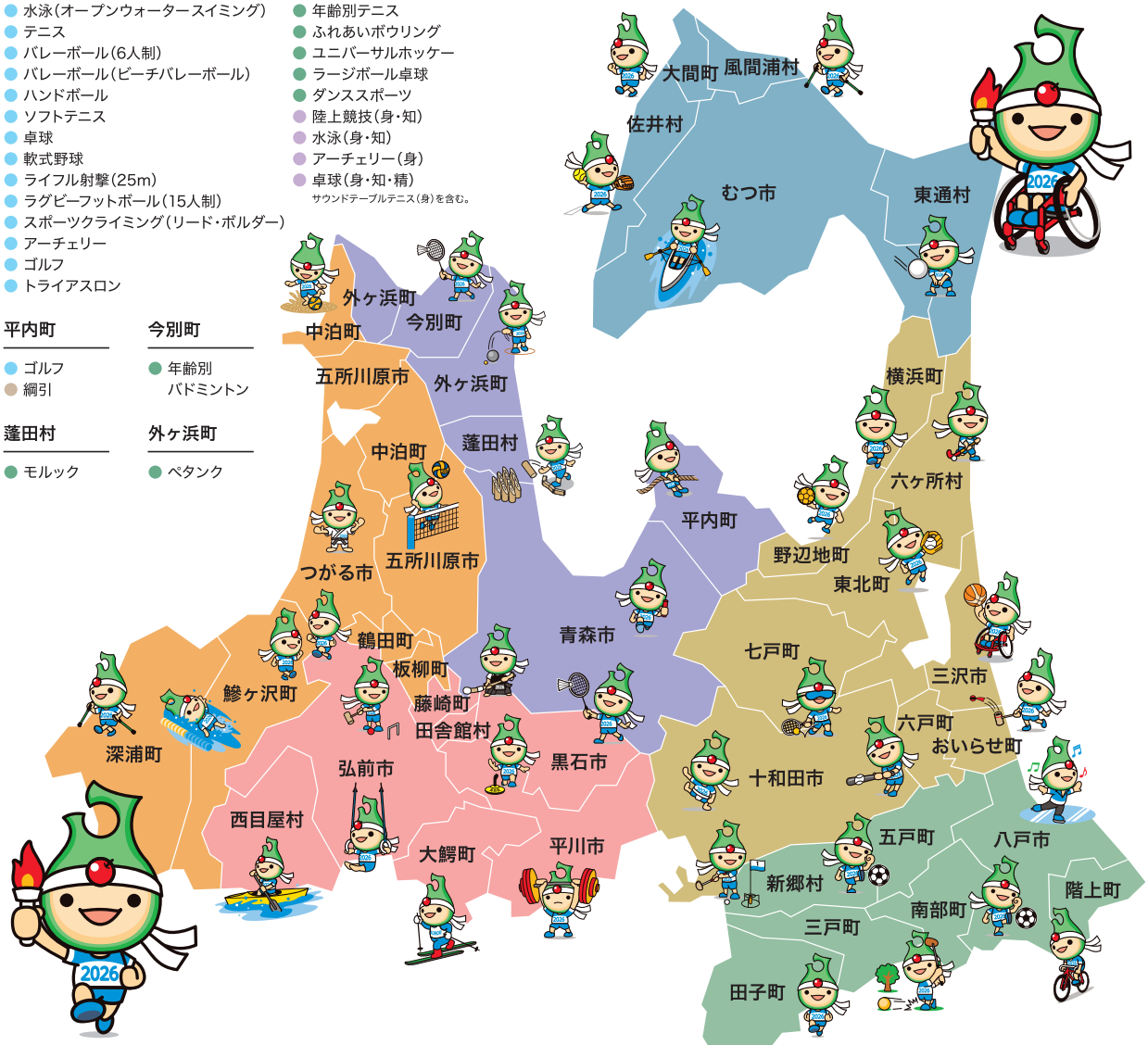
競技会場地マップ Venue map

県内全40市町村と県外3市町において、国スポ・障スポ合わせて104競技を開催！

国スポ：正式競技（37）／特別競技（1）／公開競技（7）／デモンストレーションスポーツ（39）／冬季正式競技（3）

障スポ：正式競技（14）／オープン競技（3）

（身）身体障がい者が出場できる競技　（知）知的障がい者が出場できる競技
（精）精神障がい者が出場できる競技



東青地域

青森市

- 国スポ総合開・閉会式
- 障スポ開・閉会式
- 陸上競技
- 水泳（競泳）
- 水泳（水球）
- 水泳（アーティスティックスイミング）
- 水泳（オープンウォータースイミング）
- テニス
- バレーボール（6人制）
- バレーボール（ビーチバレーボール）
- ハンドボール
- ソフトテニス
- 卓球
- 軟式野球
- ライフル射撃（25m）
- ラグビーフットボール（15人制）
- スポーツクライミング（リード・ボルダー）
- アーチェリー
- ゴルフ
- トライアスロン
- ウォークビンゴ
- カーリング
- ソフトバレーボール
- ターゲット・バードゴルフ
- ドッジボール
- 年齢別ソフトテニス
- 年齢別テニス
- ふれあいボウリング
- ユニバーサルホッケー
- ラージボール卓球
- ダンススポーツ
- 陸上競技（身・知）
- 水泳（身・知）
- アーチェリー（身）
- 卓球（身・知・精）
  サウンドテーブルテニス（身）を含む。

平内町

- ゴルフ
- 綱引

今別町

- 年齢別バドミントン

蓬田村

- モルック

外ヶ浜町

- ペタンク

下北地域

むつ市

- ローイング
- バスケットボール
- セーリング
- フェンシング
- フライングディスク
- バスケットボール（知）

大間町

- ウオーキング

風間浦村

- ノルディックウォーキング

東通村

- ソフトバレーボール

佐井村

- ふれあいソフトボール

上北地域

十和田市

- サッカー
- バスケットボール
- 相撲
- ゲートボール
- パウンドテニス
- パークゴルフ
- Let's Enjoy バウンドテニス
- バレーボール（身）

三沢市

- ホッケー
- バスケットボール
- 軟式野球
- ソフトボール
- 銃剣道
- 武術太極拳
- いきいき太極拳
- スケート（ショートトラック）
- アイスホッケー
- ボウリング（知）
- 車いすバスケットボール（身）
- デフボウリング（身）

野辺地町

- ハンドボール

七戸町

- 剣道
- ブラインドテニス（身）

六戸町

- 軟式野球

横浜町

- マラソン

東北町

- ソフトボール
- 女子ソフトボール
- ソフトボール（知）

六ヶ所村

- ホッケー
- 軟式野球

おいらせ町

- 軟式野球
- スポーツチャンバラ
- ファイン・ボール
- ブラインドベースボール（身）
- ファイン・ボール（身）

西北地域

五所川原市

- バレーボール（6人制）
- バレーボール（精）

つがる市

- バレーボール（6人制）
- 柔道
- バレーボール（知）

鰺ヶ沢町

- マスターズスイミング

深浦町

- ノルディックウォーキング

板柳町

- ふれあいゲートボール
- ウオーキング

鶴田町

- マラソン&ウォーキング

中泊町

- ビーチサッカー

中南地域

弘前市

- 体操（競技）
- 体操（新体操）
- 体操（トランポリン）
- ソフトボール
- 弓道（近的・遠的）
- ライフル射撃（50m、10m、BR・BP）
- 空手道
- クレー射撃（トラップ・スキート）
- 高等学校野球（硬式・軟式）
- マスターズ陸上競技
- ビリヤード
- フライングディスク（身・知）
- ボッチャ（身）

黒石市

- バドミントン

西目屋村

- カヌー（スプリント）
- カヌー（スラローム・ワイルドウォーター）

大鰐町

- パラグライディング
- オリエンテーリング
- スキー（ジャイアントスラローム）
- スキー（クロスカントリー）

平川市

- ウエイトリフティング
- グラウンド・ゴルフ
- エアロビック
- インディアカ

藤崎町

- なぎなた
- パワーリフティング
- スポーツウエルネス吹矢

田舎館村

- ユニカール

三八地域

八戸市

- サッカー
- バスケットボール
- レスリング
- 自転車（トラックレース）
- ソフトボール
- ラグビーフットボール（7人制）
- ボウリング
- 空道
- スケート（スピード）
- スケート（フィギュア）
- アイスホッケー
- サッカー（知）
- フットソフトボール（知）

三戸町

- パークゴルフ

五戸町

- サッカー

田子町

- マラソン

南部町

- サッカー

階上町

- 自転車（ロードレース）
- フロアボール

新郷村

- エンジョイ！グラウンド・ゴルフ

県外

宮城県利府町

- 水泳（飛込）

山梨県北杜市

- 馬術

秋田県鹿角市

- スキー（スペシャルジャンプ）
- スキー（コンバインド）

青の煌めきあおもり国スポ

翔けろ未来へ縄文の風に乗って



競技記録・速報二次元コード

PC・スマホ

フィーチャーフォン
（ガラケー）

第80回国民スポーツ大会　**ソフトテニス競技会**

青の煌めきあおもり国スポ・障スポ青森市実行委員会